

# 北九州市介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査報告書

令和2年5月

北九州市保健福祉局介護保険課

# 目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象者	1
3 調査件数	1
4 調査方法	1
5 調査項目	1
6 調査実施期間	1
7 回収状況	1
8 調査の企画・実施等	1
9 集計・分析上の注意事項	2
第2章 回答者の属性	3
1 性別	3
2 年齢	3
3 家族構成	4
4 暮らし向き	4
第3章 評価項目別の結果	5
1 生活機能	5
（1）運動機能の状況	5
（2）口腔機能の状況	7
（3）閉じこもり傾向	11
（4）認知機能（物忘れ）の状況	17
2 うつの傾向	19
3 転倒リスクの状況	21
4 手段的日常生活動作（IADL）	23
第4章 日常生活	25
1 交流の場への参加状況	25
2 たすけあいについて	45
3 認知症に係る相談	53
第5章 健康・疾病	57
1 疾病	57
2 主観的健康感	70
第6章 介護	
1 介護・介助の状況	74

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

要介護状態になる前の高齢者について、

- ・要介護状態になる各種リスクの発生状況（心身の状態など）
  - ・各種リスクに影響を与える日常生活の状況（生活習慣など）
- などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的とする。

### 2 調査対象者

令和元年9月1日時点で市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援者。

### 3 調査件数

2,000件

（	一般高齢者：1,000件	）
（	要支援者：1,000件	）

### 4 調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

### 5 調査項目

厚生労働省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。

※生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する項目35問。

### 6 調査実施期間

令和2年1月10日（金）～令和2年1月31日（金）

### 7 回収状況

回答数：1,361件（回答率：68.1%）

（	一般高齢者	：662件（回答率：66.2%）	）
（	要支援者	：699件（回答率：69.9%）	）

### 8 調査の企画・実施等

調査企画及び分析：北九州市保健福祉局介護保険課

調査実施及び集計：株式会社 サーベイリサーチセンター

## 9 集計・分析上の注意事項

- ・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。また複数回答の設問については、合計は原則として100%を超える。
- ・クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
- ・基本的に日常生活圏域ごとに集計・分析している。

※日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の24圏域が設定されている。

表 1-1 北九州市の日常生活圏域

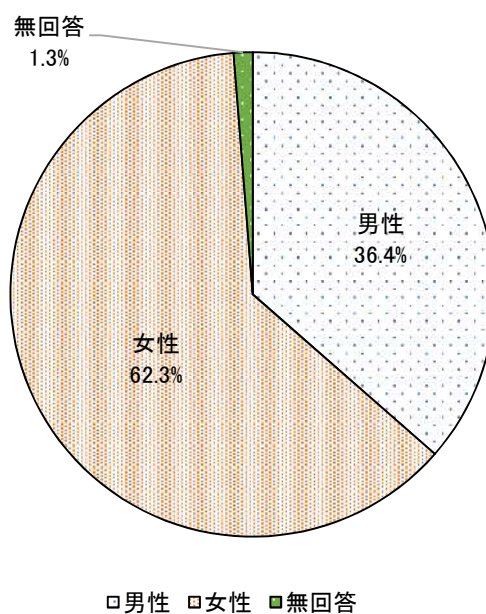
日常生活圏域	小 学 校 区(目安)
門司 1	大積、白野江、柄杓田、松ヶ江北、松ヶ江南
門司 2	小森江東、田野浦、港が丘、門司海青、門司中央
門司 3	小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ヶ丘、藤松
小倉北 1	足原、霧丘(小倉南区を除く)、桜丘、寿山、富野
小倉北 2	藍島、足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、城野(小倉南区を除く)
小倉北 3	到津、井堀、中井、西小倉、日明、高見(八幡東区を除く)
小倉北 4	泉台、今町、清水、南丘(小倉南区を除く)、南小倉
小倉南 1	朽網、曾根、曾根東、田原、貫、東朽網
小倉南 2	葛原、高蔵、沼、湯川、吉田
小倉南 3	北方、城野(小倉北区を除く)、横代、若園、霧丘(小倉北区を除く)
小倉南 4	企救丘、広徳、志井、徳力、長尾、守恒、南丘(小倉北区を除く)
小倉南 5	市丸、合馬、長行、新道寺、すがお
若松 1	赤崎、小石、修多羅、深町、藤木、古前、若松中央
若松 2	青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、ひびきの(八幡西区を除く)
八幡東 1	祝町、枝光、高槻、高見(小倉北区を除く)、槻田、ひびきが丘
八幡東 2	大蔵、河内、皿倉、花尾(八幡西区を除く)、八幡
八幡西 1	赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞、ひびきの(若松区を除く)
八幡西 2	永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝
八幡西 3	青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野
八幡西 4	黒畑、黒崎中央、筒井、鳴水、花尾(八幡東区を除く)
八幡西 5	大原、上津役、塔野、中尾、八児
八幡西 6	池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘
戸畑 1	あやめが丘、戸畑中央、中原
戸畑 2	一枝、大谷、鞆ヶ谷、天籟寺、牧山

## 第2章 回答者の属性

### 1 性別

	回答者数	構成比率
男性	496	36.4%
女性	848	62.3%
無回答	17	1.3%
全体	1,361	100%

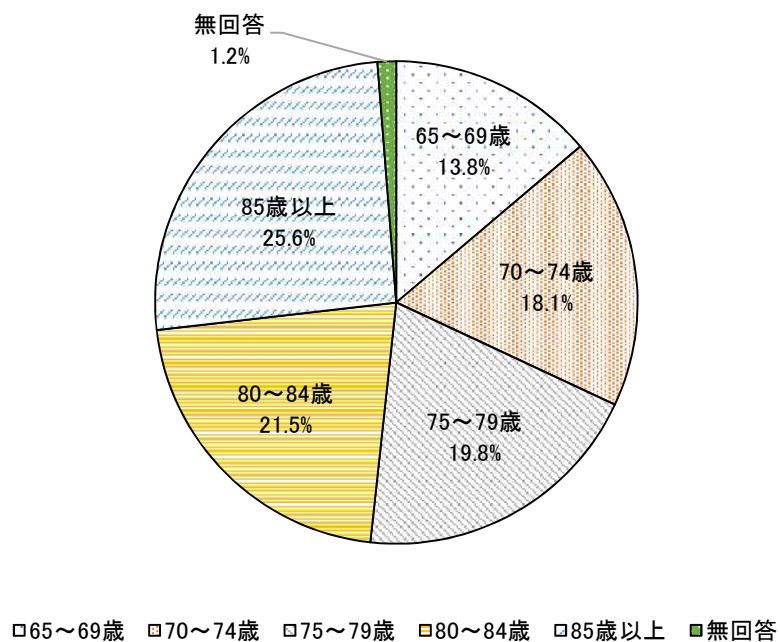
図2-1 性別



### 2 年齢

	回答者数	構成比率
65～69歳	188	13.8%
70～74歳	247	18.1%
75～79歳	269	19.8%
80～84歳	292	21.5%
85歳以上	348	25.6%
無回答	17	1.2%
全体	1,361	100%

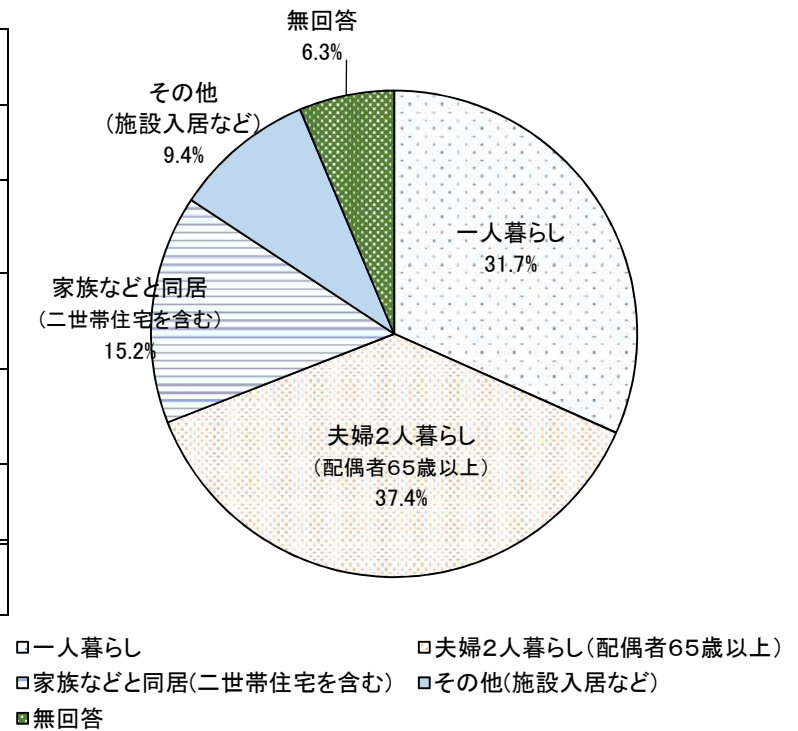
図2-2 年齢



### 3 家族構成

	回答者数	構成比率
一人暮らし	431	31.7%
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	509	37.4%
家族など同居 (二世帯住宅を含む)	207	15.2%
その他 (施設入居など)	128	9.4%
無回答	86	6.3%
全体	1,361	100%

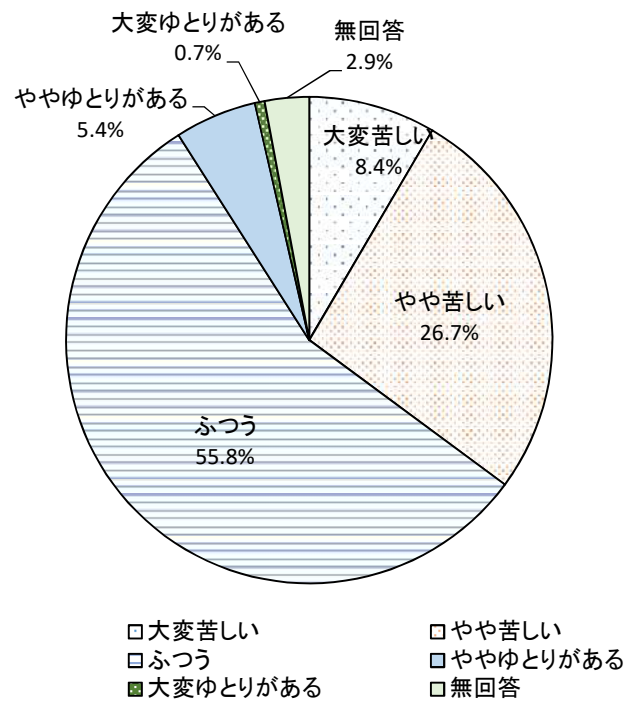
図2-3 家族構成



### 4 暮らし向き

	回答者数	構成比率
大変苦しい	115	8.4%
やや苦しい	363	26.7%
ふつう	760	55.8%
ややゆとりがある	74	5.4%
大変ゆとりがある	9	0.7%
無回答	40	2.9%
全体	1,361	100%

図2-4 暮らし向き



### 第3章 評価項目別の結果

#### 1 生活機能

##### (1) 運動機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-1 に示した5つの設問に対する回答結果により、運動機能の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 38.0%である。男女別にみると、男性が 28.6%、女性が 43.8%であり、女性の方が 15.2 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 64.4%が該当している。

図3-1-① 運動機能の状況【全域】

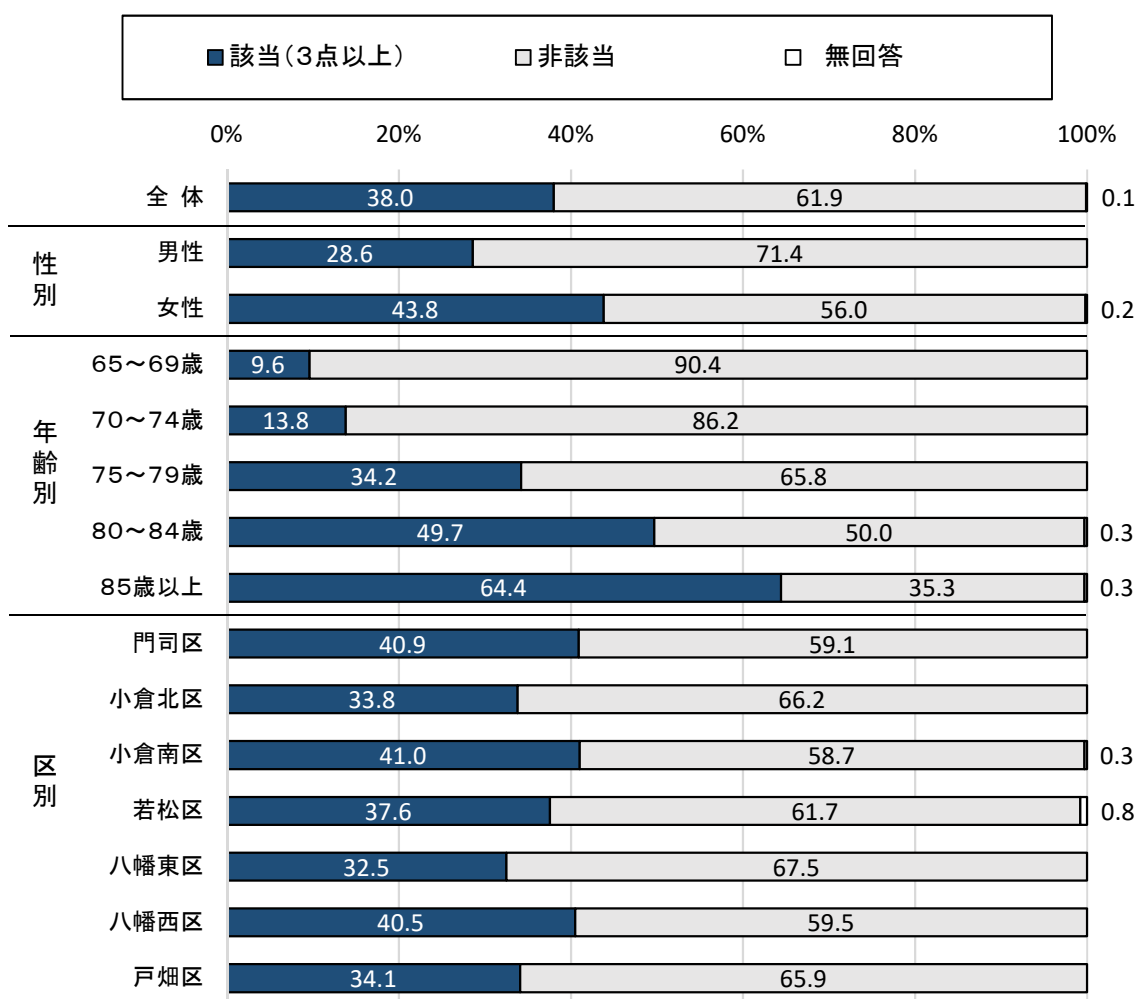


図3-1-② 運動機能の状況【日常生活圏域別】

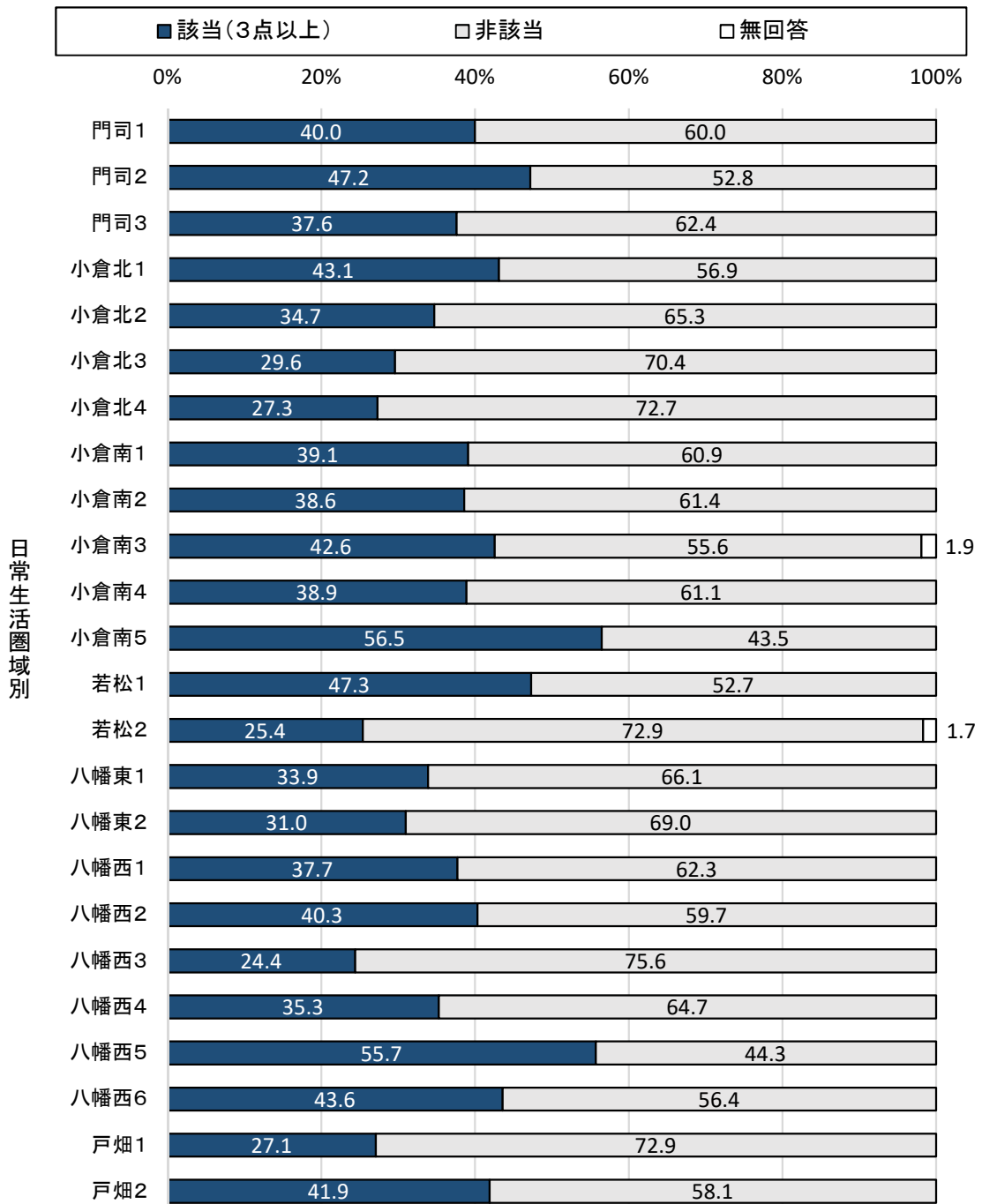


表 3-1 評価に用いた設問と評価基準(運動機能の状況)

設 問		配 点	評価基準
問 2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	いいえ(1点)	3点以上が リスク該当者
問 2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	いいえ(1点)	
問 2-Q3	15分位続けて歩いていますか	いいえ(1点)	
問 2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	はい(1点)	
問 2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	はい(1点)	



## (2) 口腔機能の状況

### ア 咀嚼機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-2 に示した設問に対する回答結果により、咀嚼機能の低下リスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 43.7%である。男女別にみると、男性が 41.8%、女性が 45.2%であり、女性の方が 3.4 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 54.6%で最も高くなっている。

図3-2-① 咀嚼機能の低下【全域】

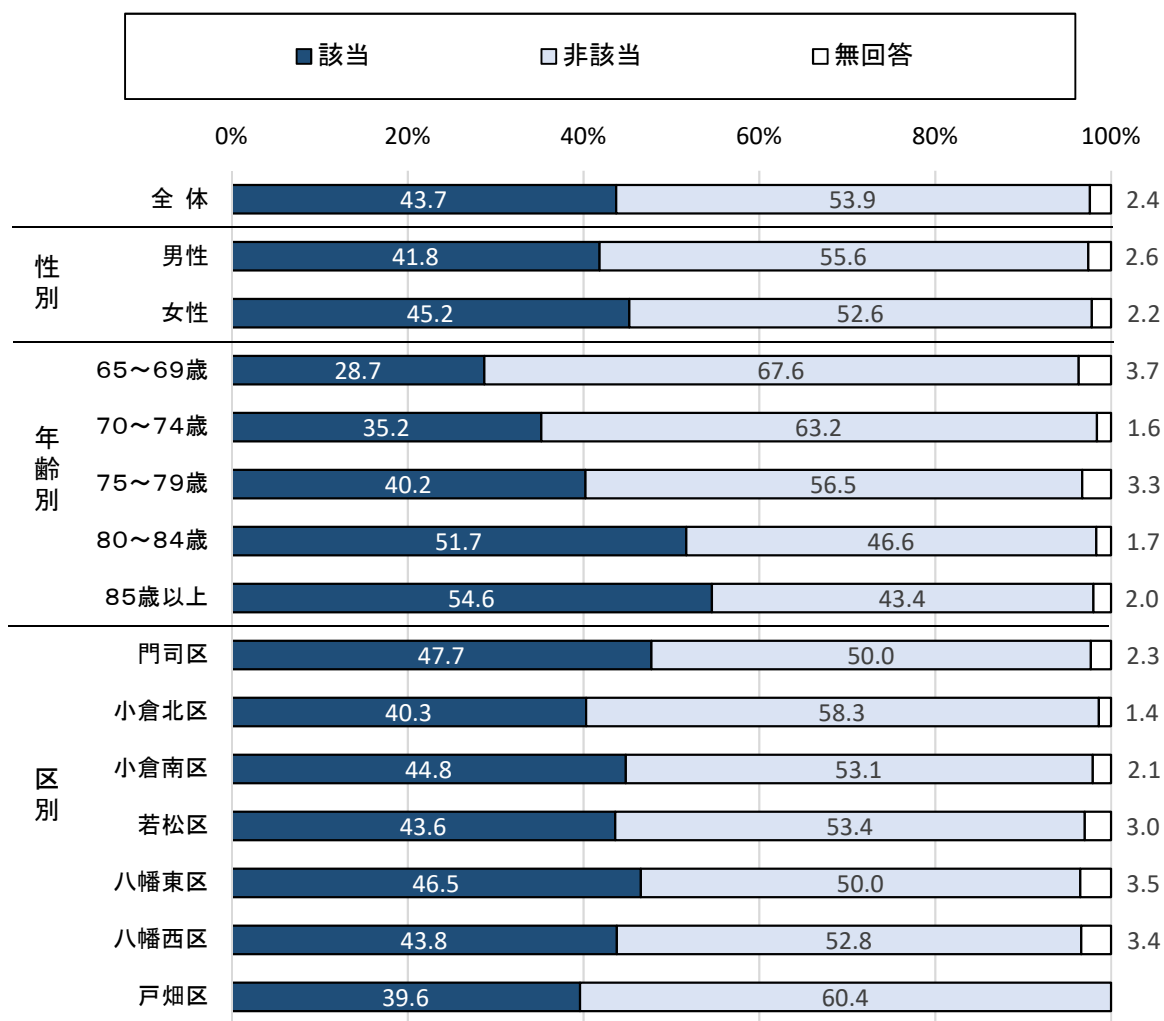


図3-2-② 咀嚼機能の低下【日常生活圏域別】

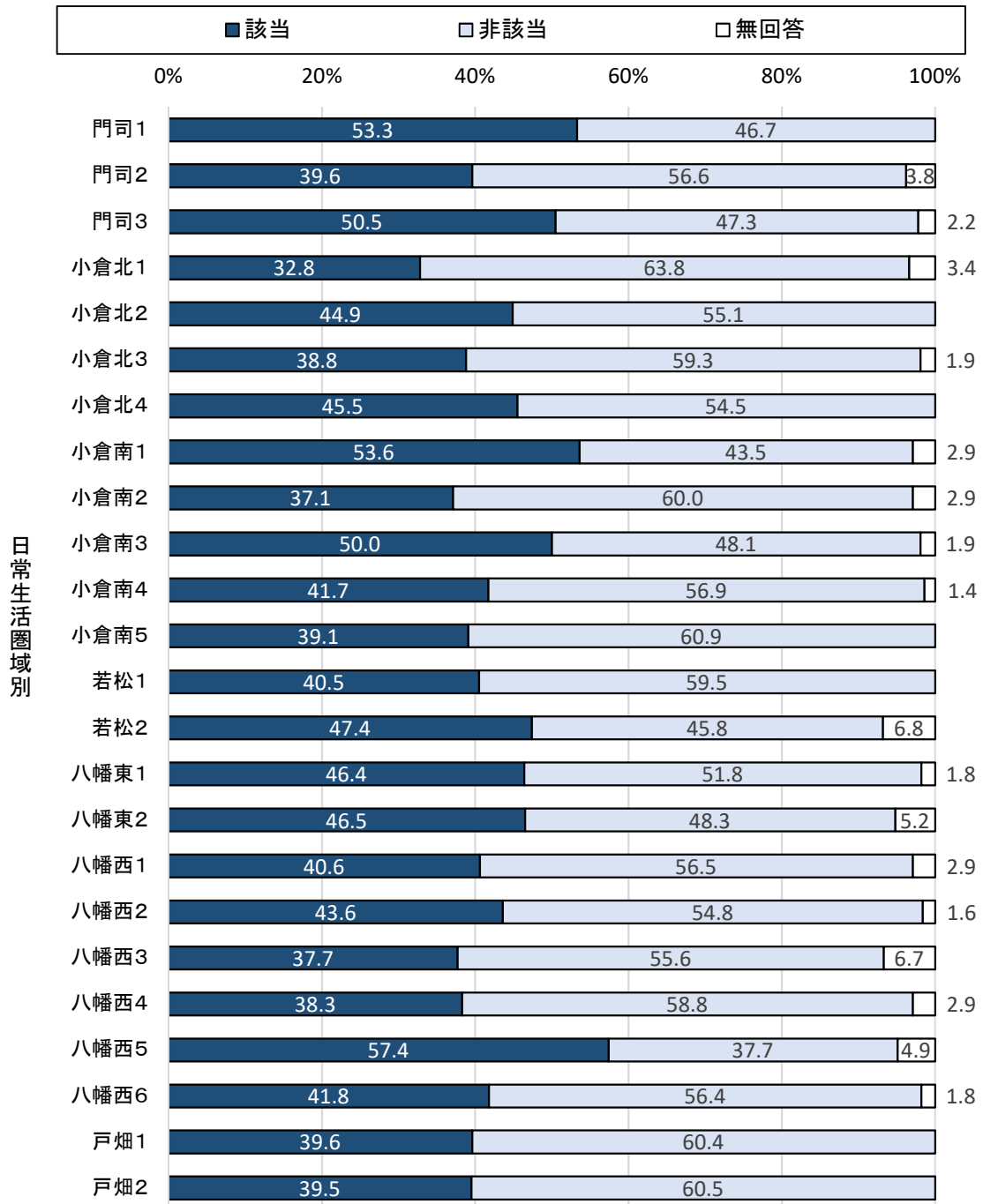


表 3-2 評価に用いた設問と評価基準(咀嚼機能の低下)

設 問		配 点	評価基準
問 3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	はい(1点)	1点で リスク該当者

イ 義歯の有無と歯数

問3-Q3 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

自分の歯の数と入れ歯の利用状況を尋ねたところ、市全体でみると「歯数は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が44.8%で最も高く、次いで「歯数は20本以上、入れ歯の利用なし」28.1%、「歯数は20本以上、かつ入れ歯を利用」13.3%、「歯数は19本以下、入れ歯の利用なし」9.8%の順となっている。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「歯数が19本以下」の割合が高くなり、「歯数が20本以上」の割合が低くなっている。

図3-3-① 歯の数と入れ歯の利用状況【全域】

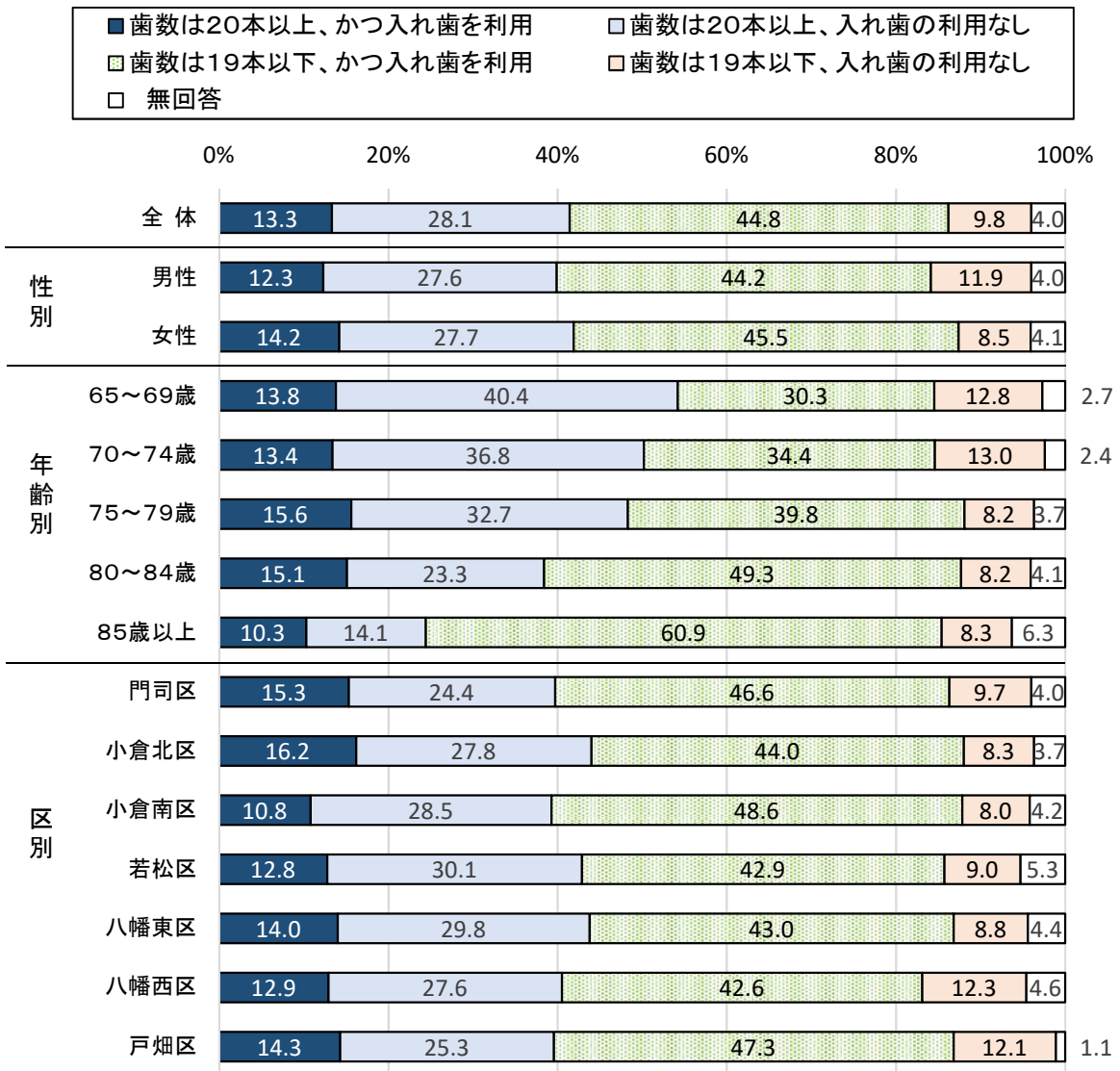
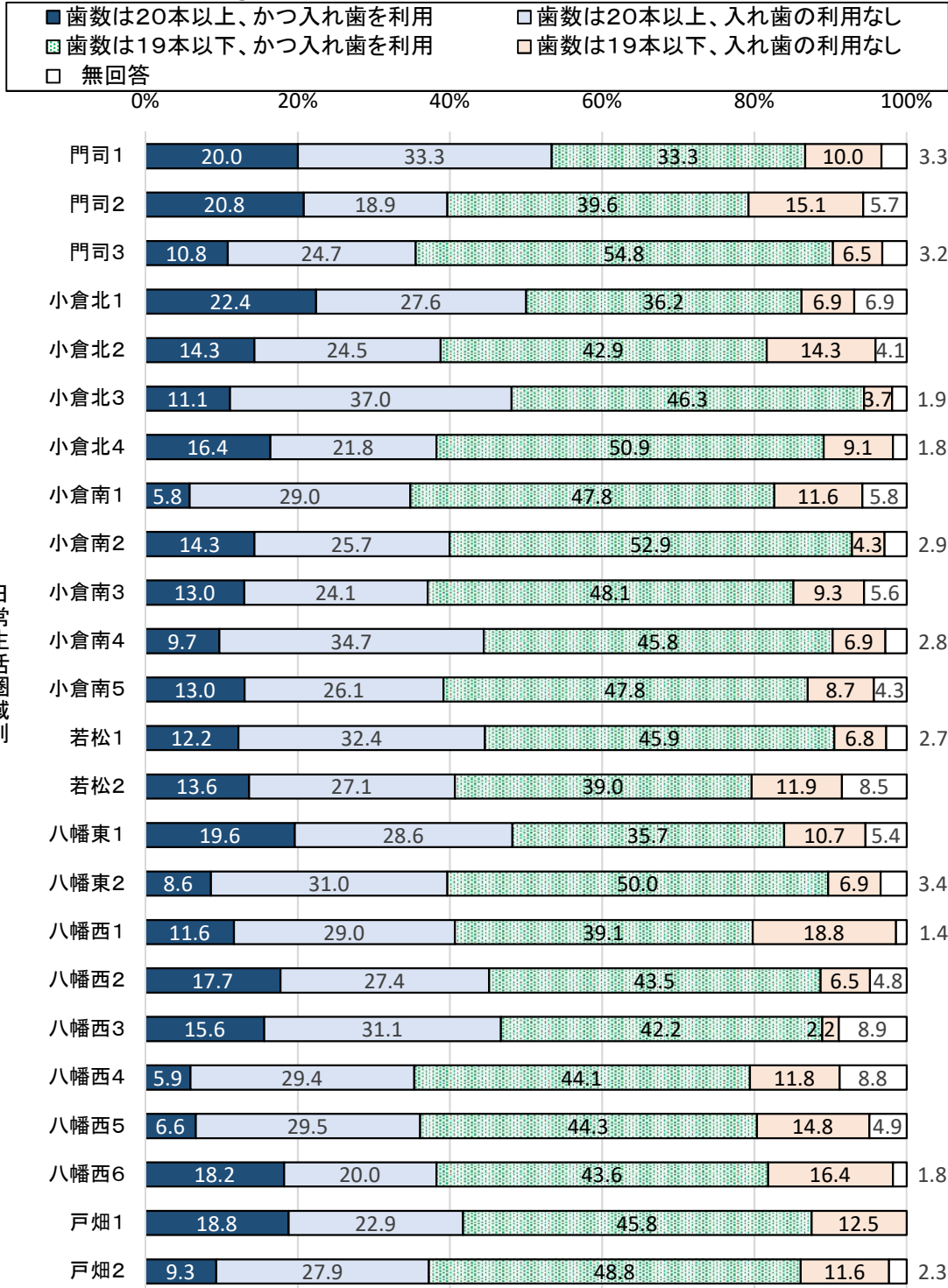


図3-3-② 歯の数と入れ歯の利用状況【日常生活圏域別】



### (3) 閉じこもり傾向

#### ア 外出の機会

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-4 に示した設問に対する回答結果により、閉じこもりになるリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 25.6%である。男女別にみると、男性が 22.2%、女性が 27.5%であり、女性の方が 5.3 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 46.3%で最も高くなっている。

図3-4-① 閉じこもり傾向 【全域】

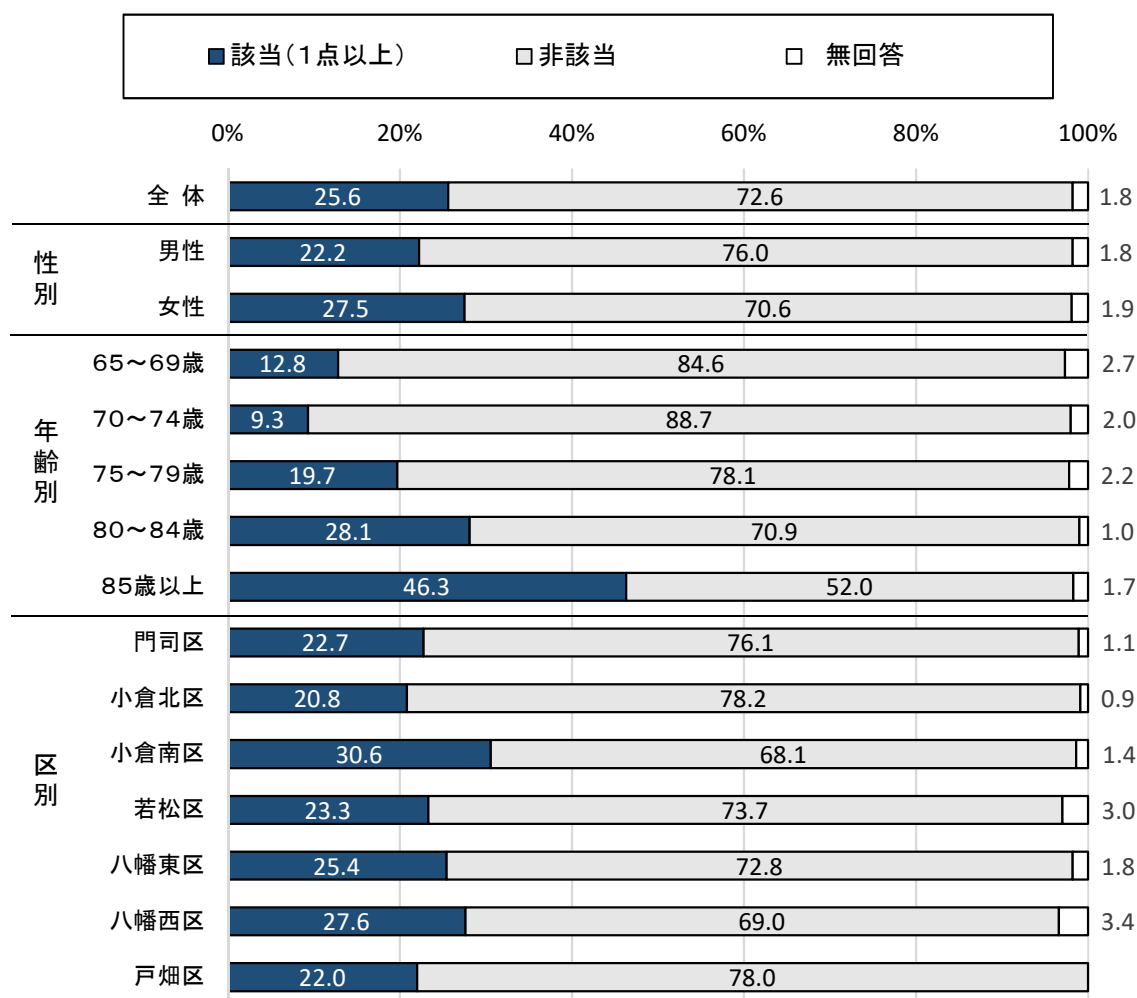


図3-4-② 閉じこもり傾向 【日常生活圏域別】

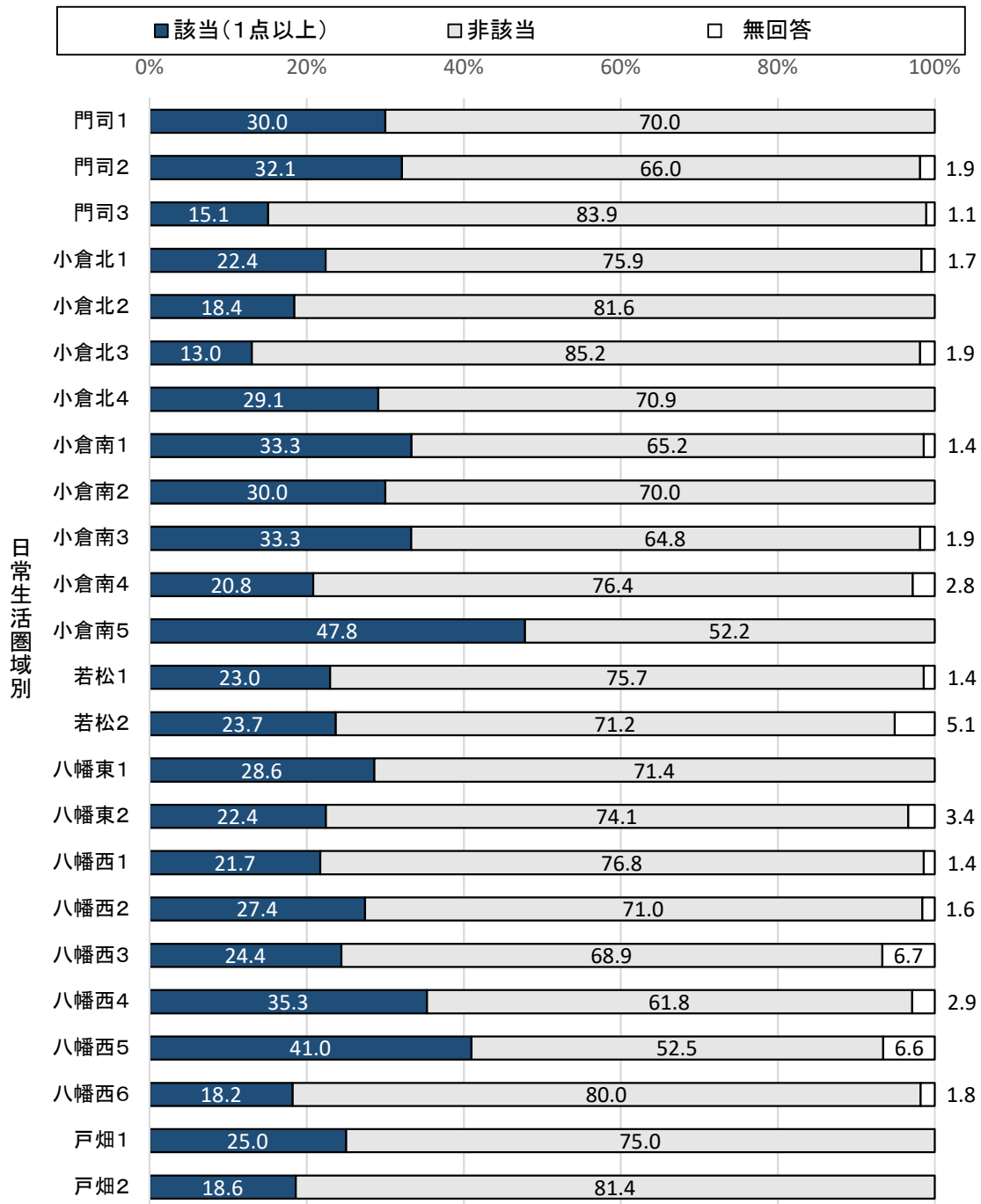


表 3-4 評価に用いた設問と評価基準(閉じこもり傾向)

設 問		配 点	評価基準
問 2-Q6	週に1回以上は外出していますか	週1回以下(1点)	1点で リスク該当者

## イ 外出回数の減

問2-Q7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかを尋ねたところ、市全体でみると「減っている」と回答した割合が71.6%となっている。「減っている」割合を男女別にみると、男性が64.9%、女性が75.4%となっており、女性の方が10.5ポイント高い。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「減っている」の割合が高くなり、85歳以上が86.8%で最も高くなっている。

図3-5-① 外出回数の減【全域】

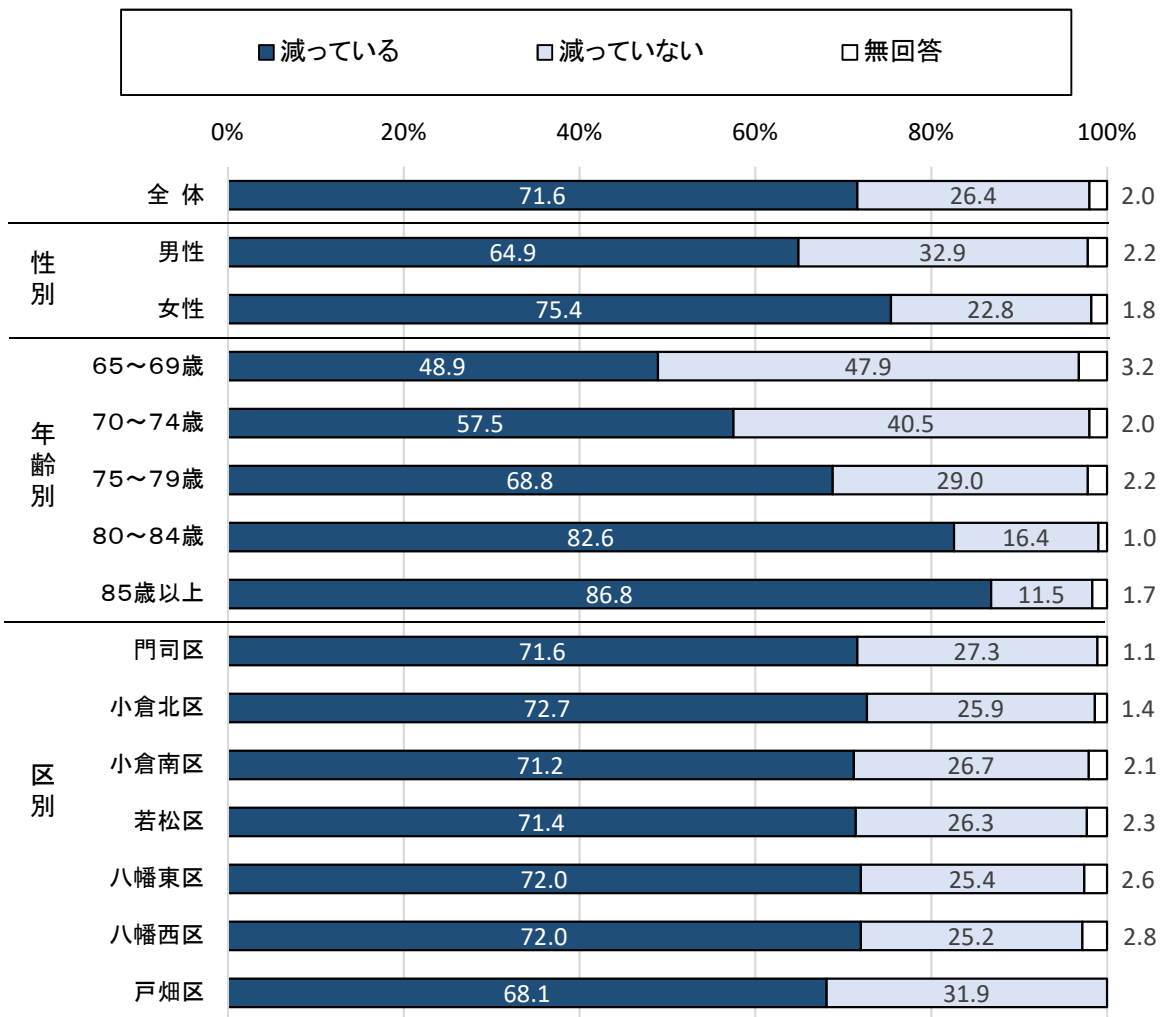
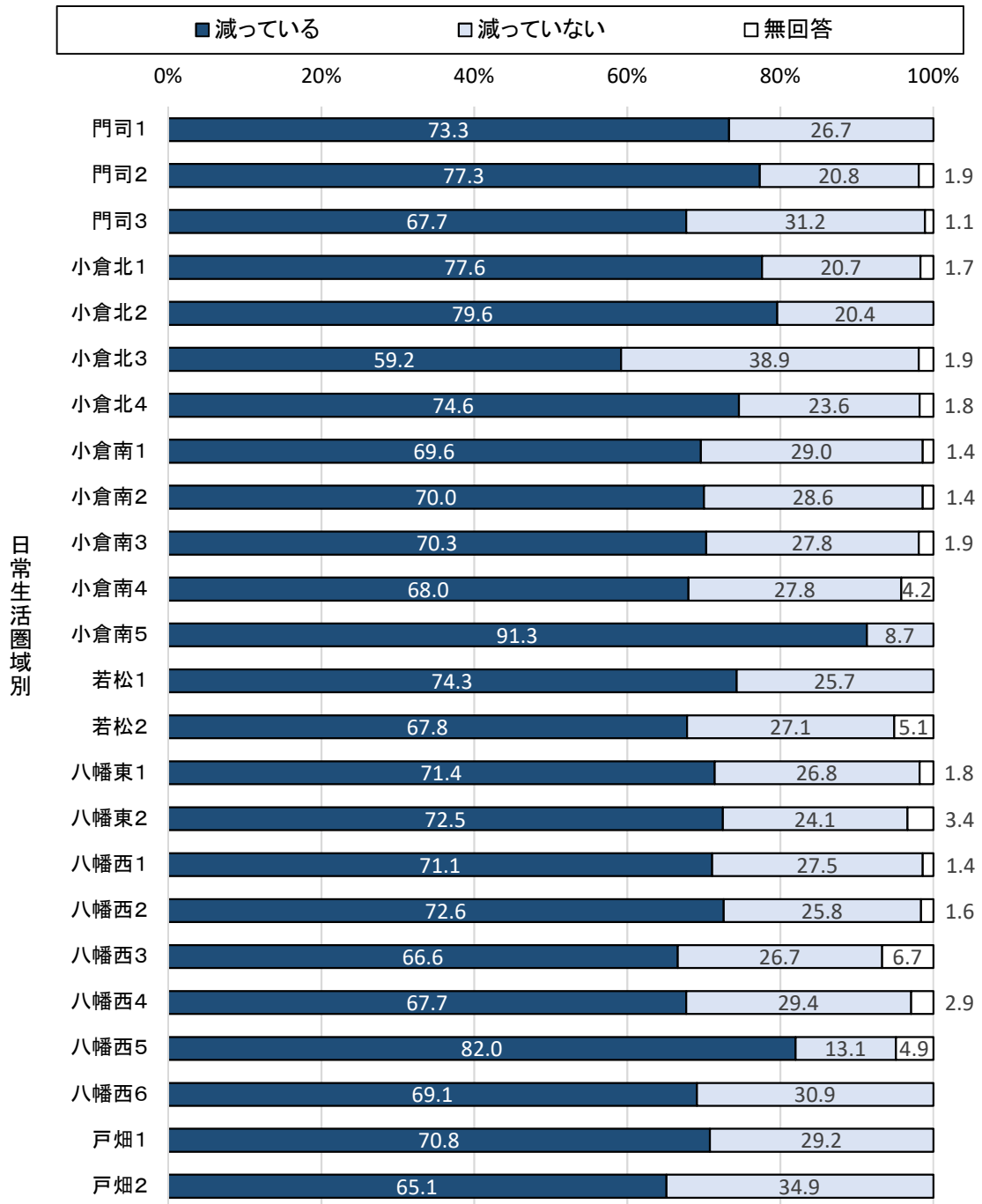


図3-5-② 外出回数の減【日常生活圏域別】





## ウ 食事を共にする機会

問3-Q4 どなたかと食事を共にする機会はありますか。

誰かと食事を共にする機会があるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「ある」と回答した割合が86.9%となっている。この割合を男女別にみると、男性が84.1%、女性が88.4%となっており、女性の方が4.3ポイント高い。これを年齢別にみると、70～74歳が90.3%で最も高くなっている。

図3-6-① 食事を共にする機会【全域】

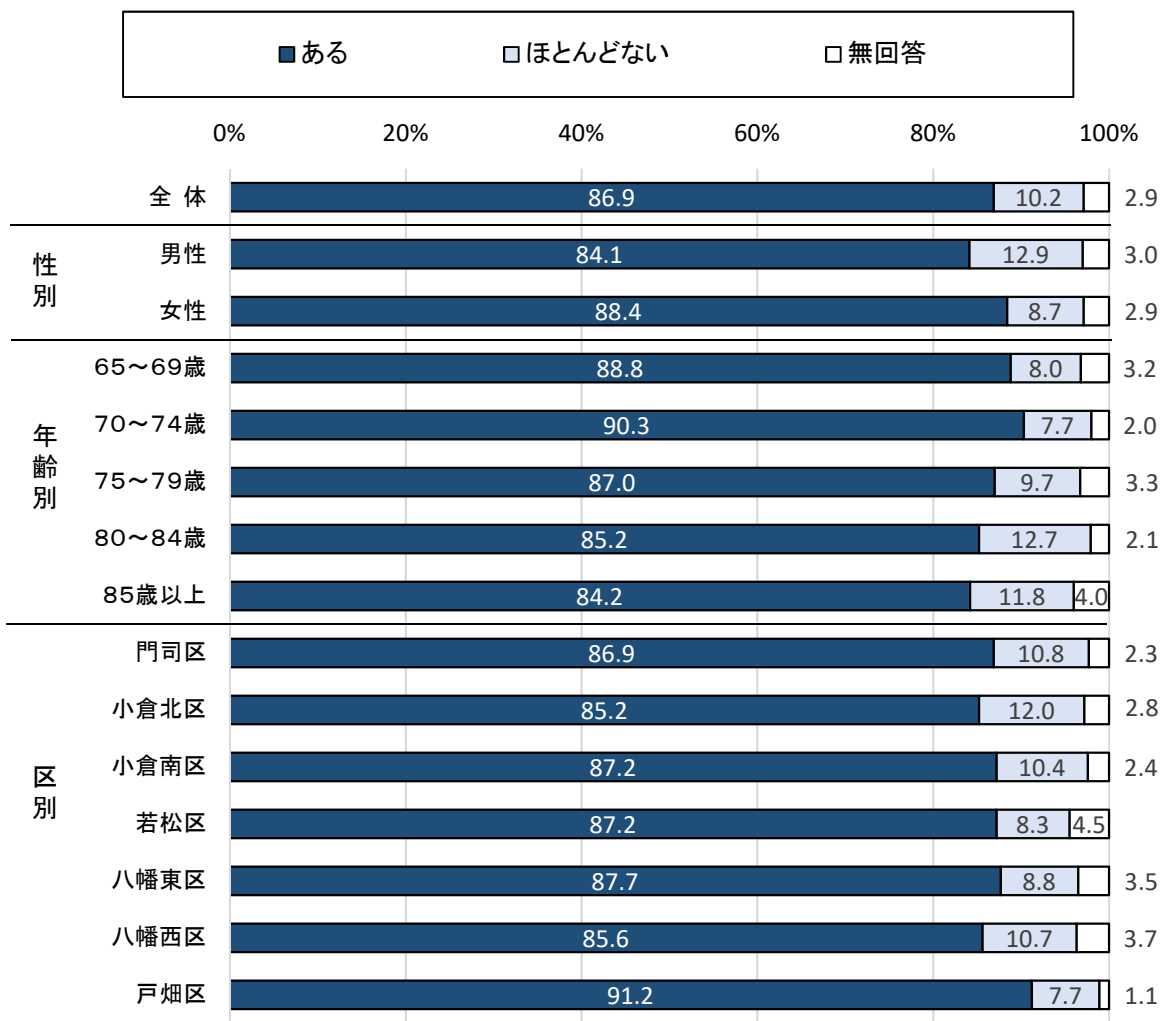
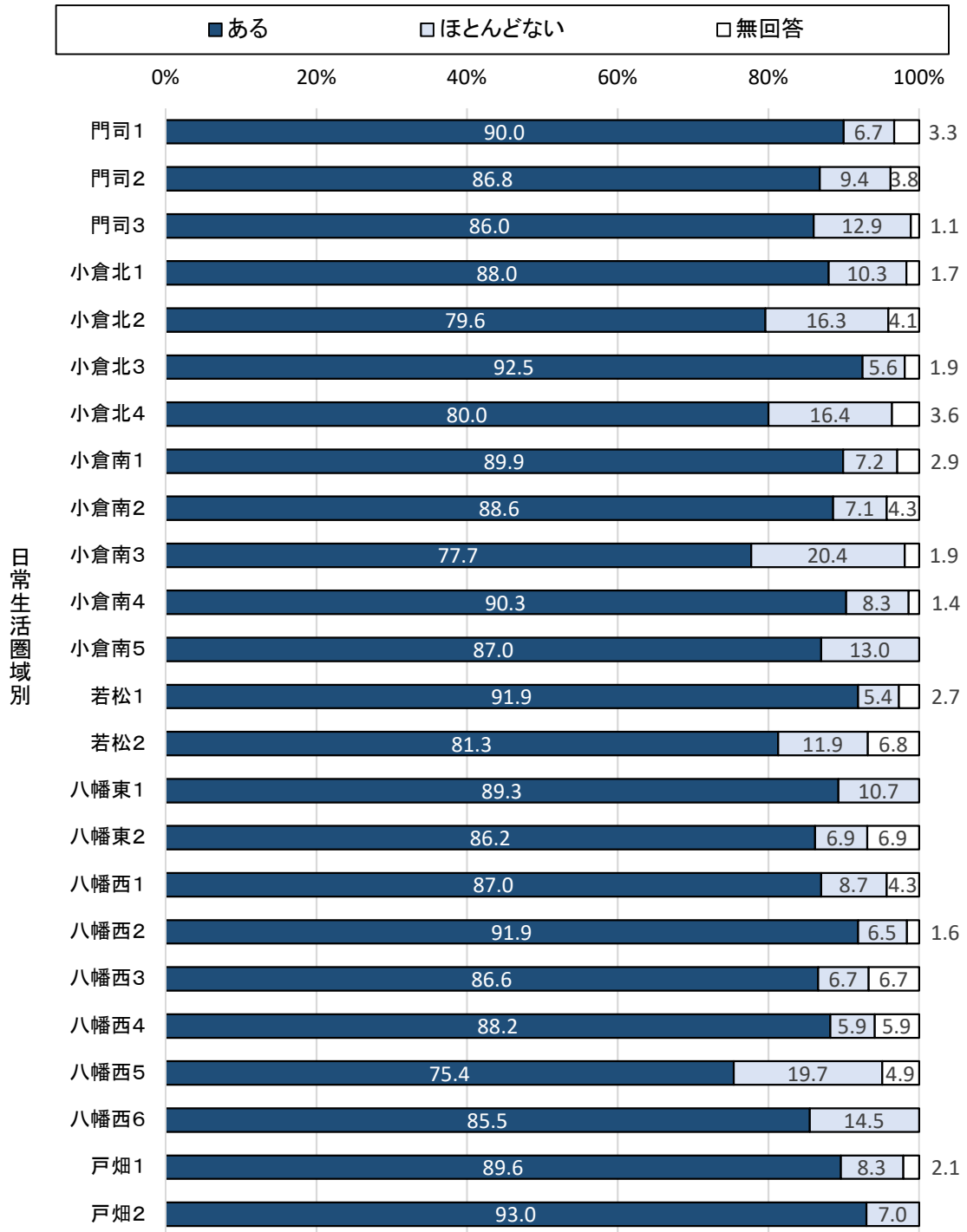


図3-6-② 食事を共にする機会【日常生活圏域別】



#### (4) 認知機能（物忘れ）の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-7 に示した設問に対する回答結果により、認知機能の低下（物忘れ）のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 51.3%である。男女別にみると、男性が 48.0%、女性が 53.5%であり、女性の方が 5.5 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 59.8%で最も高くなっている。

図3-7-① 認知機能の低下(物忘れ)【全域】

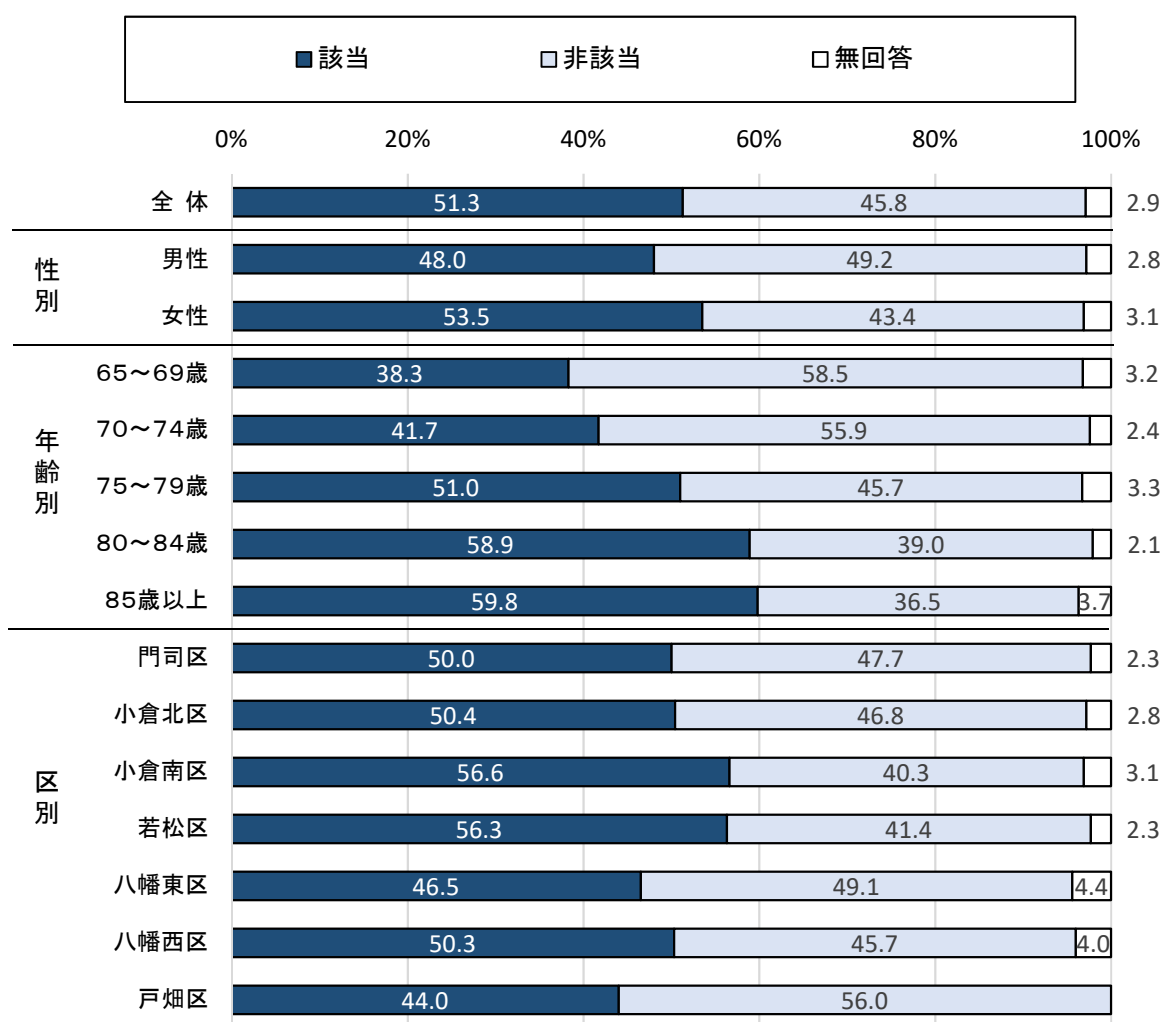


図3-7-② 認知機能の低下(物忘れ)【日常生活圏域別】

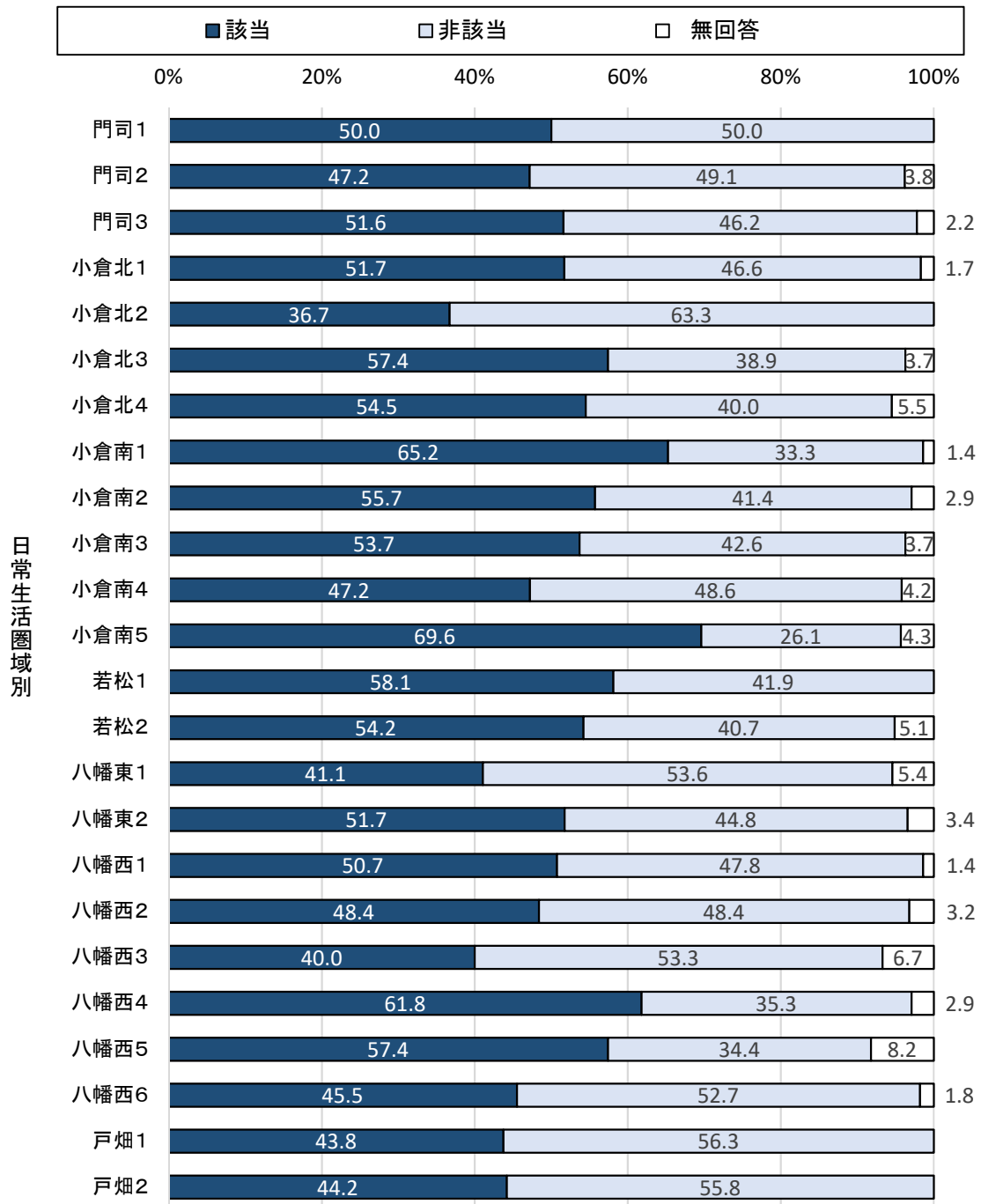


表 3-7 評価に用いた設問と評価基準(認知機能の低下(物忘れ))

設 問		配 点	評価基準
問 4-Q1	物忘れが多いと感じますか	はい(1点)	1点で リスク該当者

## 2 うつの傾向

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-8 に示した設問に対する回答結果により、うつの傾向のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 48.6%である。男女別にみると、男性が 48.8%、女性が 48.6%であり、ほぼ同じ割合となっている。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっている。

図3-8-① うつ予防判定 【全域】

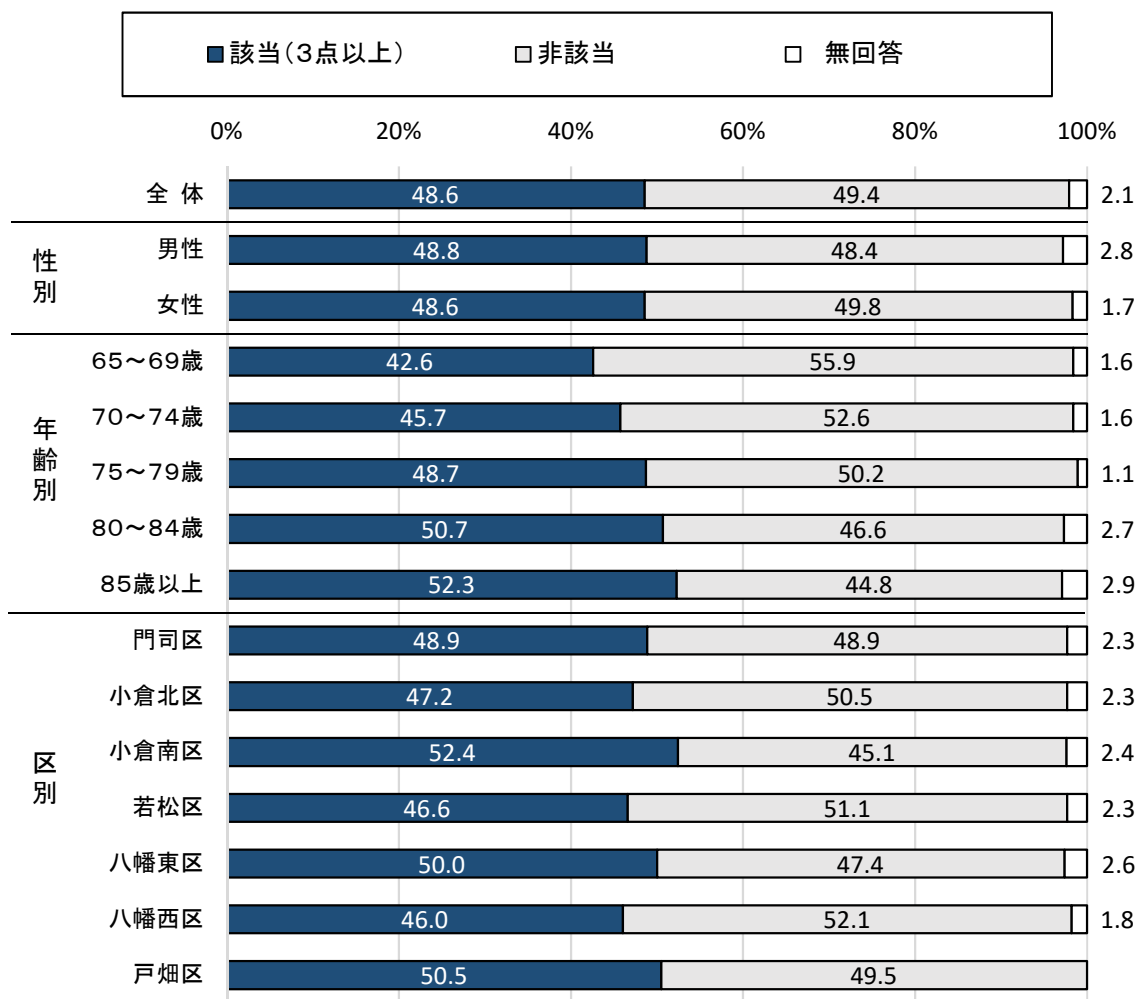


図3-8-② うつ予防判定【日常生活圏域別】

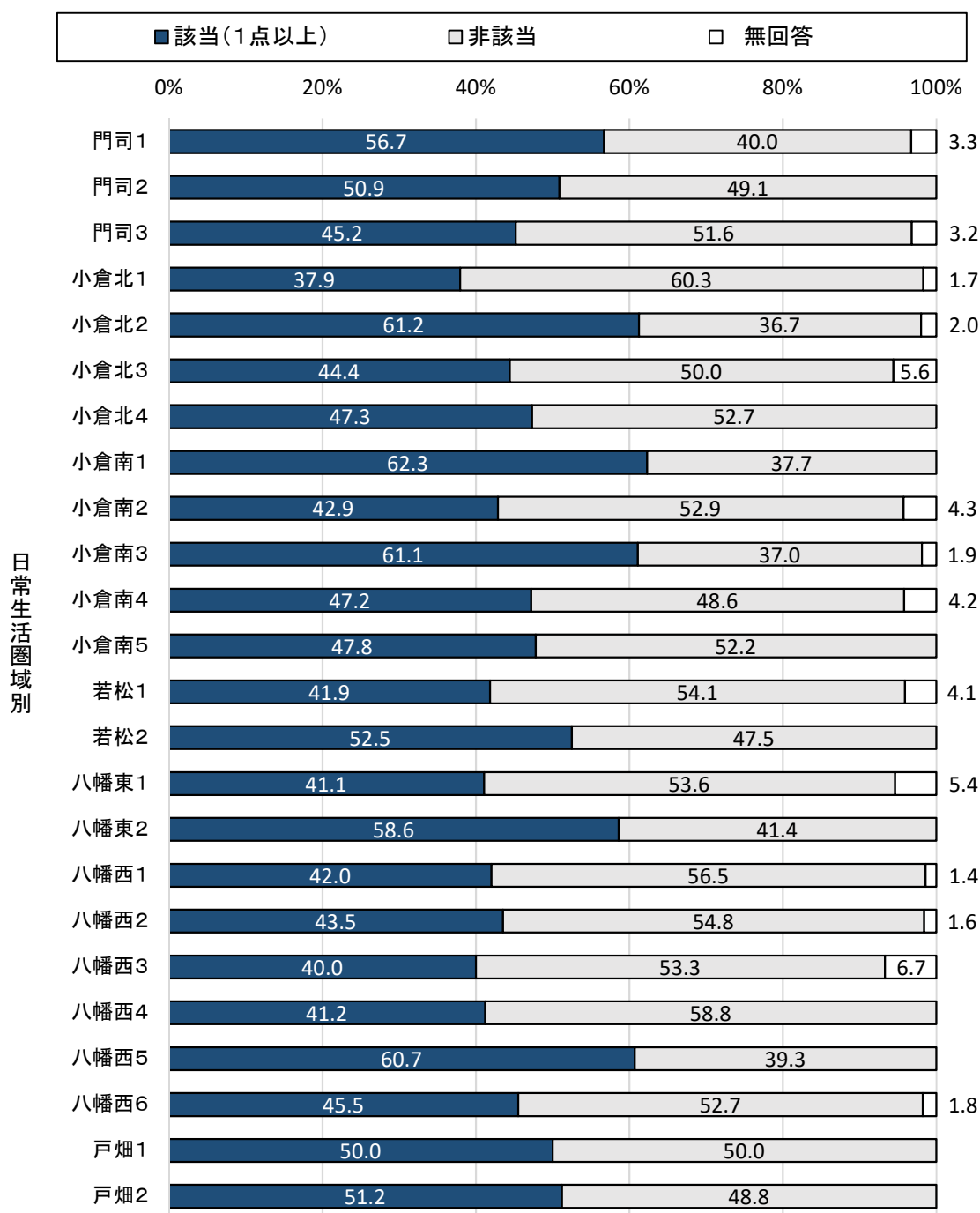


表 3-8 評価に用いた設問と評価基準(うつの傾向)

設 問		配 点	評価基準
問 7-Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい(1点)	1点で リスク該当者
問 7-Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい(1点)	

### 3 転倒リスクの状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-9 に示した設問に対する回答結果により、転倒のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 47.5%である。男女別にみると、男性が 45.4%、女性が 48.6%であり、女性の方が 3.2 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 62.6%が該当している。

図3-9-① 転倒リスク判定 【全域】

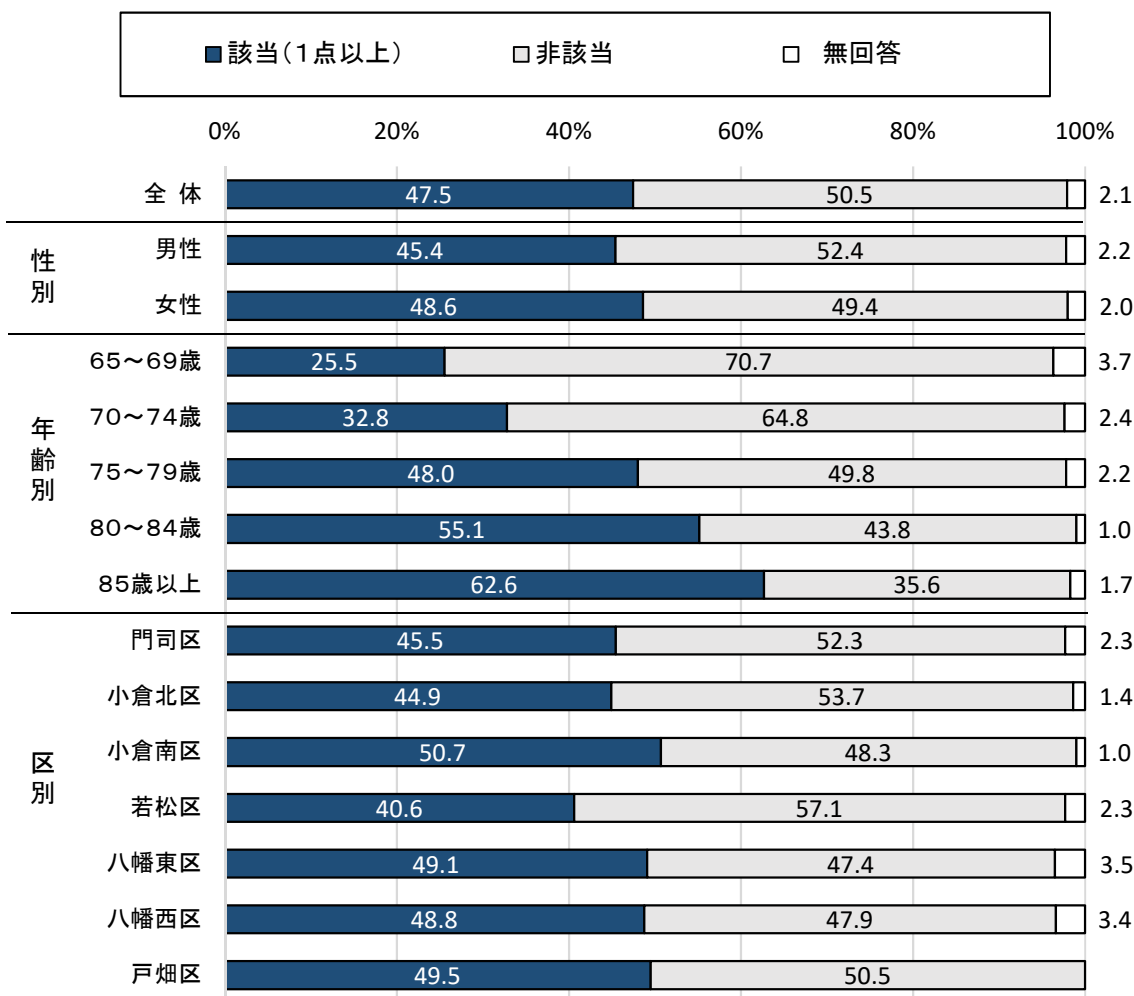


図3-9-② 転倒リスク判定 【日常生活圏域別】

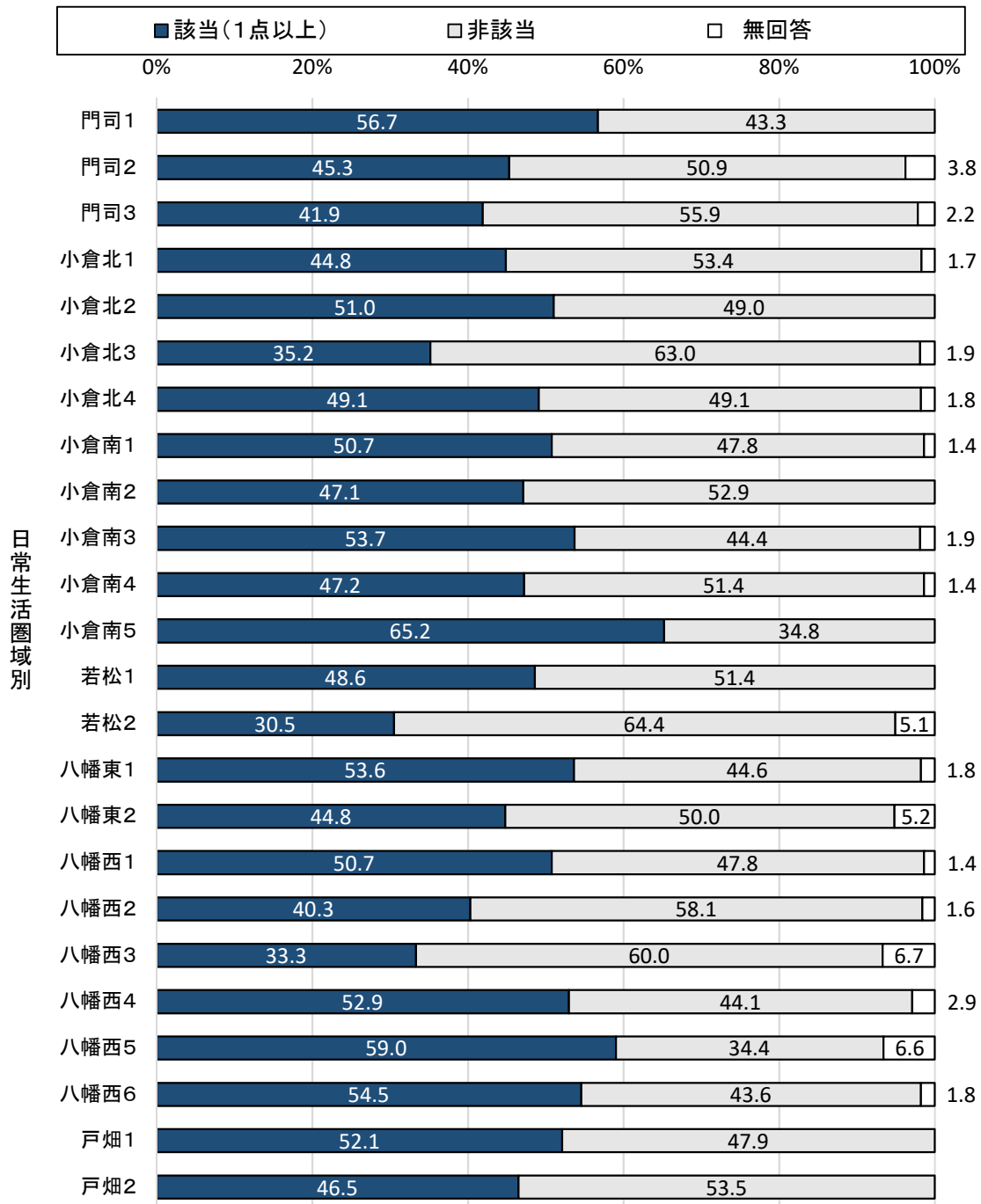


表 3-9 評価に用いた設問と評価基準(転倒リスクの状況)

設 問		配 点	評価基準
問 2-Q4	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	はい(1点)	1 点以上が リスク該当者
問 2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	はい(1点)	



#### 4 手段的日常生活動作（IADL）

本調査には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が含まれている。

このうち、活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度を  
する、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（IADL：Instrumental  
Activities of Daily Living）」について、表 3-10 に示した5つの設問に対する回答結果  
により評価を行った。

市全体でみると、能力が「高い」人の割合が 68.6%を占めている。一方、「低い」は 15.8%、  
「やや低い」は 14.0%で、これらを合わせた割合は 29.8%である。男女別に「低い」と「や  
や低い」を合わせた割合をみると、男性が 32.2%、女性が 27.9%であり、男性の方が 4.3 ポ  
イント高い。これを年齢別にみると、85 歳以上が 48.6%で最も高くなっている。

図3-10-① 手段的自立度(IADL) 【全域】

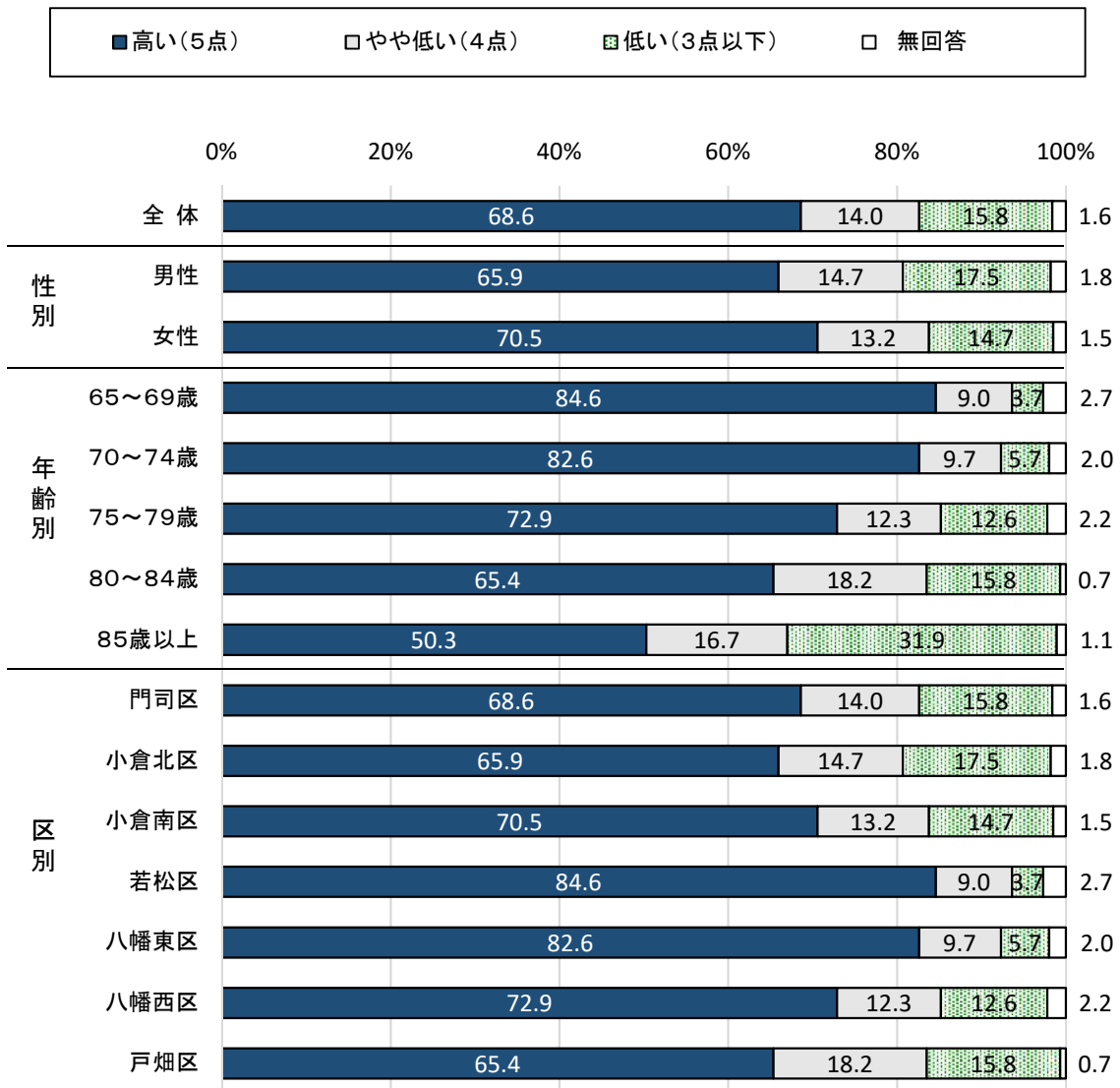


図3-10-② 手段的自立度(IADL)【日常生活圏域別】

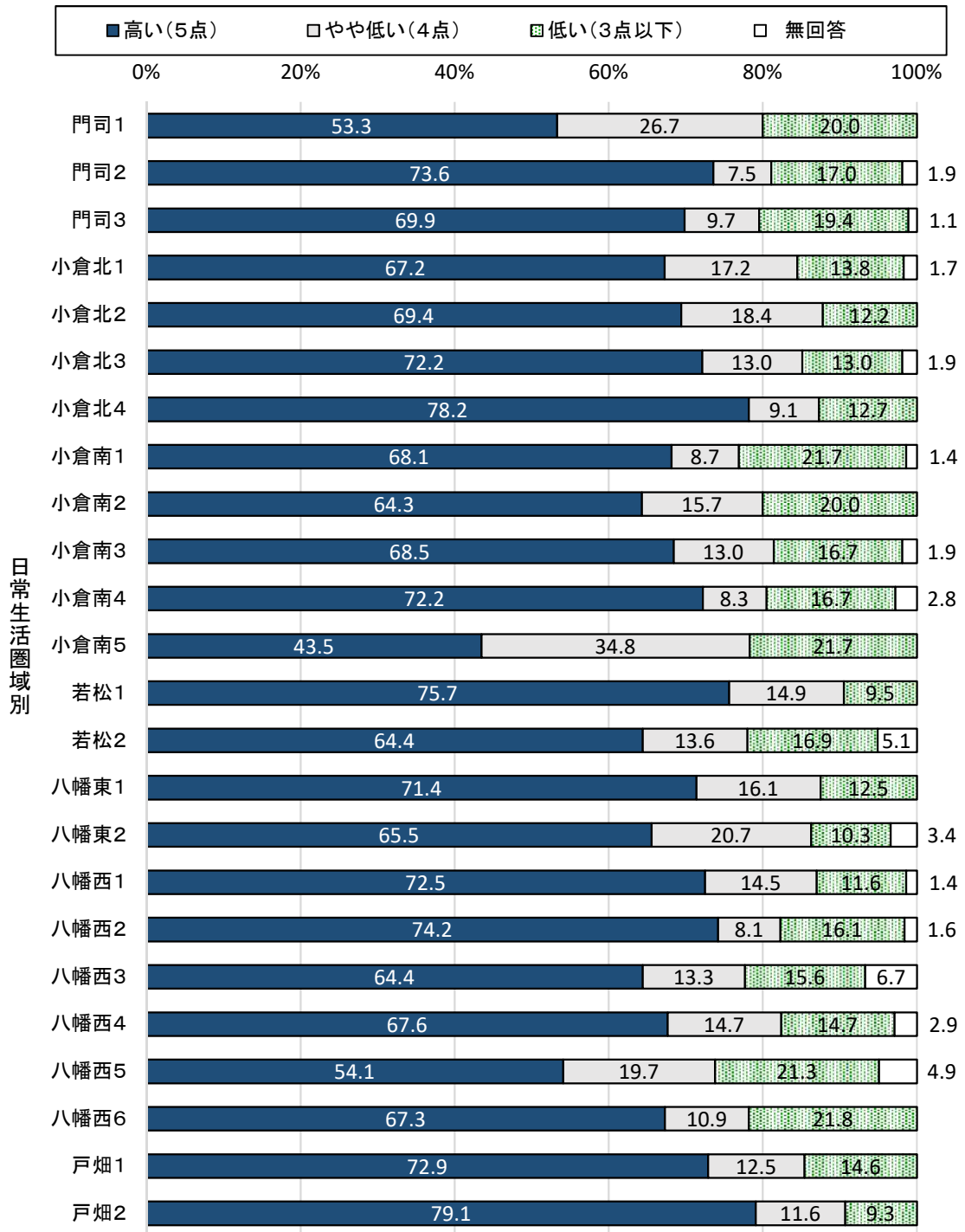


表 3-10 評価に用いた設問と評価基準 (IADL)

設 問		配 点	評価基準
問 4-Q2	バスや電車を使って 1人で外出していますか(自家用車でも可)	できるし、している(1点)	「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点
問 4-Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している(1点)	
問 4-Q4	自分で食事の用意をしていますか	できるし、している(1点)	
問 4-Q5	自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している(1点)	
問 4-Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している(1点)	

## 第4章 日常生活

### 1 交流の場への参加状況

#### (1) ボランティアのグループへの参加

問5-Q1-① ボランティアのグループに参加していますか。

ボランティアのグループへの参加については、市全体でみると「参加している」割合が12.0%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が12.3%、女性が11.8%であり、ほぼ同じ割合となっている。これを年齢別にみると、75～79歳以上が23.7%で最も高くなっている。

図4-1-① ボランティアのグループへの参加【全域】

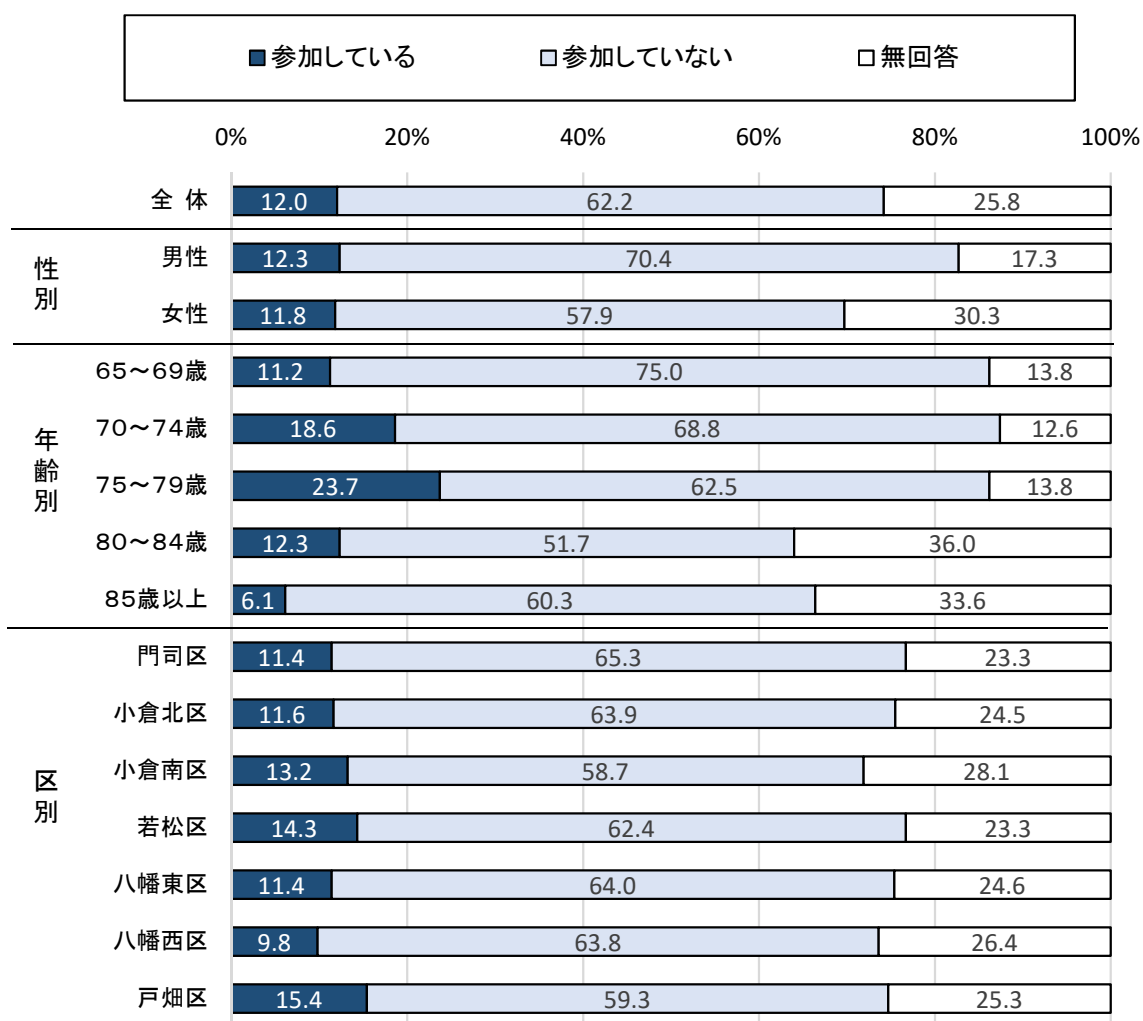
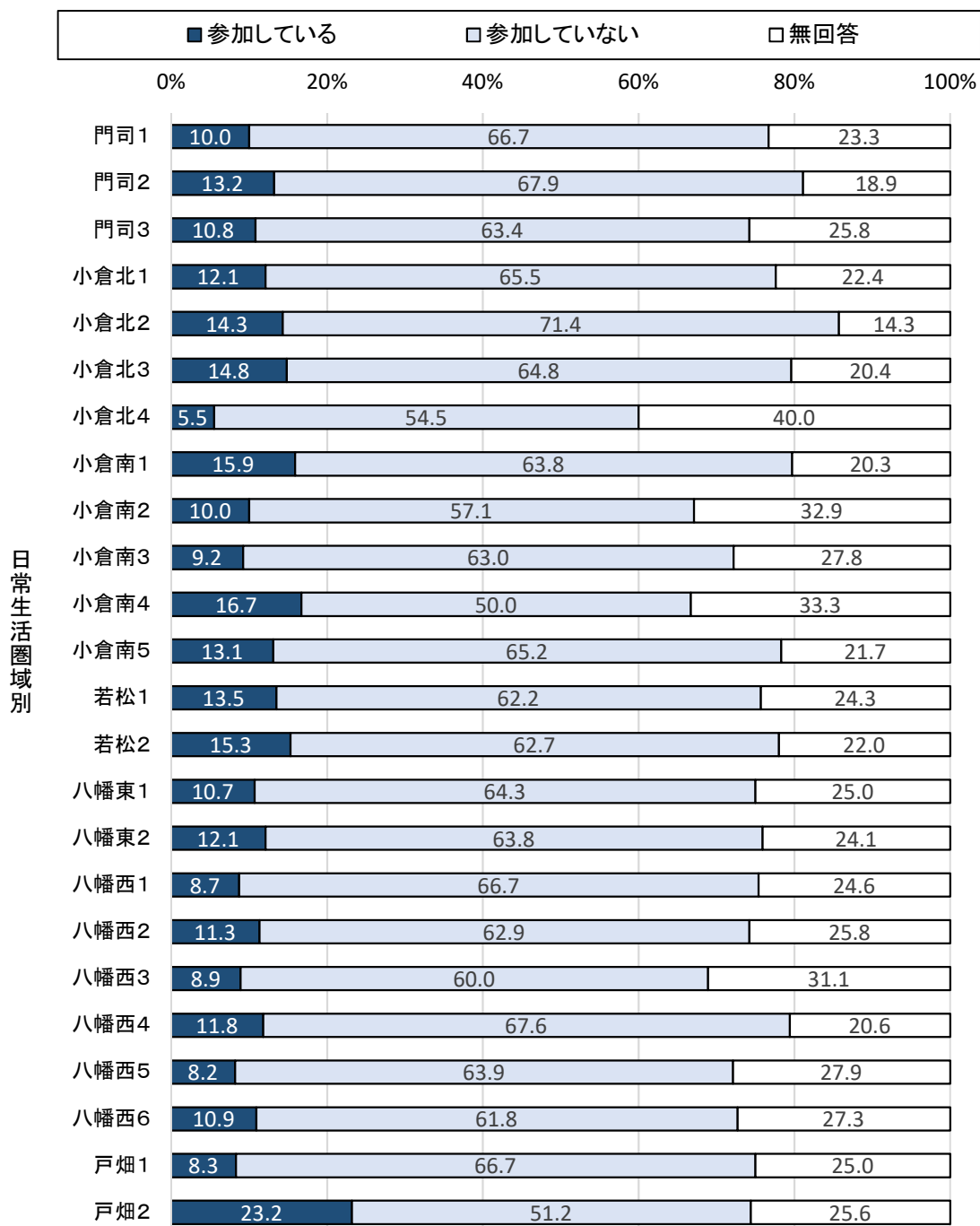


図4-1-② ボランティアのグループへの参加【日常生活圏域別】



(2) スポーツ関係のグループやクラブへの参加

問5-Q1-② スポーツ関係のグループやクラブに参加していますか。

スポーツ関係のグループやクラブへの参加については、市全体でみると「参加している」割合が17.8%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が16.8%、女性が18.6%となっており、ほぼ同じ割合である。これを年齢別にみると、70～74歳が24.7%で最も高く、年齢層が高くなるにつれ割合が下がっている。

図4-2-① スポーツ関係のグループやクラブへの参加【全域】

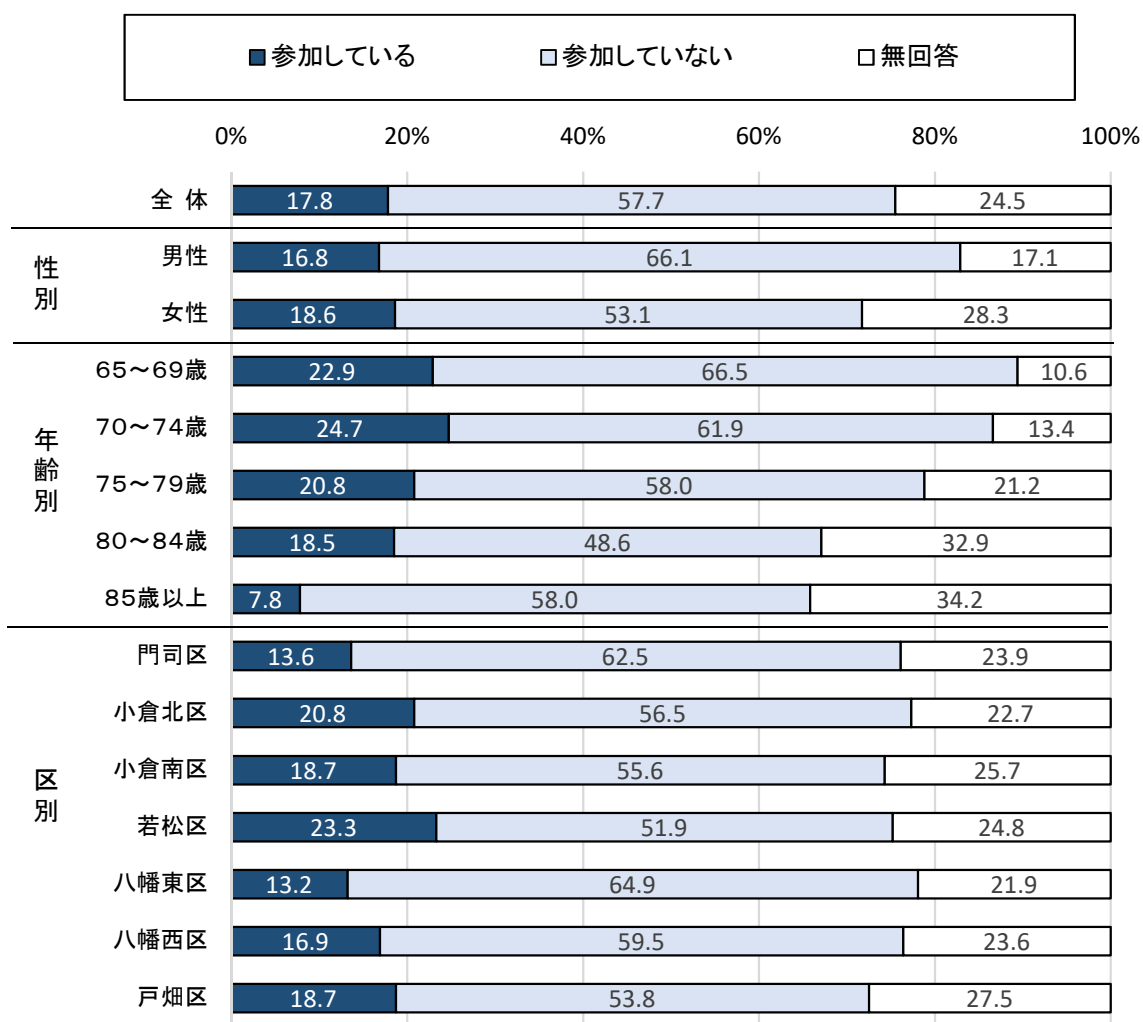
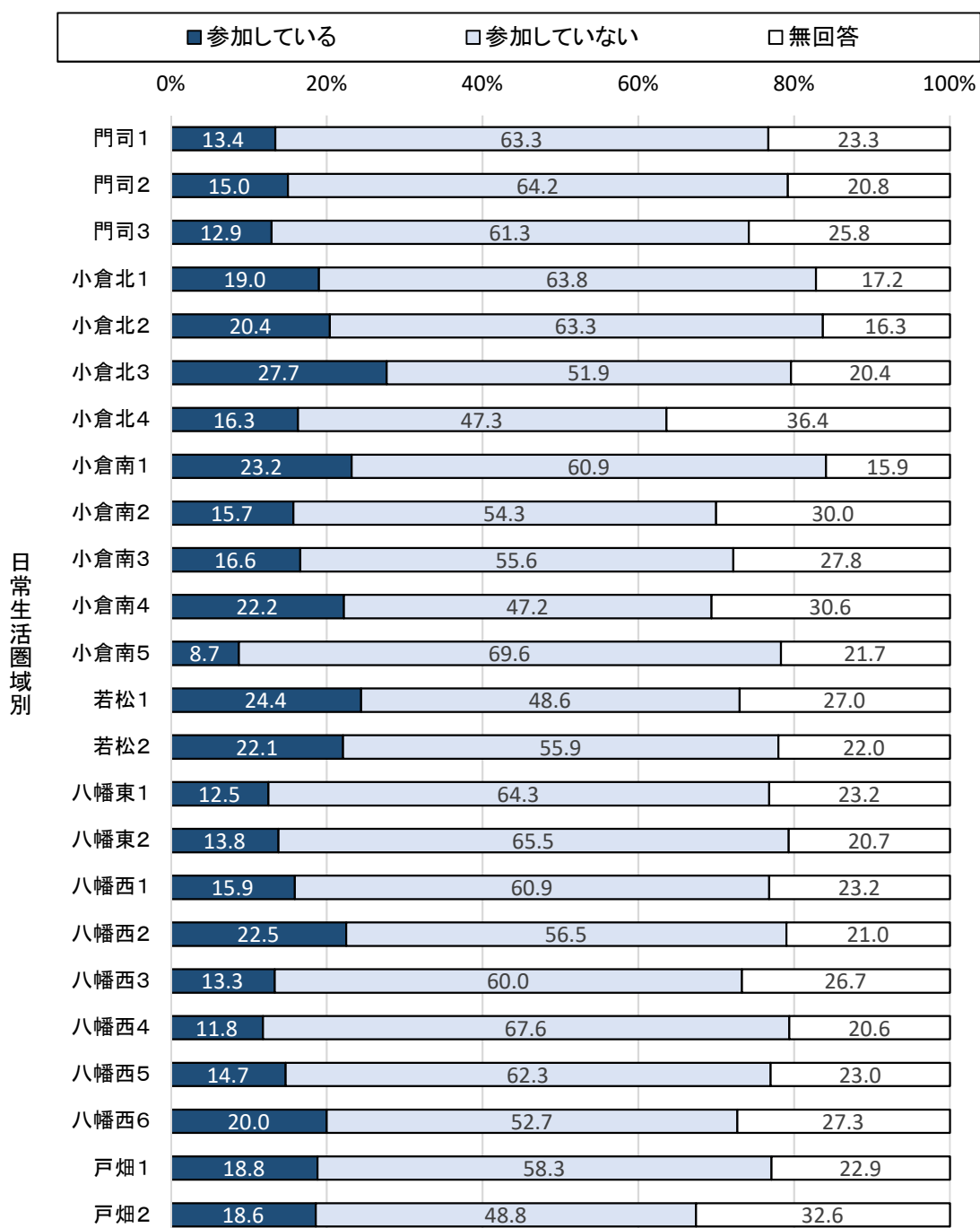


図4-2-② スポーツ関係のグループやクラブへの参加【日常生活圏域別】



### (3) 趣味関係のグループへの参加

問5-Q1-③ 趣味関係のグループに参加していますか。

趣味関係のグループへの参加については、市全体でみると「参加している」割合が10.4%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が9.1%、女性が22.1%となっており、女性の方が13ポイント高い。これを年齢別にみると、75～79歳が27.9%で最も高くなっている。

図4-3-① 趣味関係のグループへの参加【全域】

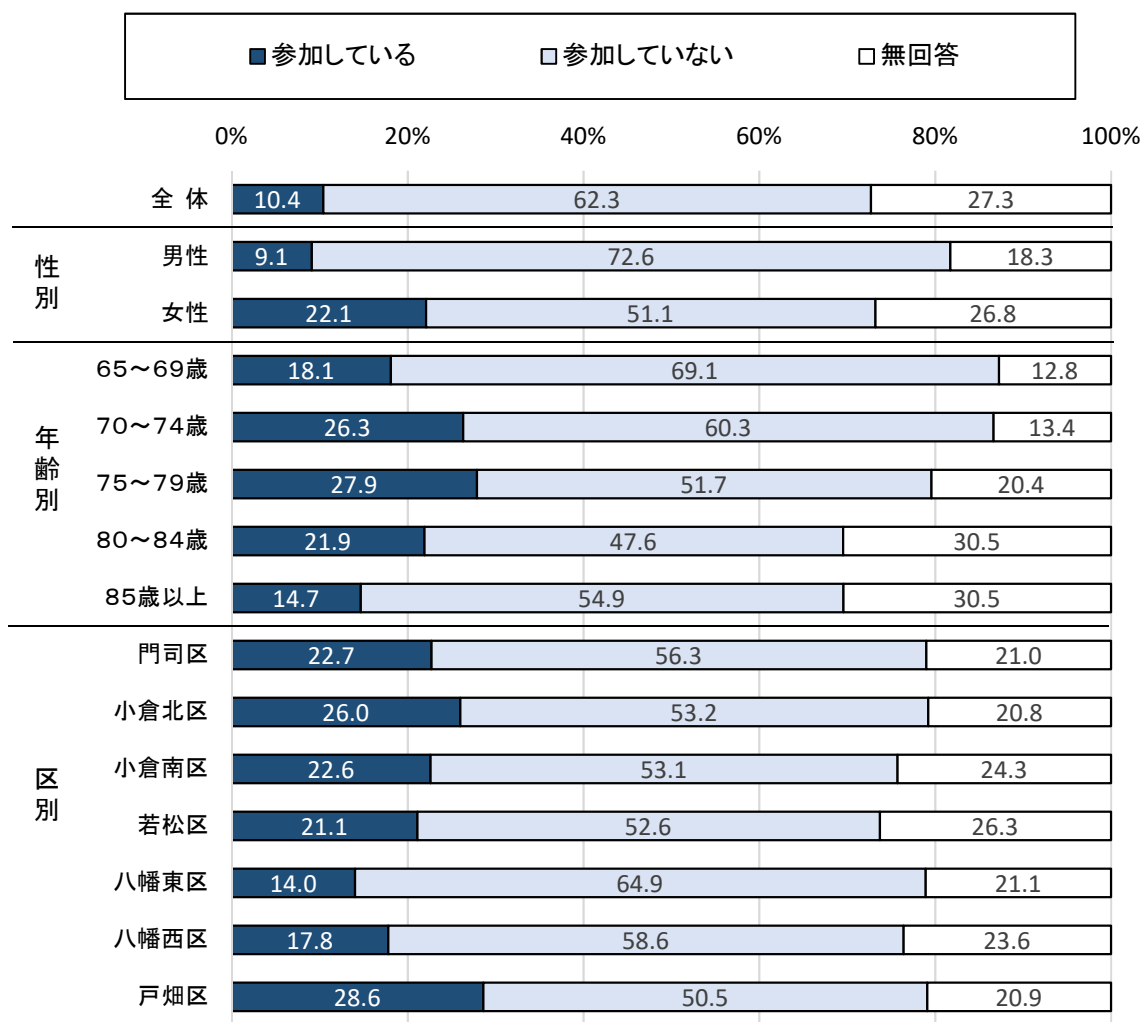
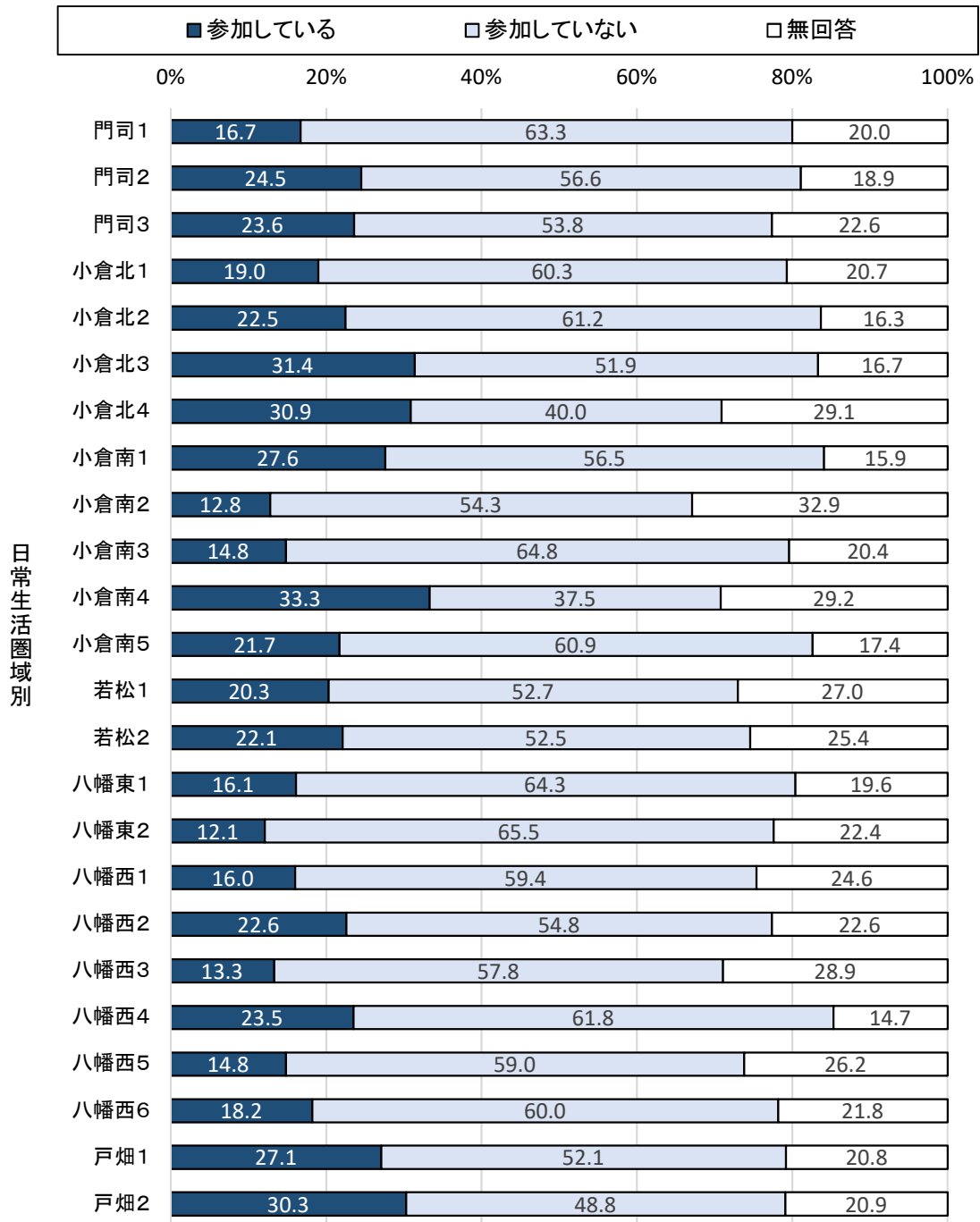


図4-3-② 趣味関係のグループへの参加【日常生活圏域別】





(4) 学習・教養サークルへの参加

問5-Q1-④ 学習・教養サークルに参加していますか。

学習・教養サークルへの参加については、市全体でみると「参加している」割合が10.4%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が9.1%、女性が11.1%となっており、大きな差はない。これを年齢別にみると、75～79歳が14.9%で最も高くなっている。

図4-4-① 学習・教養サークルへの参加【全域】

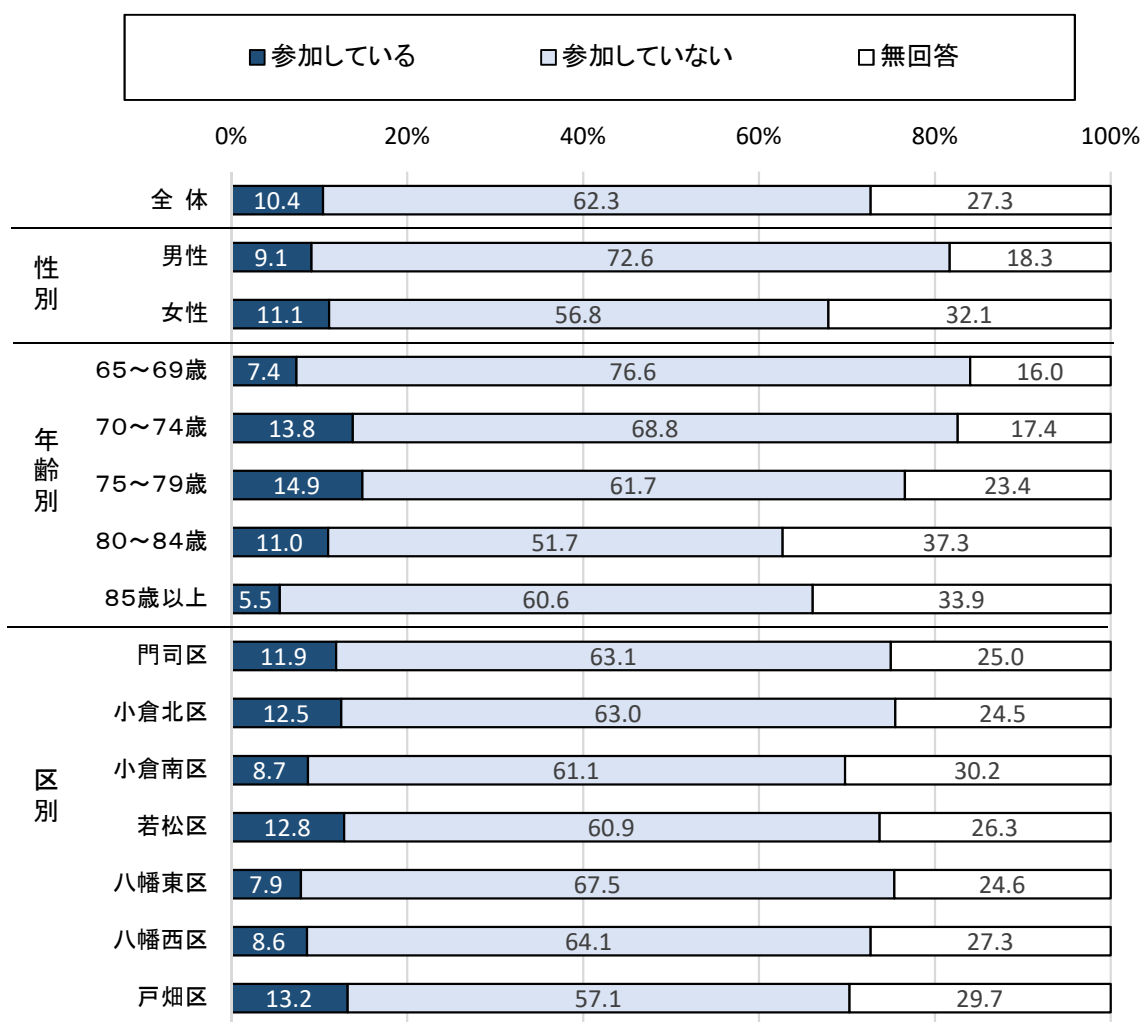
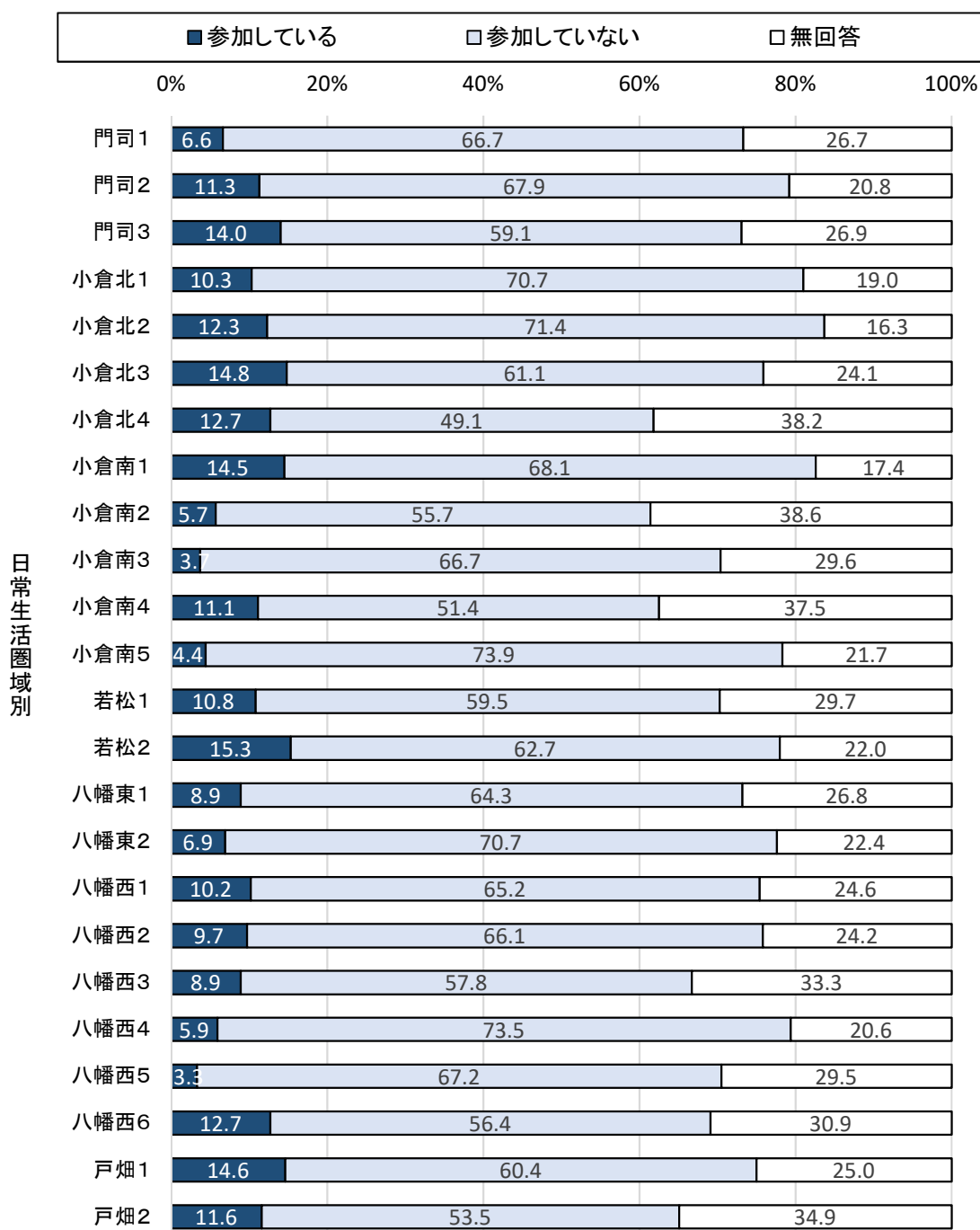


図4-4-② 学習・教養サークルへの参加【日常生活圏域別】



(5) 通いの場への参加

問5-Q1-⑤ 介護予防のための通いの場（社会福祉協議会などが行っている高齢者サロン、いきがい活動ステーション、きたきゆう体操、ひまわり太極拳、ふれあい昼食交流会 など）に参加していますか。

通いの場への参加については、市全体でみると「参加している」割合が23.4%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が17.5%、女性が26.6%となっており、女性の方が9.1ポイント高い。これを年齢別にみると、85歳以上が31.3%で最も高くなっている。

図4-5-① 通いの場【全域】

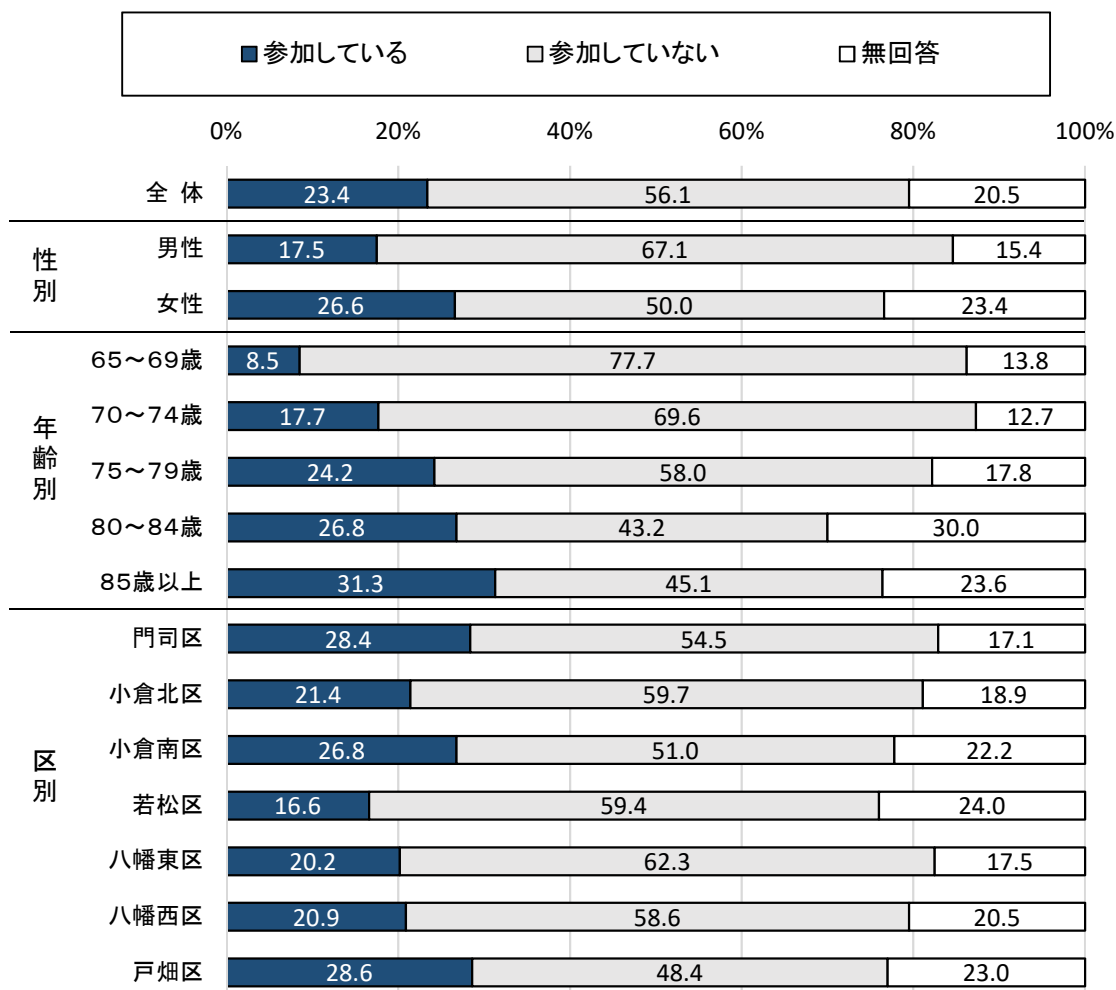
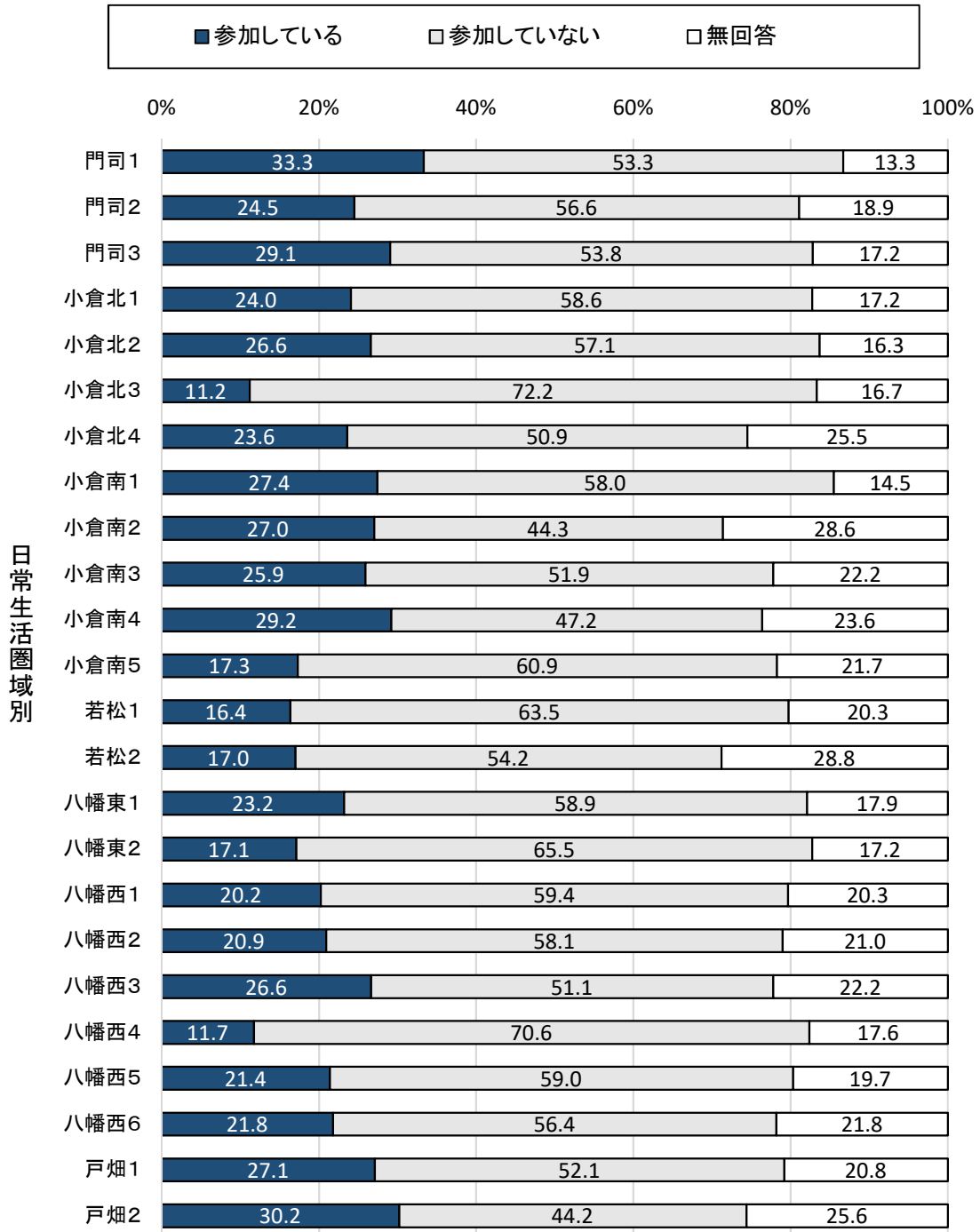


図4-5-② 通いの場【日常生活圏域別】



(6) 老人クラブへの参加

問5-Q1-⑥ 老人クラブに参加していますか。

老人クラブへの参加については、市全体でみると「参加している」割合が10.0%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が8.7%、女性が10.9%となっており、大きな差はない。これを年齢別にみると、75～79歳が13.4%で最も高くなっている。

図4-6-① 老人クラブへの参加【全域】

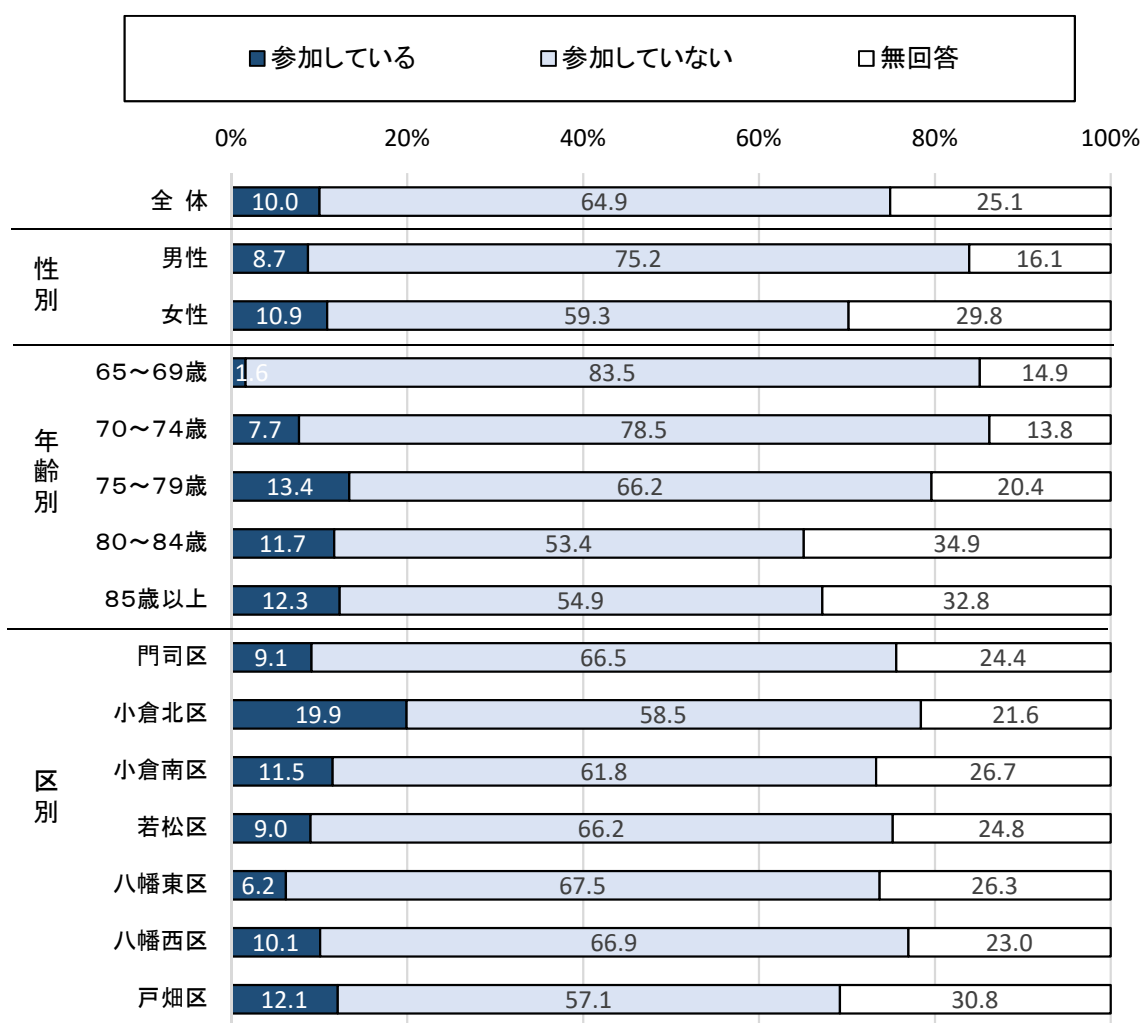
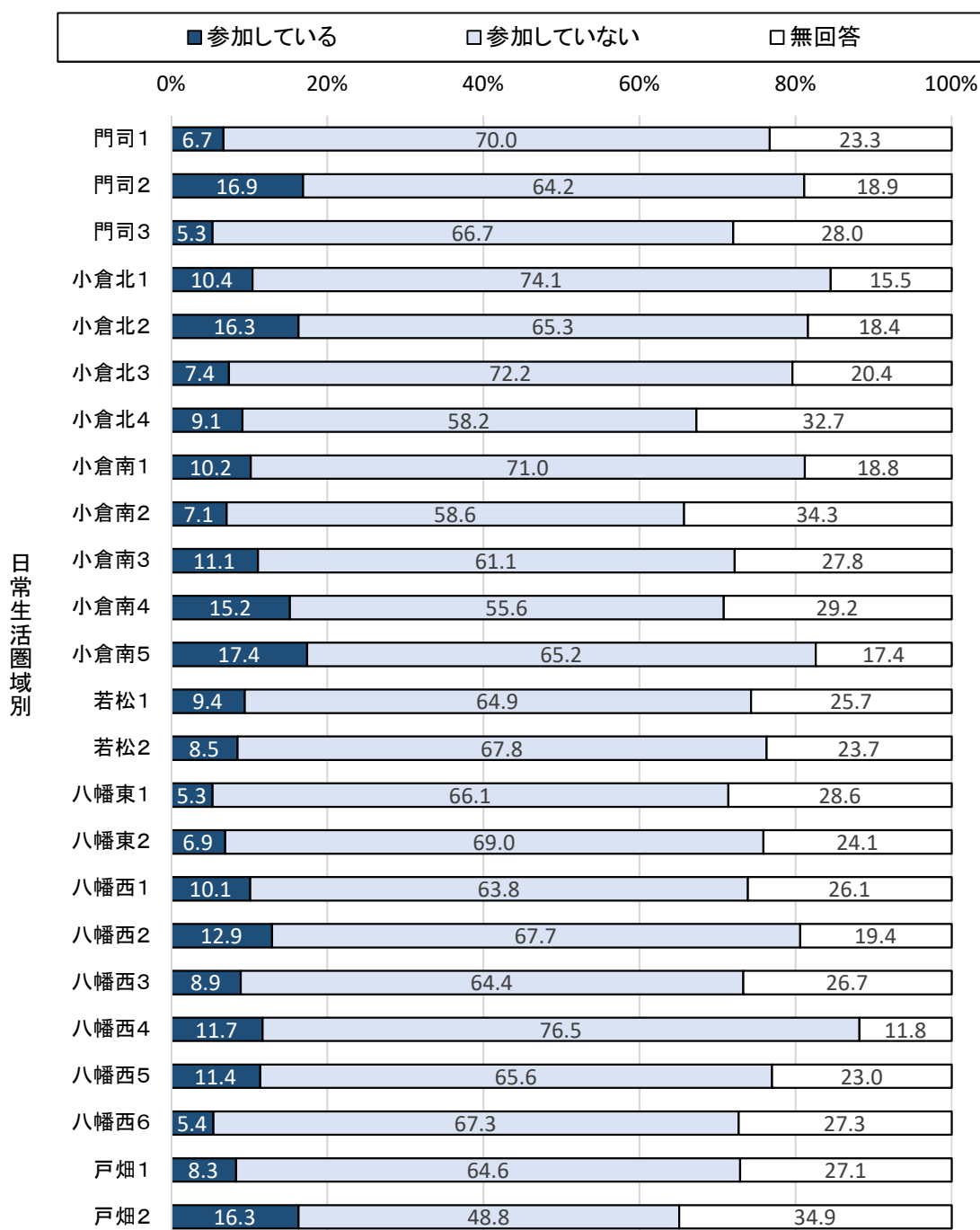


図4-6-② 老人クラブへの参加【日常生活圏域別】



(7) 町内会・自治会への参加

問5-Q1-⑦ 町内会・自治会に参加していますか。

町内会・自治会への参加については、市全体でみると「参加している」割合が21.3%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が22.4%、女性が20.5%となっており、ほぼ同じ割合となっている。これを年齢別にみると、70～74歳が33.6%で最も高くなっている。

図4-7-① 町内会・自治会への参加【全域】

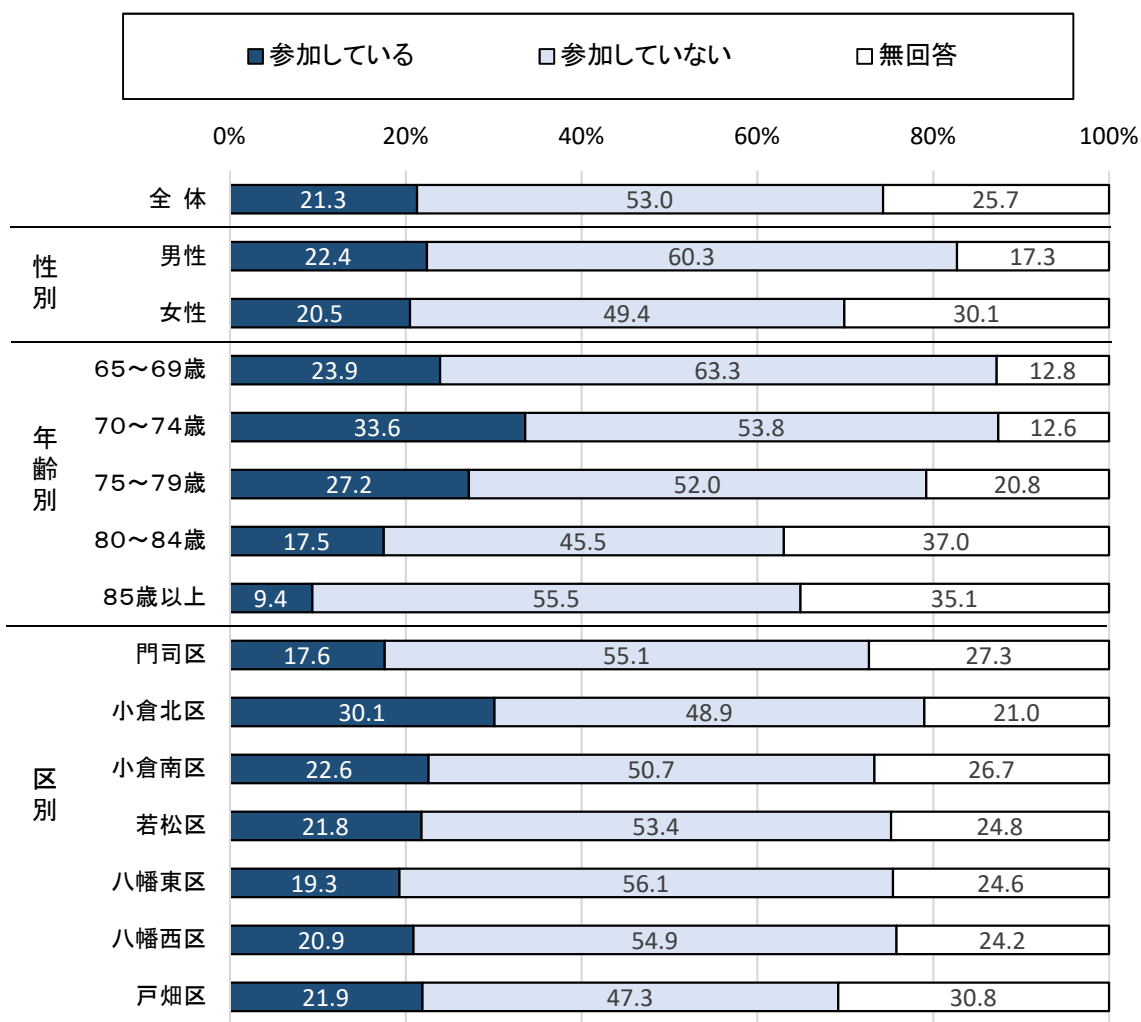
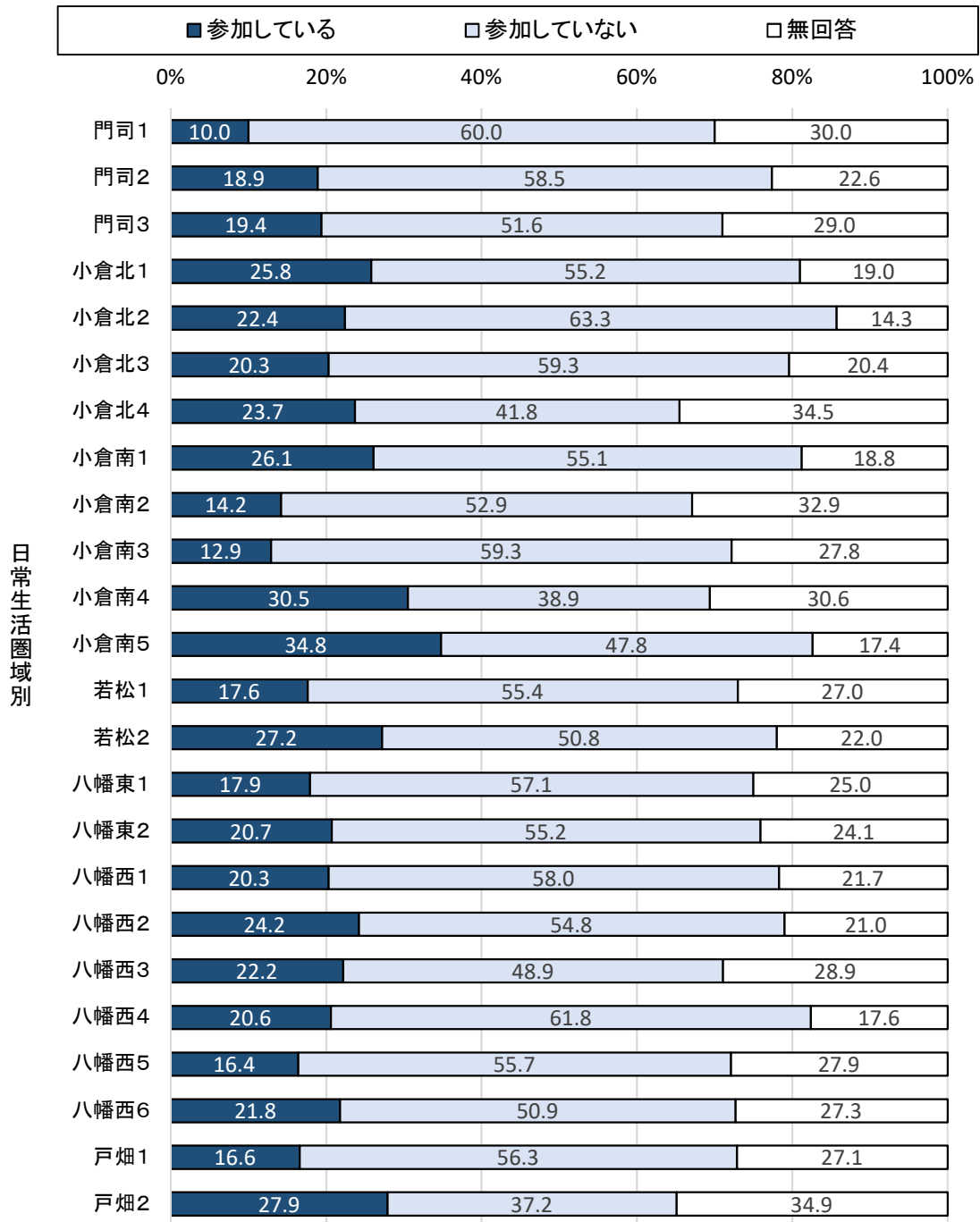


図4-7-② 町内会・自治会への参加【日常生活圏域別】





(8) 収入のある仕事への参加

問5-Q1-⑧ 収入のある仕事に参加していますか。

収入のある仕事への参加については、市全体でみると「参加している」割合が14.9%となっている。「参加している」割合を男女別にみると、男性が21.6%、女性が11.1%となっており、男性の方が10.5ポイント高い。これを年齢別にみると、65～69歳が42.1%で最も高く、年齢層が上がるにつれ割合が下がっている。

図4-8-① 収入のある仕事への参加【全域】

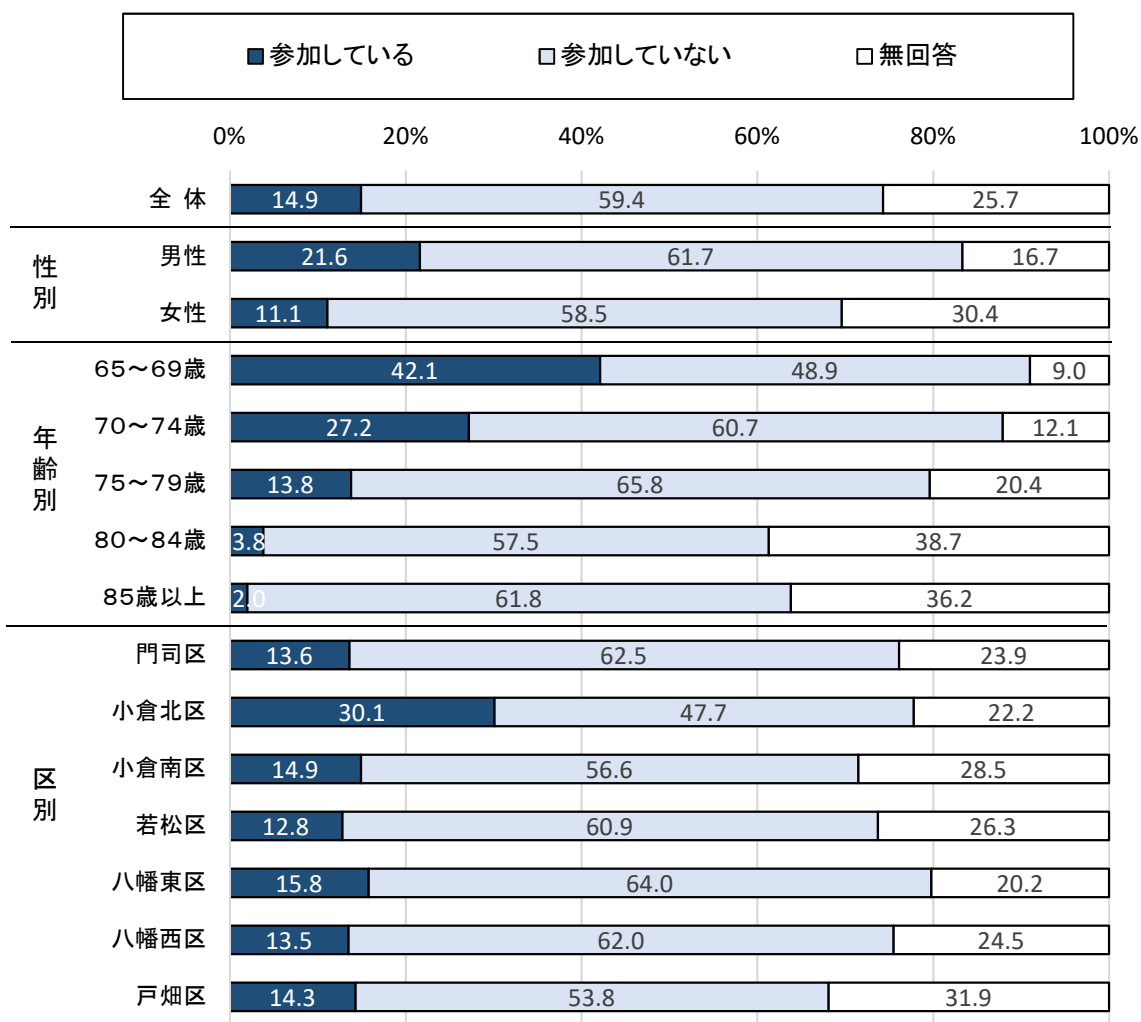
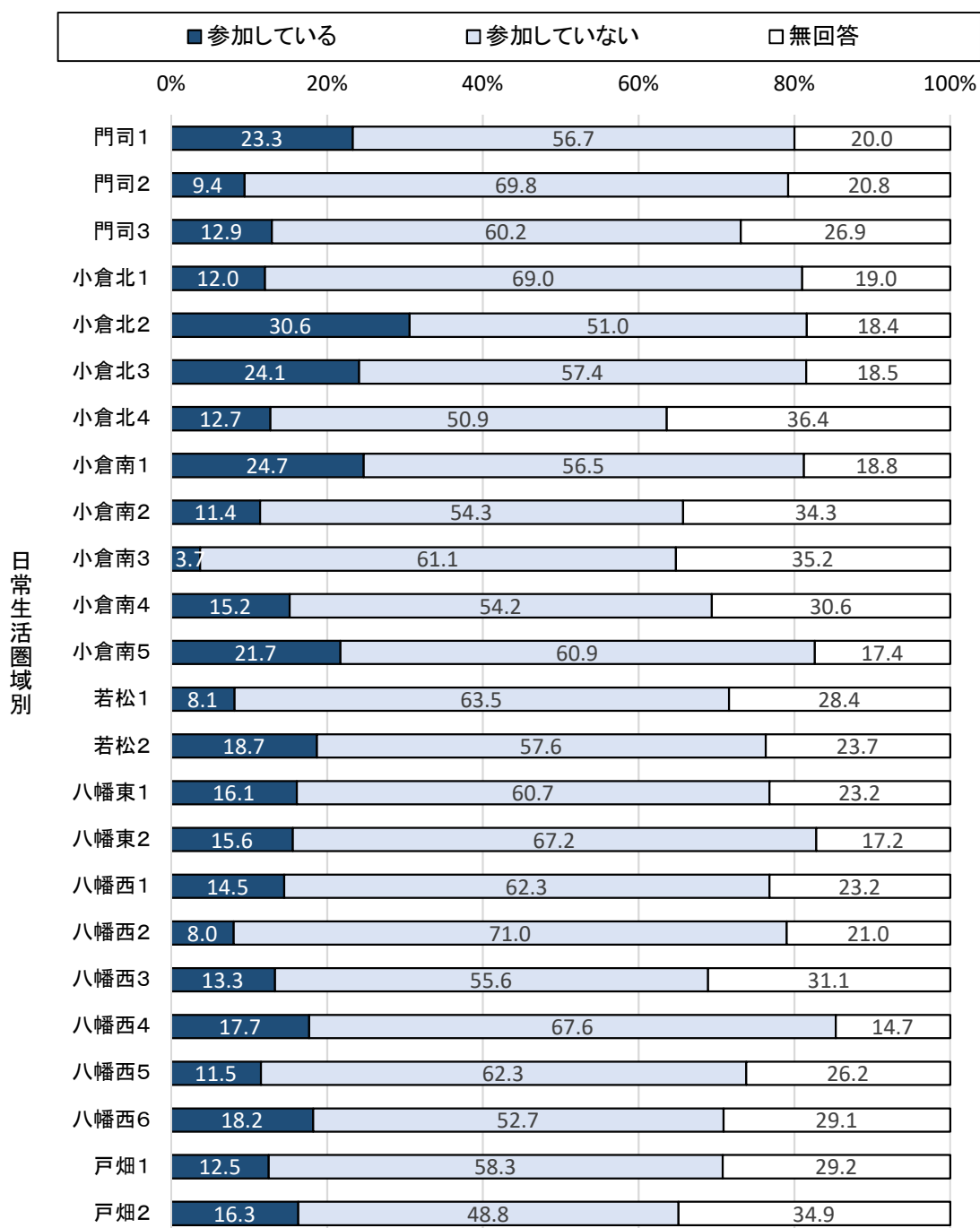


図4-8-② 収入のある仕事への参加【日常生活圏域別】



(9) 地域活動への参加意向

問5-Q2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると「参加の意向がある」と回答した割合は44.5%、「参加したくない」の割合は42.9%となっており、男女別にみてもおおむね同じ割合となっている。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて「参加の意向がある」の割合が低下傾向にある。

図4-9-① 地域活動への参加意向【全域】

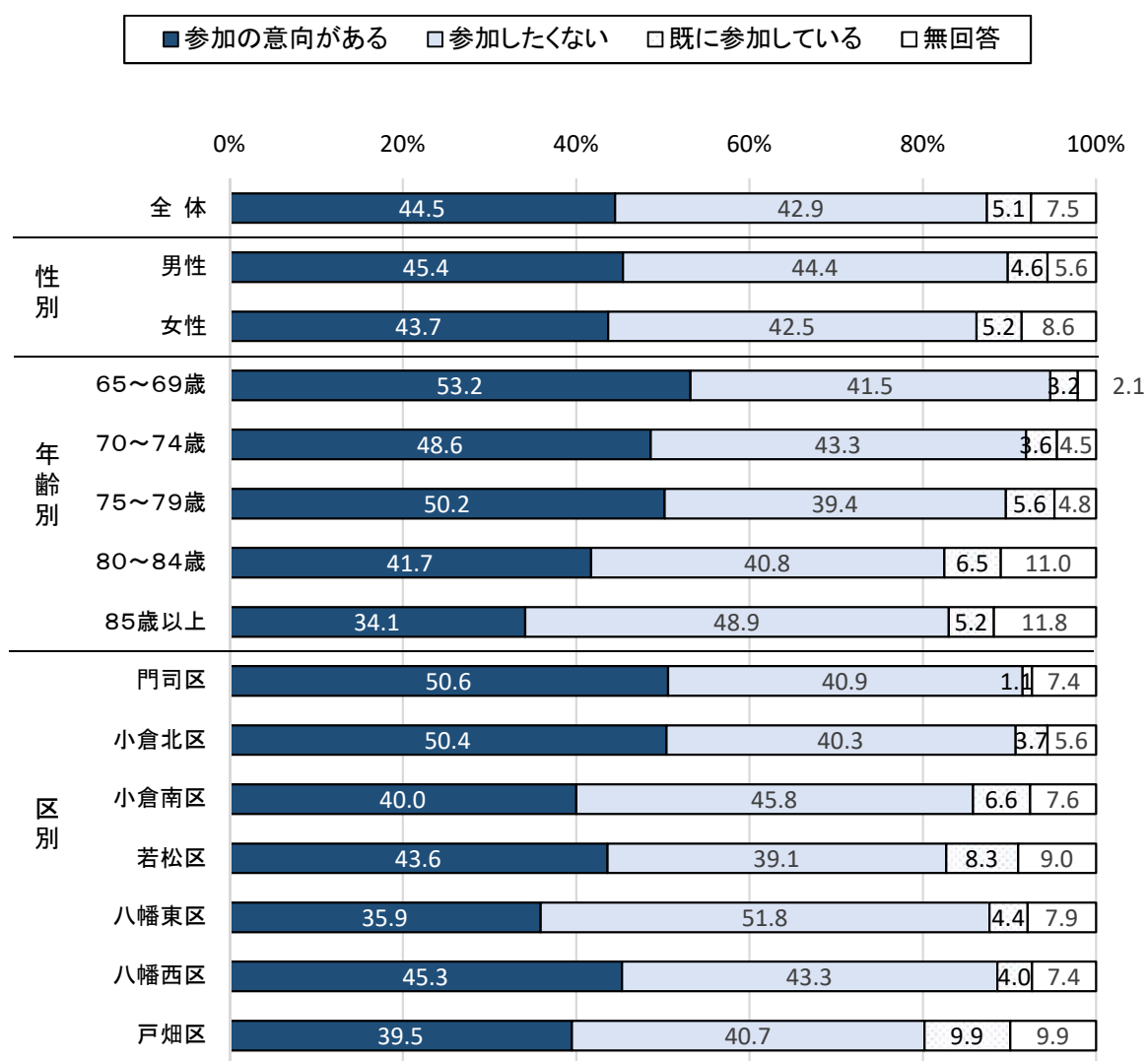
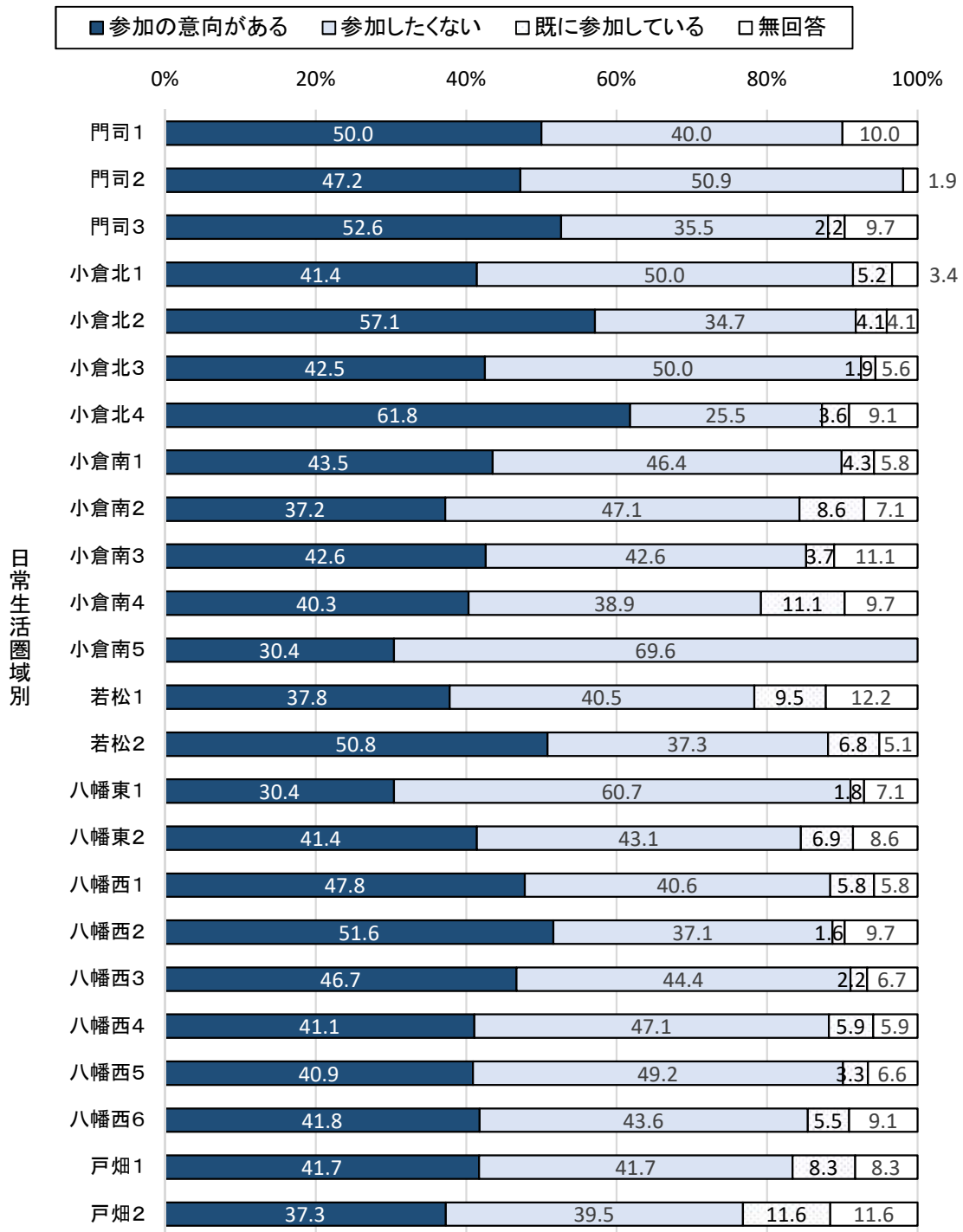


図4-9-② 地域活動への参加意向【日常生活圏域別】



(10) 地域活動の企画・運営への参加意向

問5-Q3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると「参加の意向がある」と回答した割合は26.0%、「参加したくない」の割合は61.7%となっている。

「参加の意向がある」の割合を男女別にみると、男性が30.0%、女性が23.5%となっており、男性の方が6.5ポイント高い。これを年齢別にみると、65～69歳が33.0%で最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれ割合が下がっている。

図4-10-① 地域活動の企画・運営への参加意向【全域】

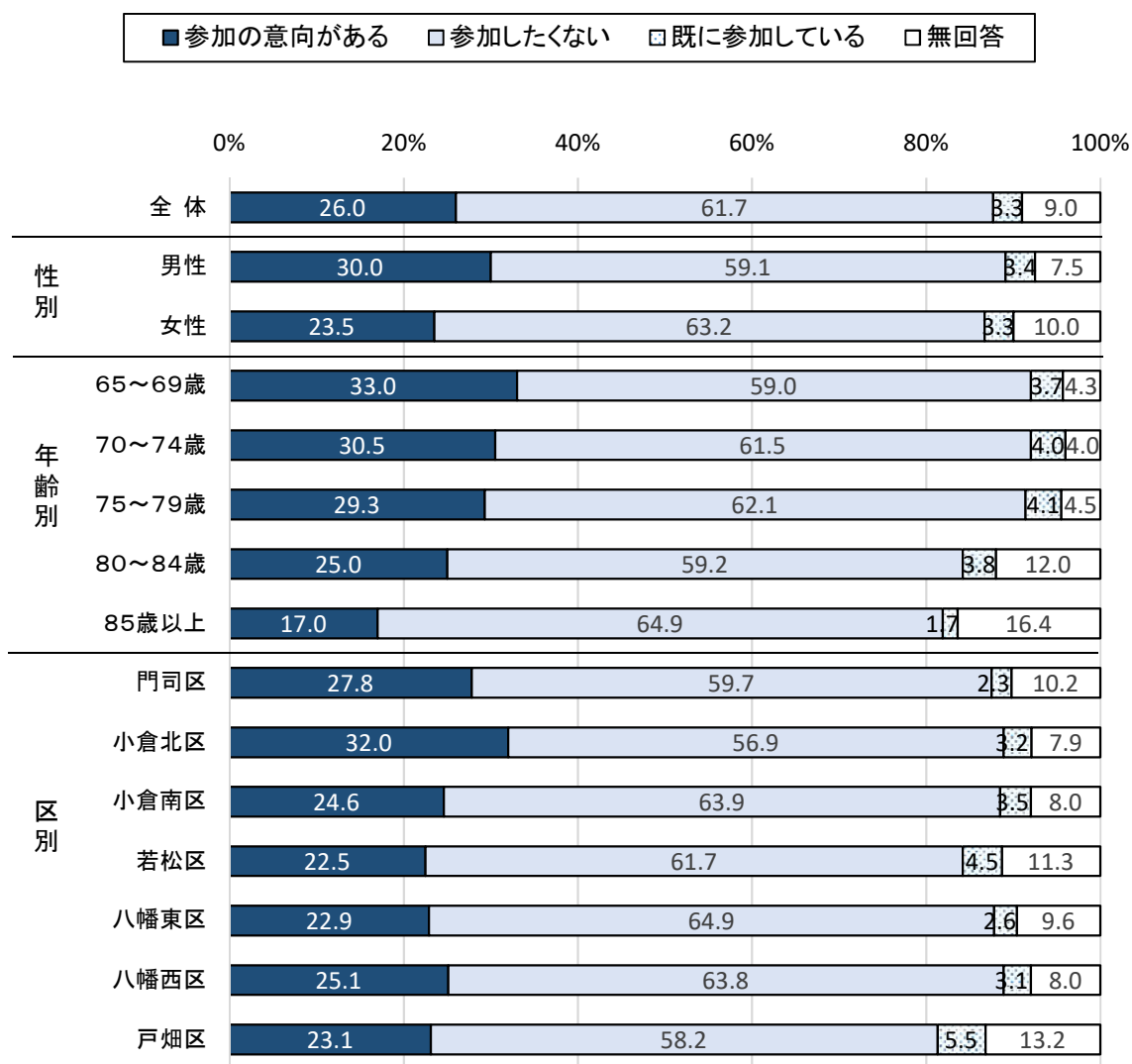
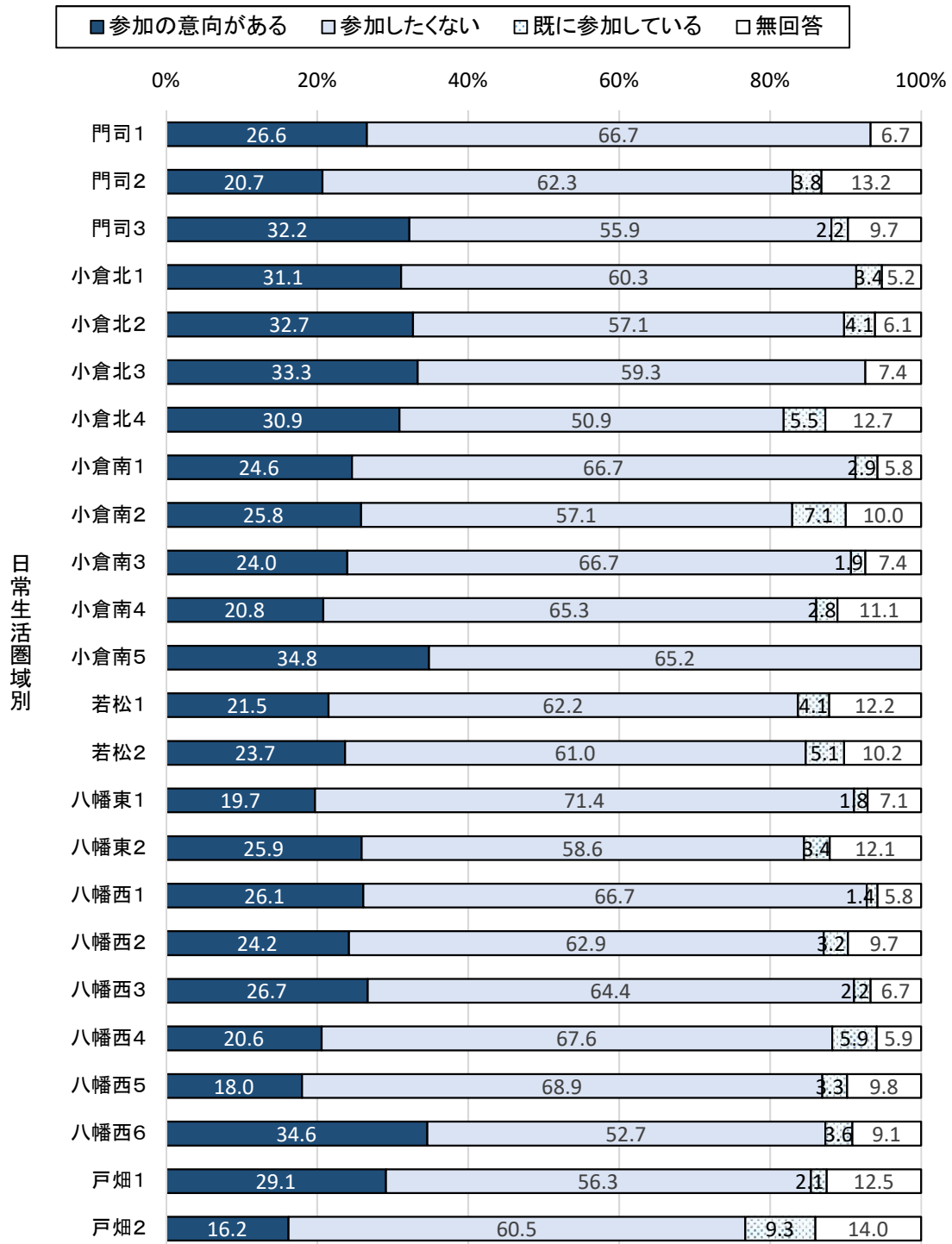


図4-10-② 地域活動の企画・運営への参加意向【日常生活圏域別】



## 2 たすけあいについて

### (1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6-Q1 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいますか。

配偶者や近隣の方等、自身の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「いる」と回答した割合が91.9%となっている。「いる」の割合を男女別にみると、男性が88.7%、女性が93.7%となっており、女性の方が5.0ポイント高い。これを年齢別にみると、75～79歳が94.4%で最も高くなっているが、年齢層が高くなっても割合に大きな差は見られない。

図4-11-① 心配事や愚痴を聞いてくれる人【全域】

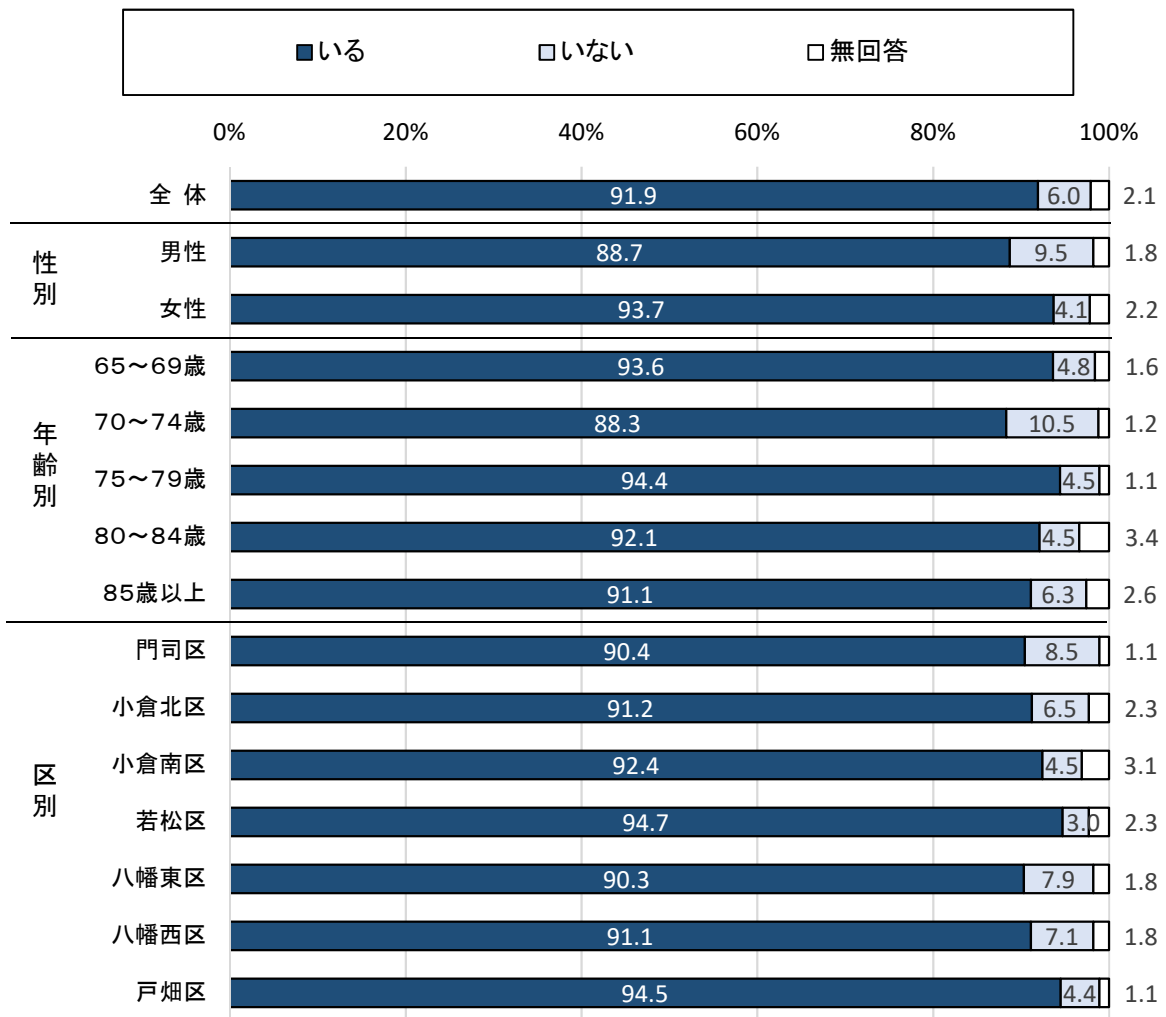
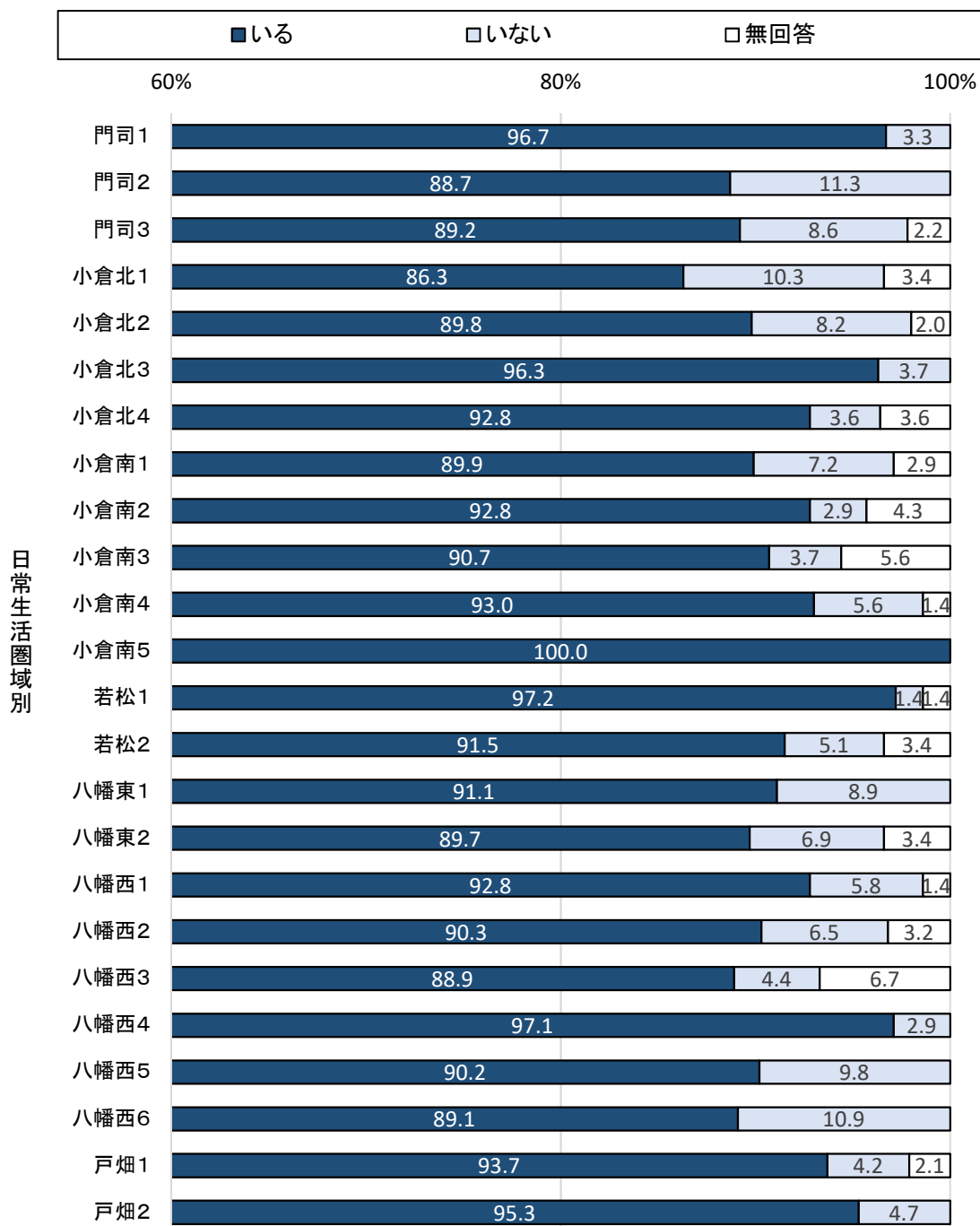


図4-11-② 心配事や愚痴を聞いてくれる人【日常生活圏域別】





## (2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6-Q2 あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人がいますか。

自身が心配事や愚痴を聞いてあげる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「いる」と回答した割合が87.0%となっている。「いる」の割合を男女別にみると、男性が85.3%、女性が87.9%となっており、ほぼ同じ割合となっている。これを年齢別にみると、75～79歳が93.0%と最も高くなっている。

図4-12-① 心配事や愚痴を聞いてあげる人【全域】

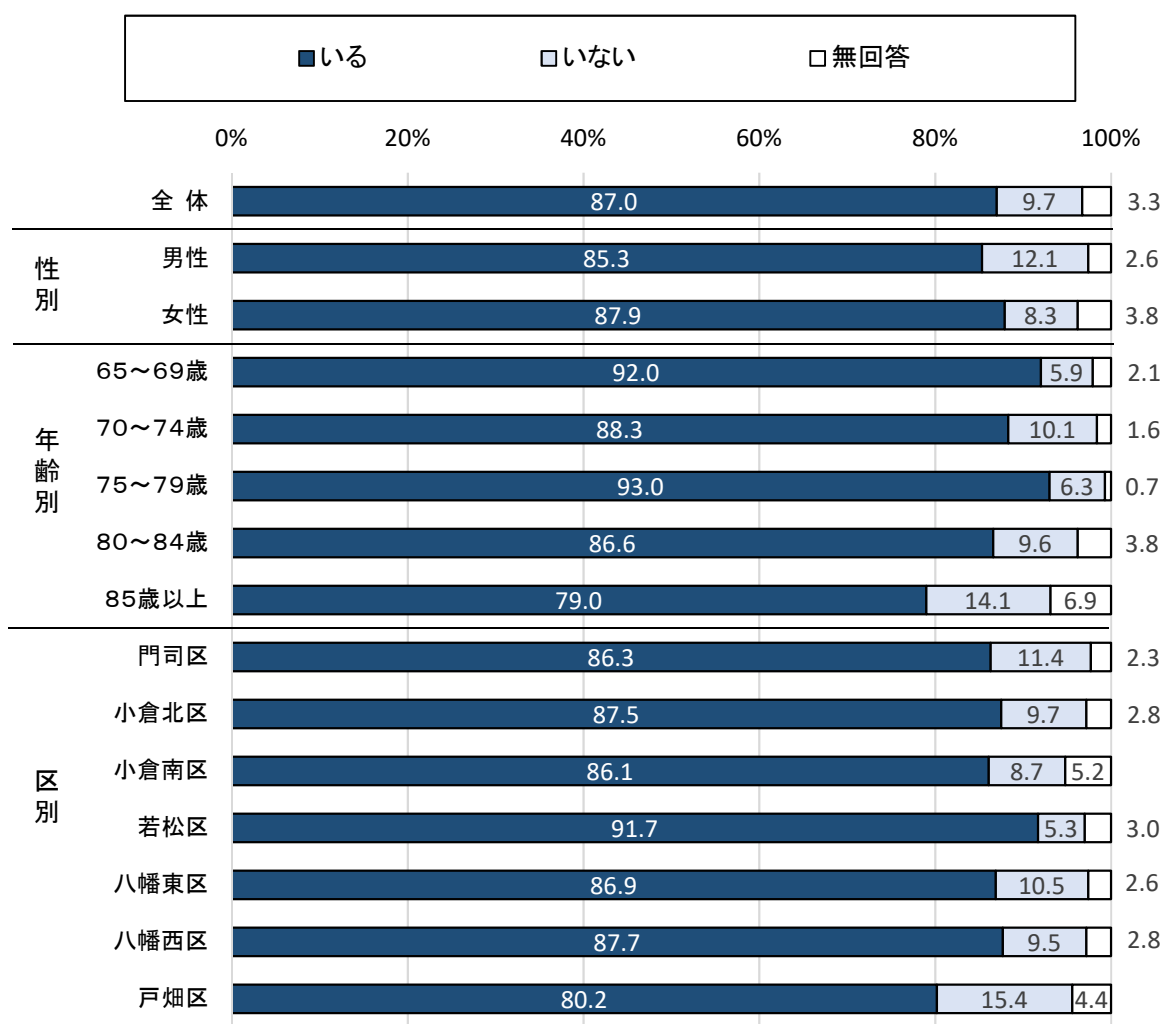
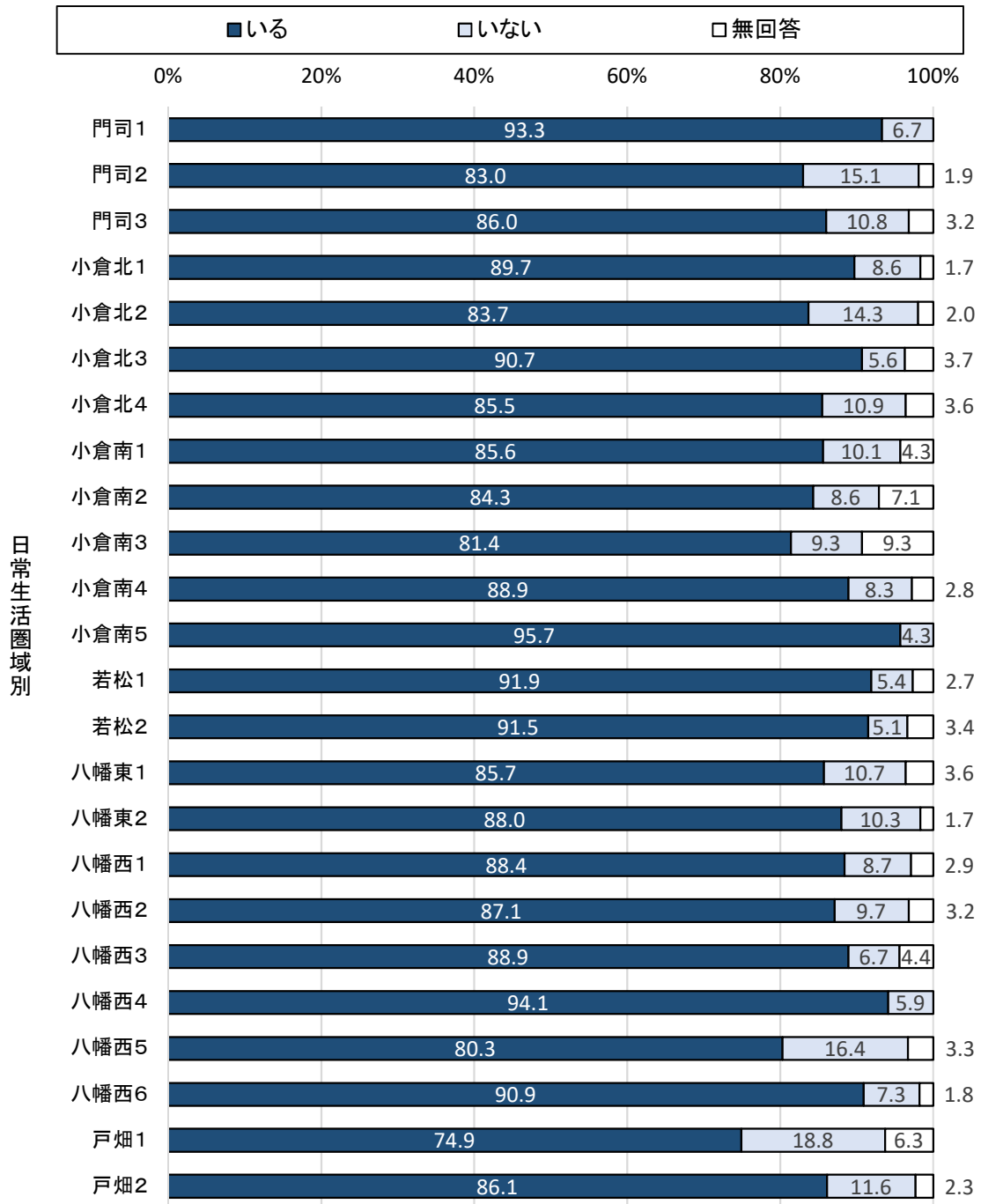


図4-12-② 心配事や愚痴を聞いてあげる人【日常生活圏域別】



### (3) 看病や世話をしてくれる人

問6-Q3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいますか。

自身が病気で寝込んだときに、配偶者や同居の方等、看病や世話をしてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「いる」と回答した割合が89.2%となっている。この割合を男女別にみると、男性が87.9%、女性が89.8%となっており、ほぼ同じ割合となっている。これを年齢別にみても、ほとんど差はなく同じ割合となっている。

図4-13-① 看病や世話をしてくれる人【全域】

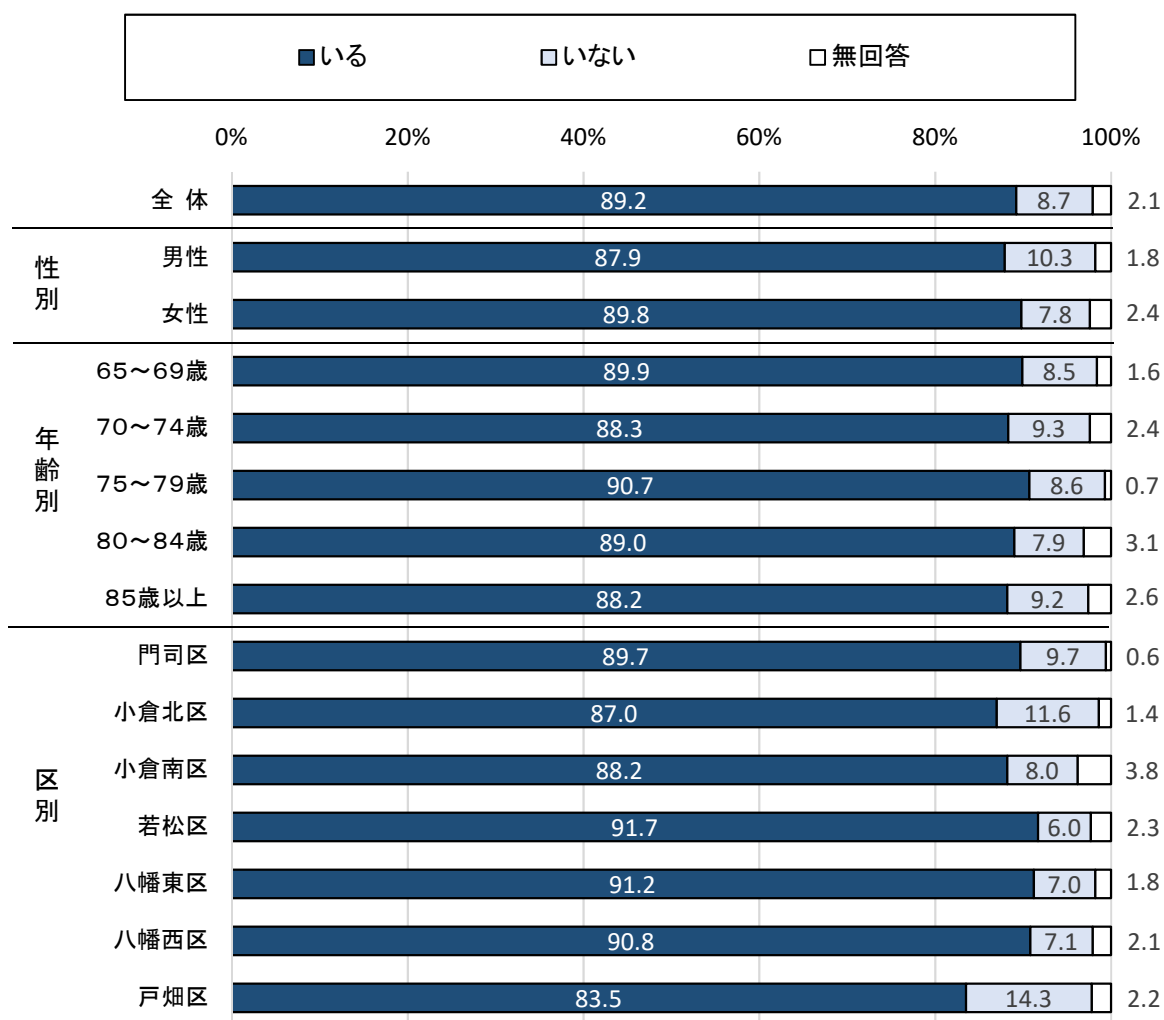
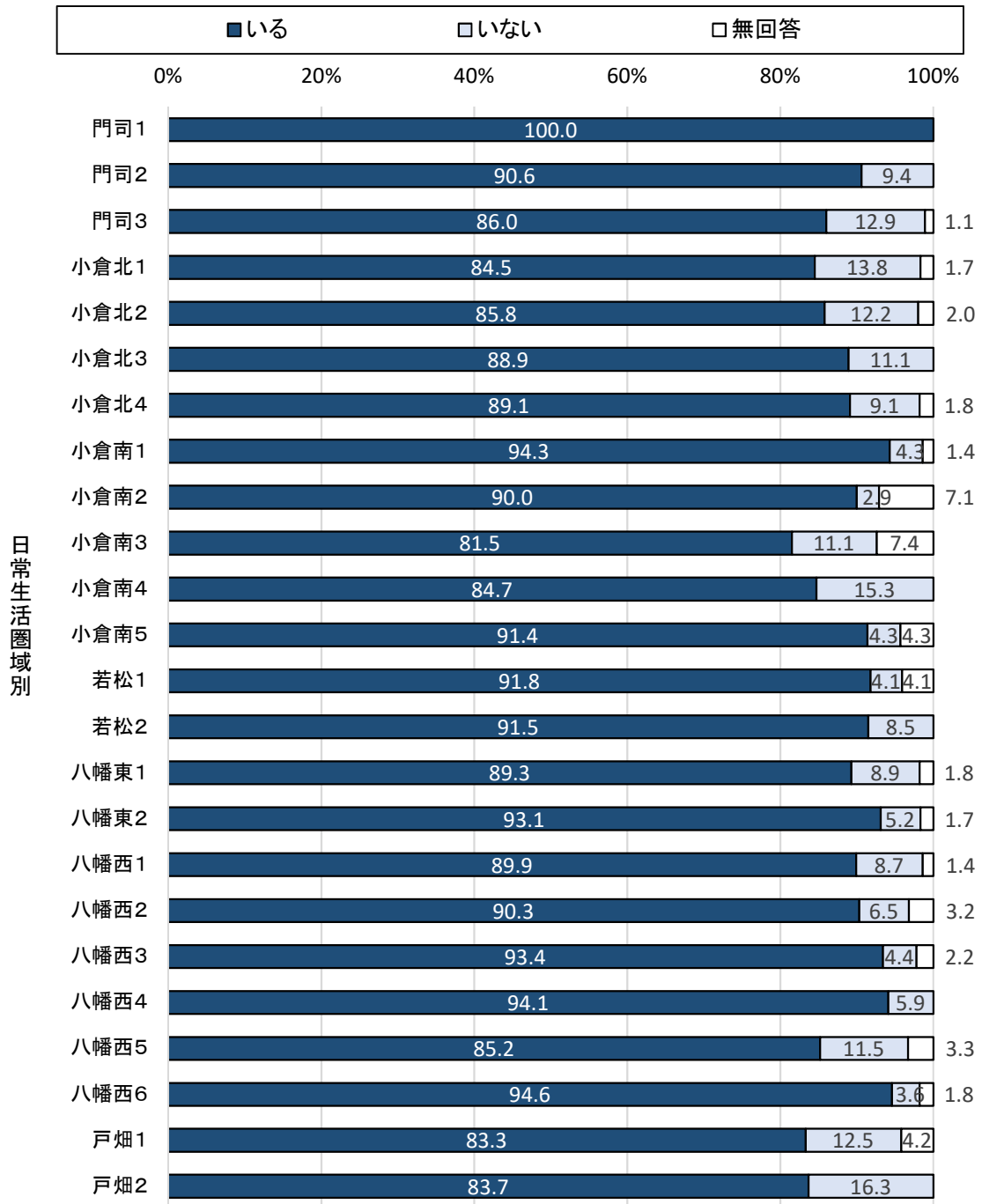


図4-13-② 看病や世話をしてくれる人【日常生活圏域別】



(4) 看病や世話をしてあげる人

問6-Q4 看病や世話をしてあげる人がいますか。

自身が看病や世話をしてあげる相手がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「いる」と回答した割合が73.8%となっている。この割合を男女別にみると、男性が78.5%、女性が71.4%となっており、男性の方が7.1ポイント高い。これを年齢別にみると、85歳以上が59.2%で最も低くなっている。

図4-14-① 看病や世話をしてあげる人【全域】

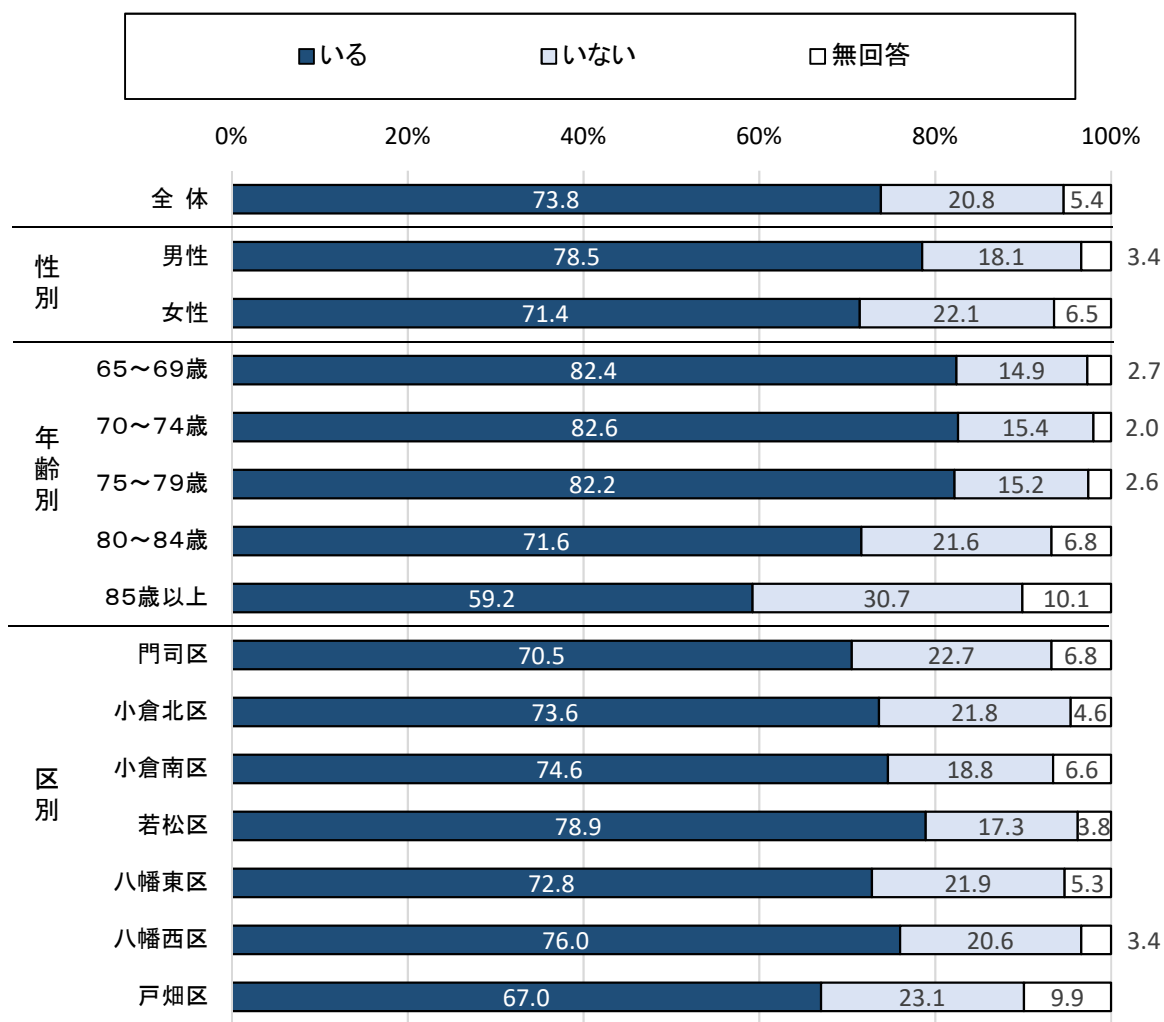
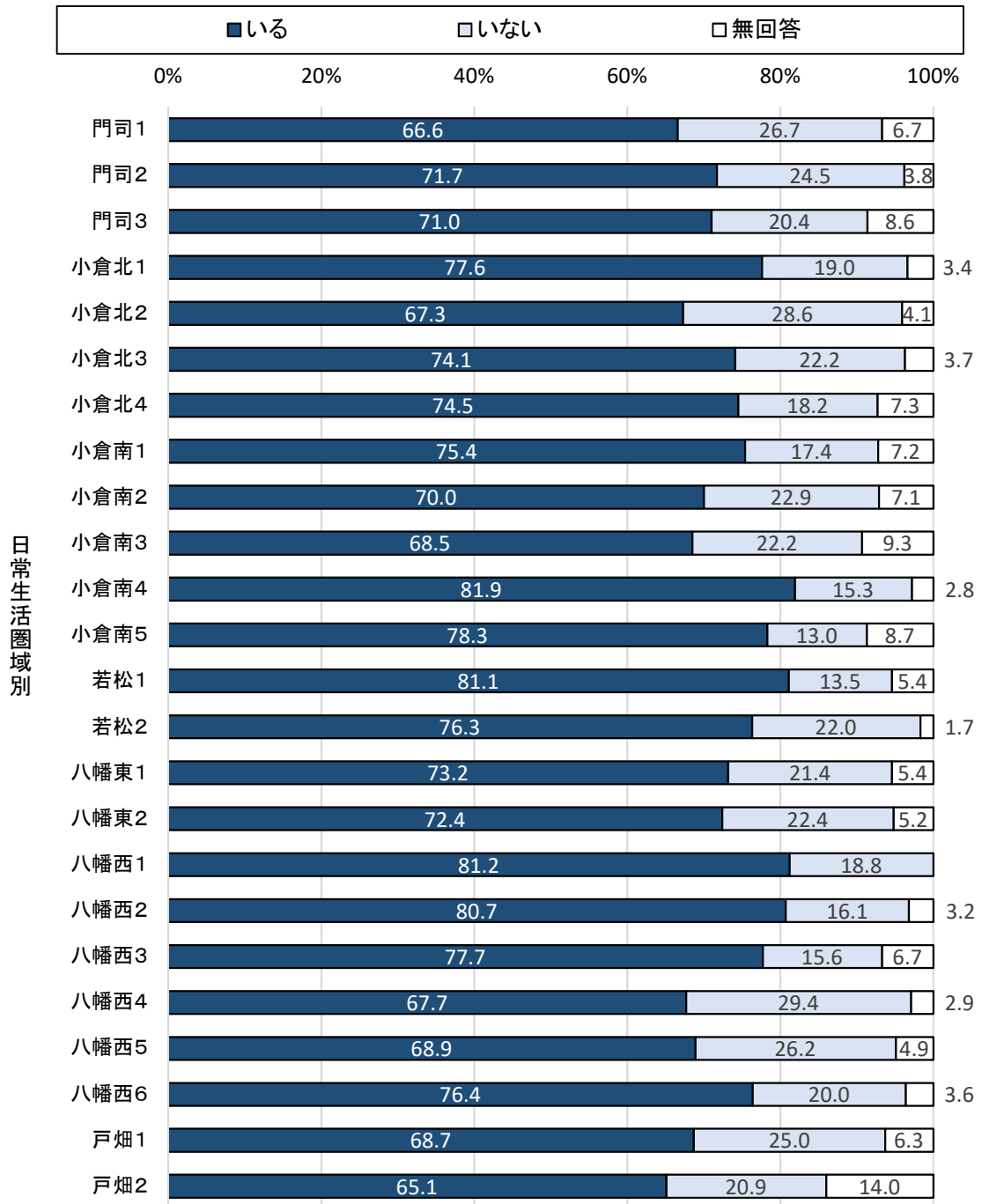


図4-14-② 看病や世話をしあける人【日常生活圏域別】



### 3 認知症に係る相談

#### (1) 自身や家族の認知症の症状

問8-Q1 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身に認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状があるかどうか尋ねたところ、市全体でみると「はい」と回答した割合が9.9%となっている。この割合を男女別にみると、男性が10.1%、女性が9.7%となっており、ほぼ同じ割合となっている。これを年齢別にみても、同様の割合となっている。

図4-15-① 自身や家族の認知症の症状【全域】

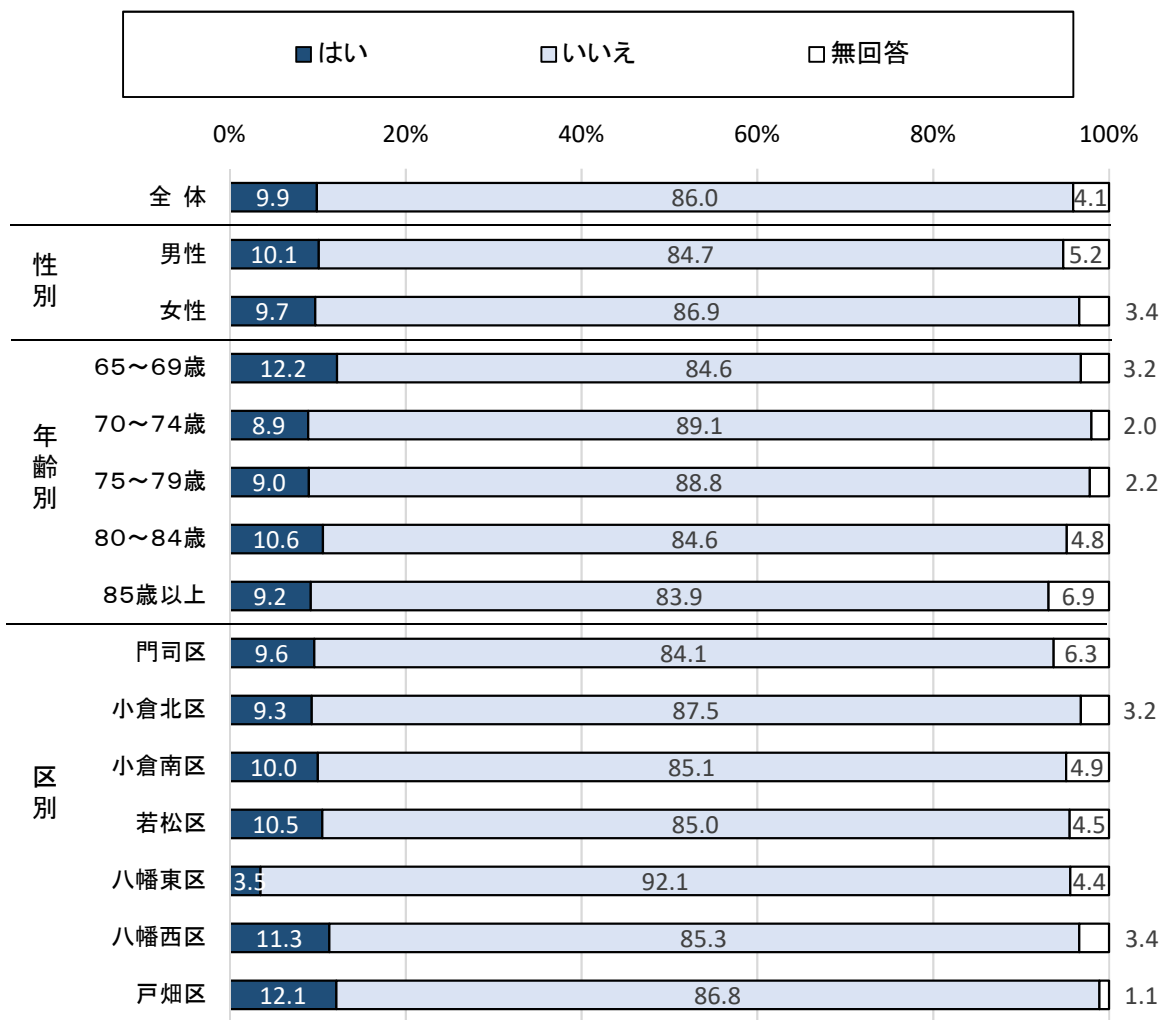
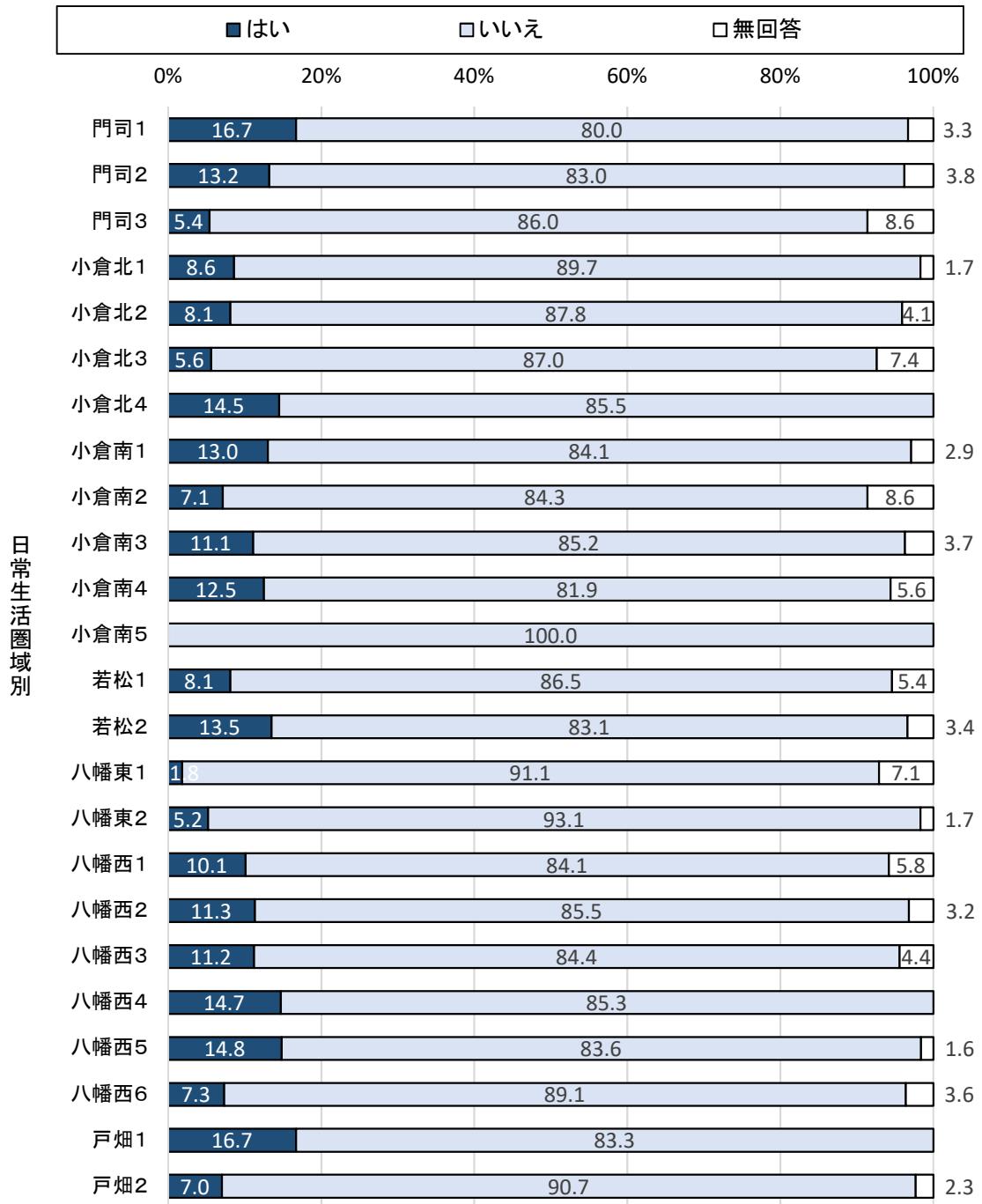


図4-15-② 自身や家族の認知症の症状【日常生活圏域別】





(2) 認知症に関する相談窓口の把握

問8-Q2 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかどうか尋ねたところ、市全体でみると「はい」と回答した割合が28.5%となっている。この割合を男女別にみると、男性が24.4%、女性が31.4%となっており、女性の方が7.0ポイント高い。これを年齢別にみると、75～79歳が31.6%と最も高くなっている。

図4-16-① 認知症に関する相談窓口の把握【全域】

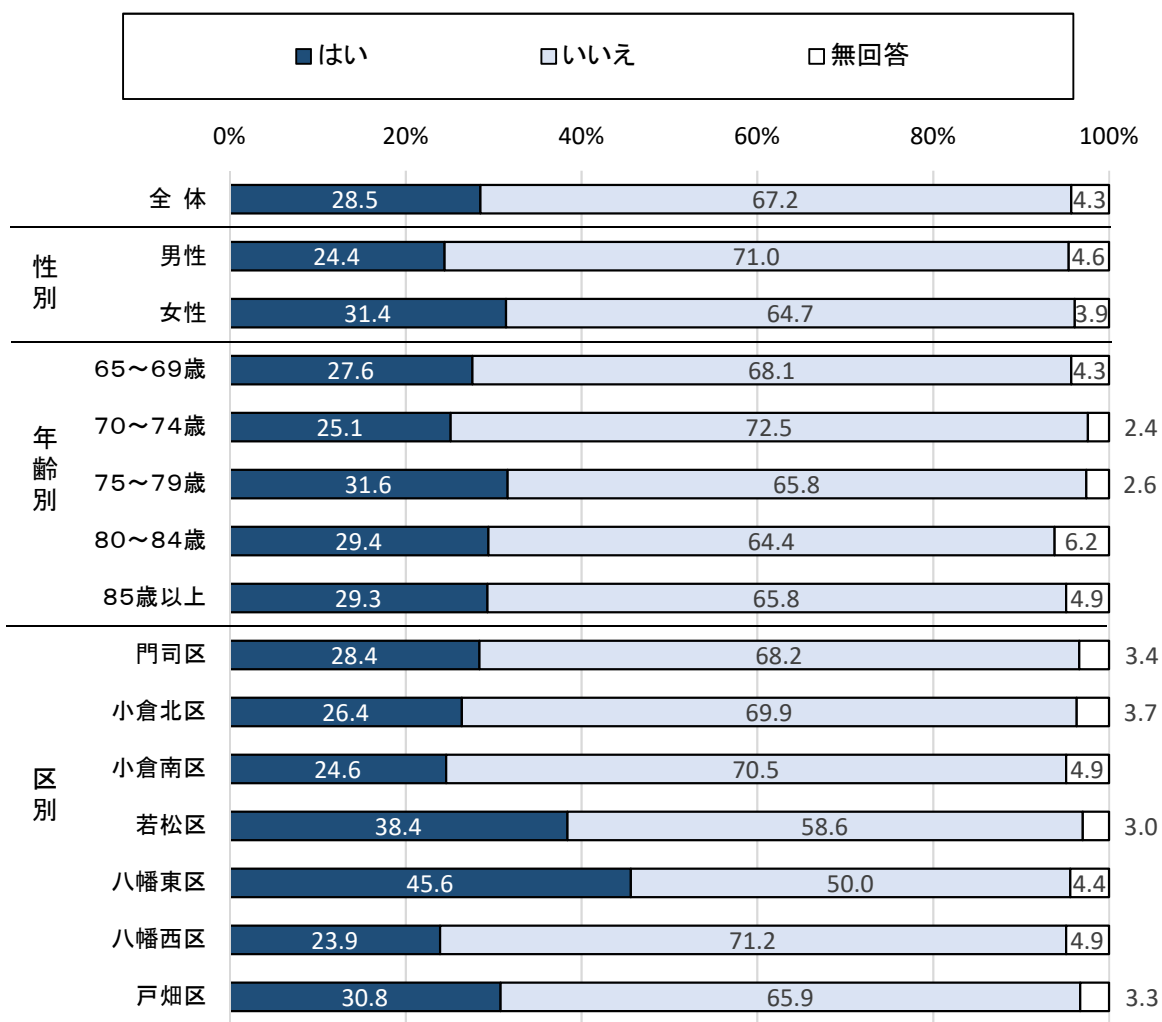
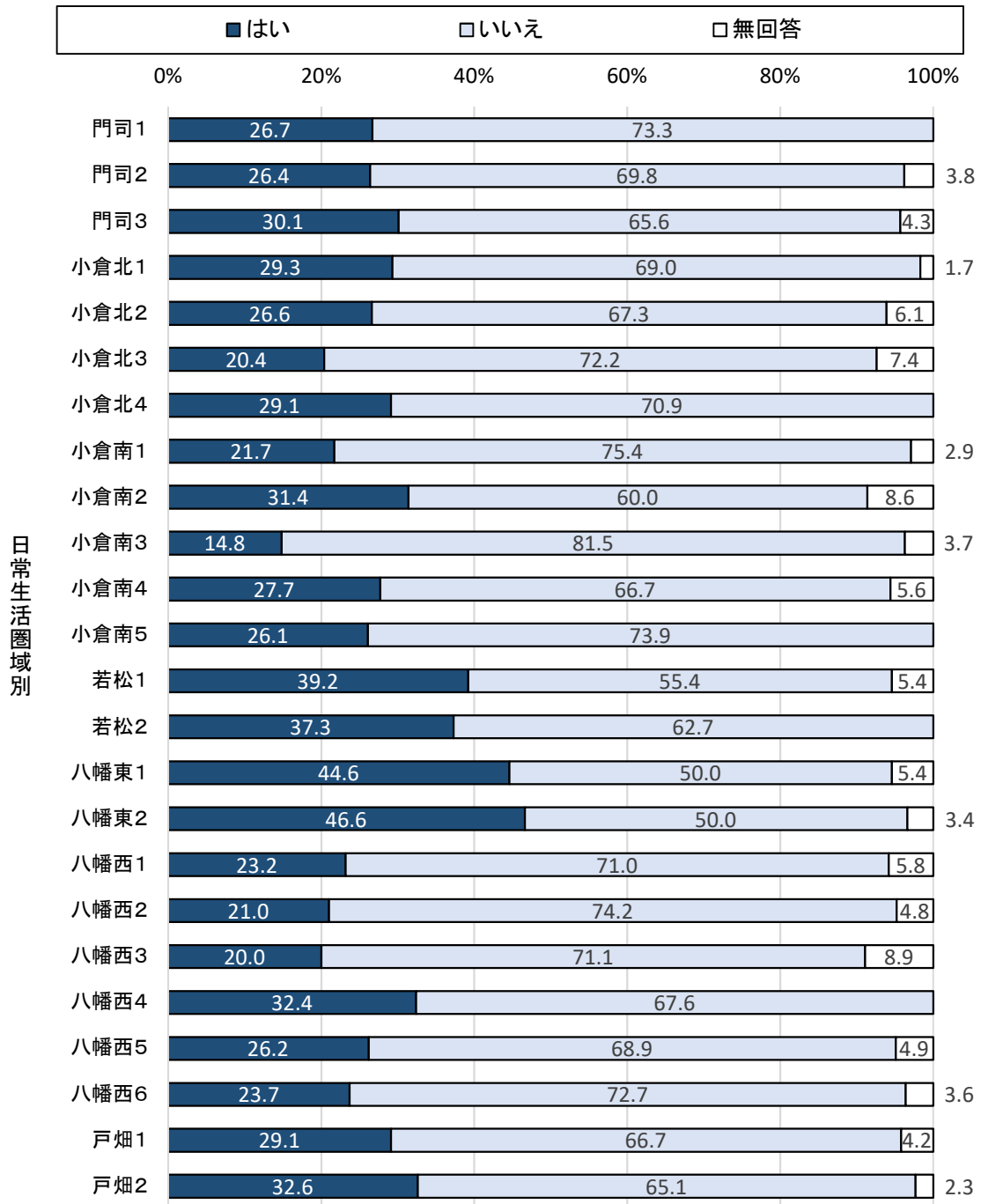


図4-16-② 認知症に関する相談窓口の把握【日常生活圏域別】



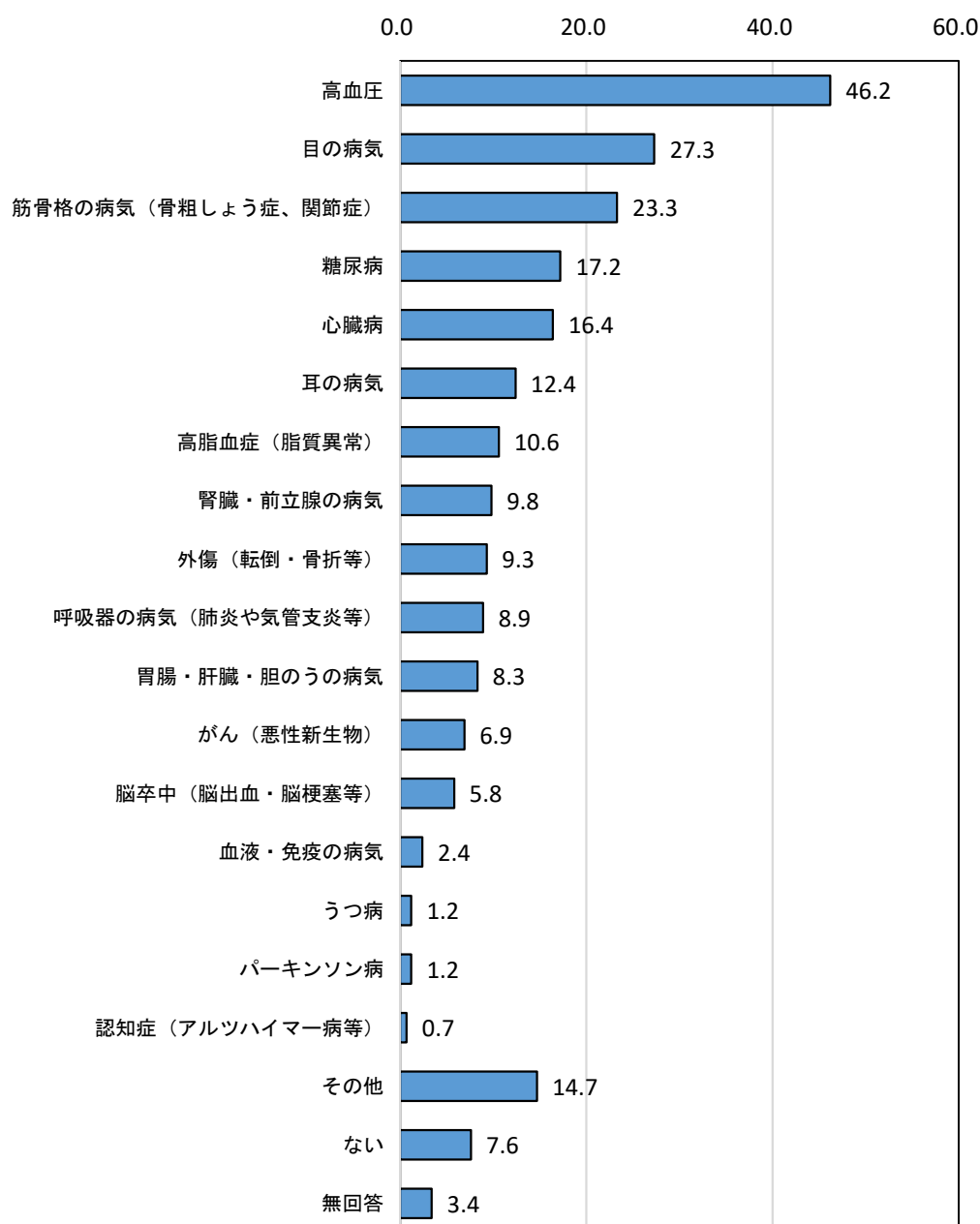
## 第5章 健康・疾病

### 1 疾病

問7-Q6 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。

現在治療中、または後遺症のある病気については、市全体でみると「高血圧」の割合が46.2%で最も高く、次いで「目の病気」27.3%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」23.3%、「糖尿病」17.2%、「心臓病」16.4%などとなっている。

図5-1 現在治療中または後遺症のある病気



## (1) 高血圧

高血圧の有病率は、市全体でみると 46.2%となっている。男女別にみると、男性が 45.6%、女性が 47.1%となっており、女性の方が 1.5 ポイント高い。年齢別にみると、75 歳以上の年齢層で有病率が高くなっている。

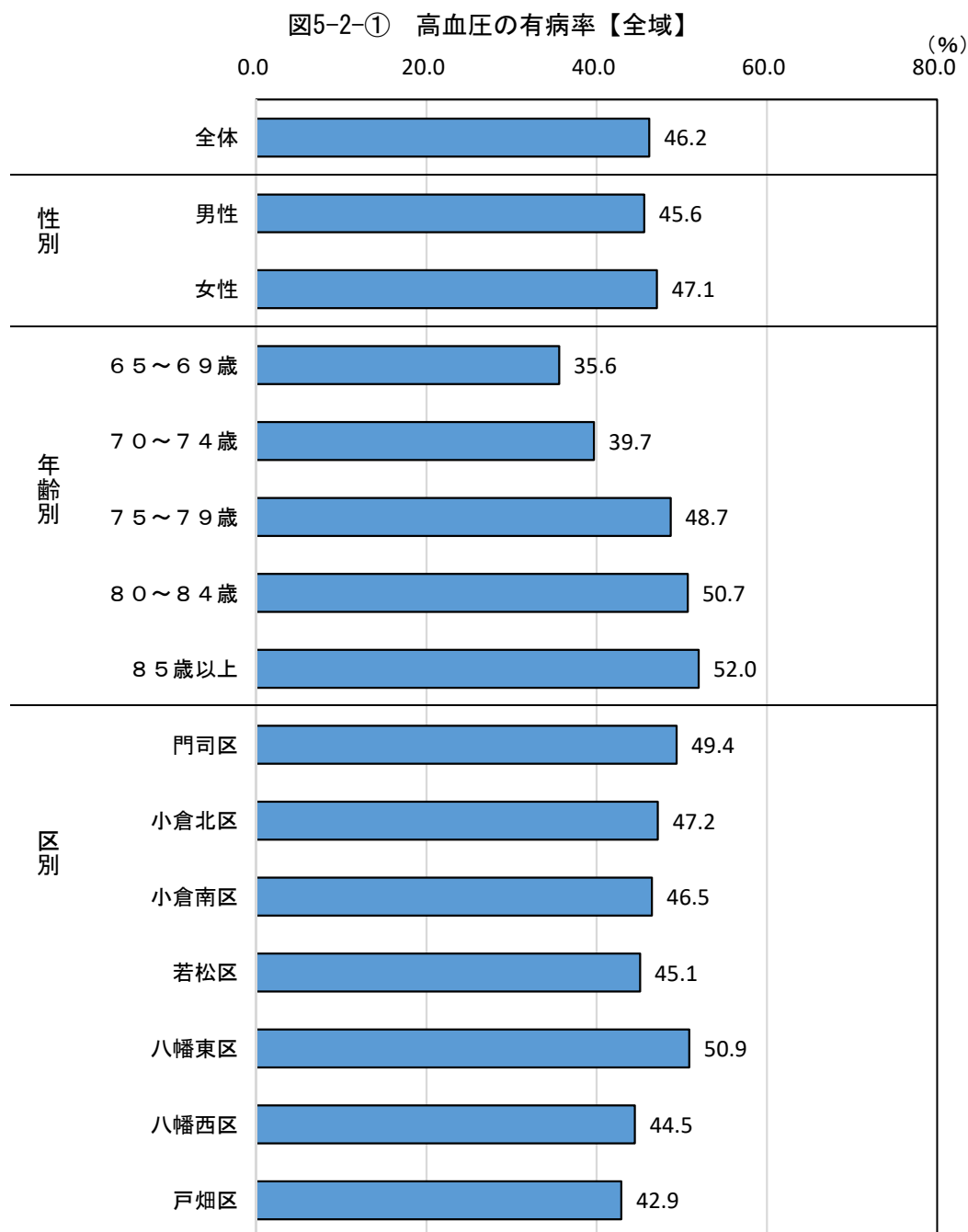
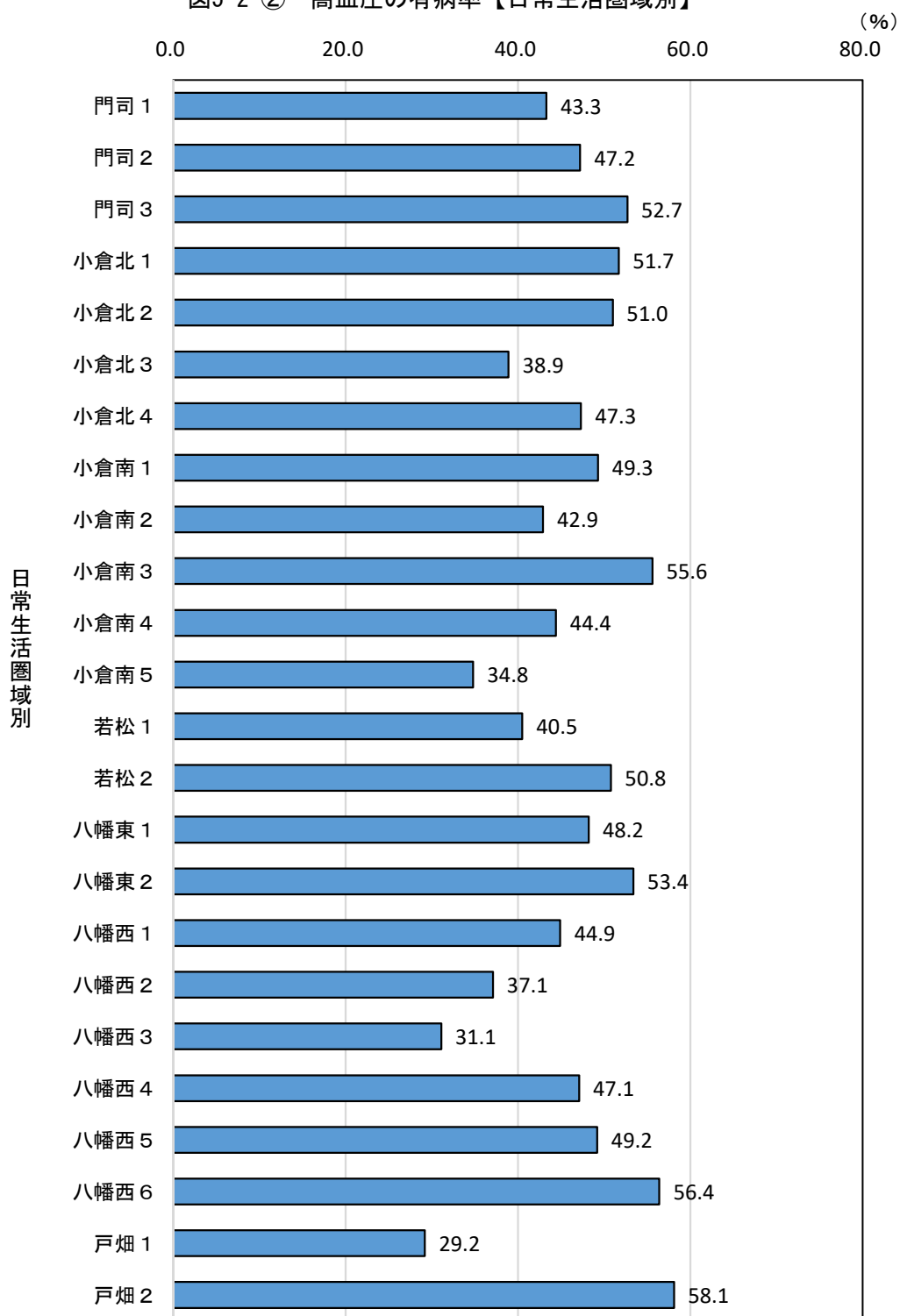


図5-2-② 高血圧の有病率【日常生活圏域別】



(2) 脳卒中

脳卒中（脳出血・脳梗塞等）の有病率は、市全体でみると 5.8%となっている。男女別にみると、男性が 8.5%、女性が 4.2%となっており、男性の方が 4.3 ポイント高い。年齢別にみると、70 歳以上の年齢層で有病率が高い傾向がみられる。

図5-3-① 脳卒中の有病率【全域】

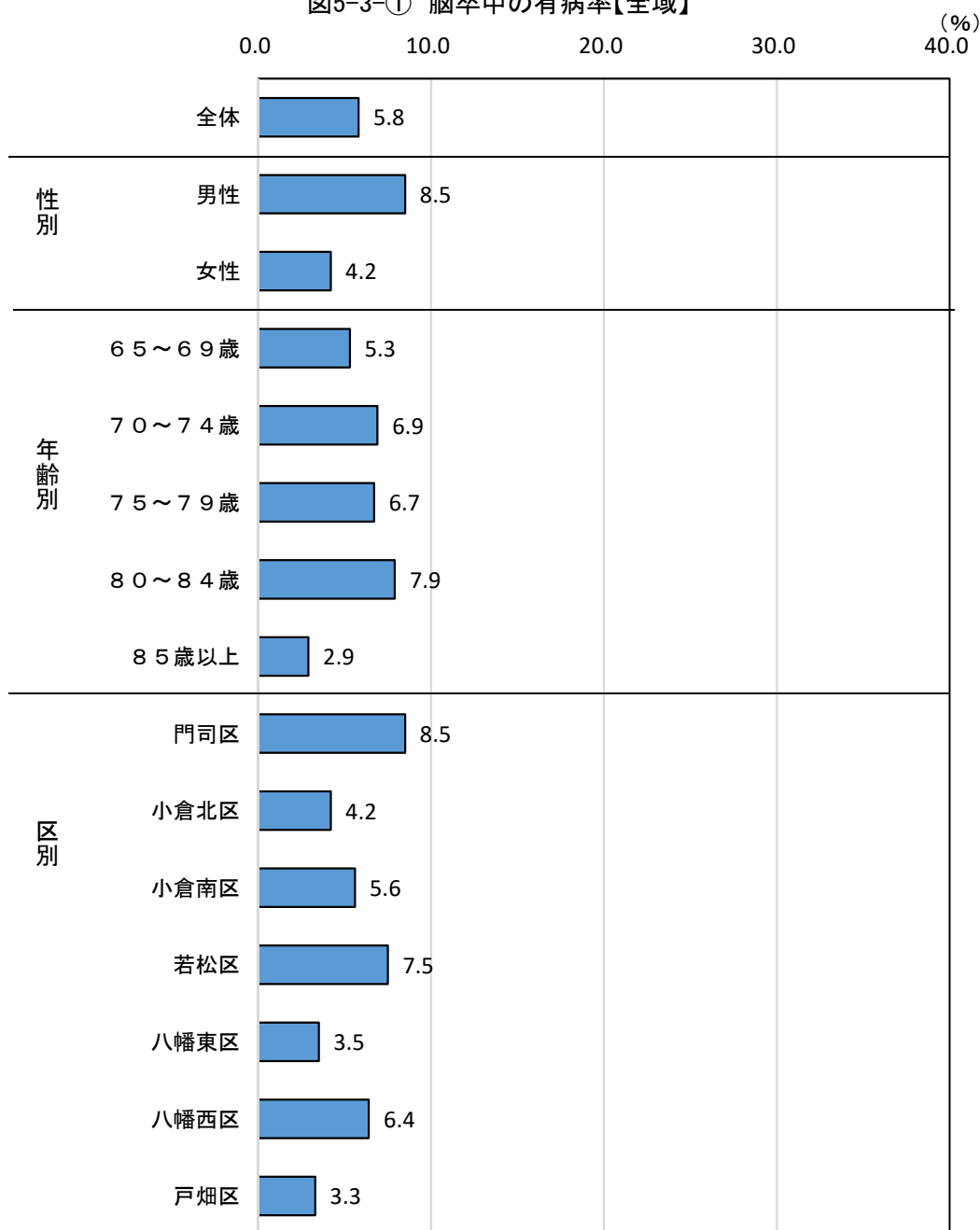
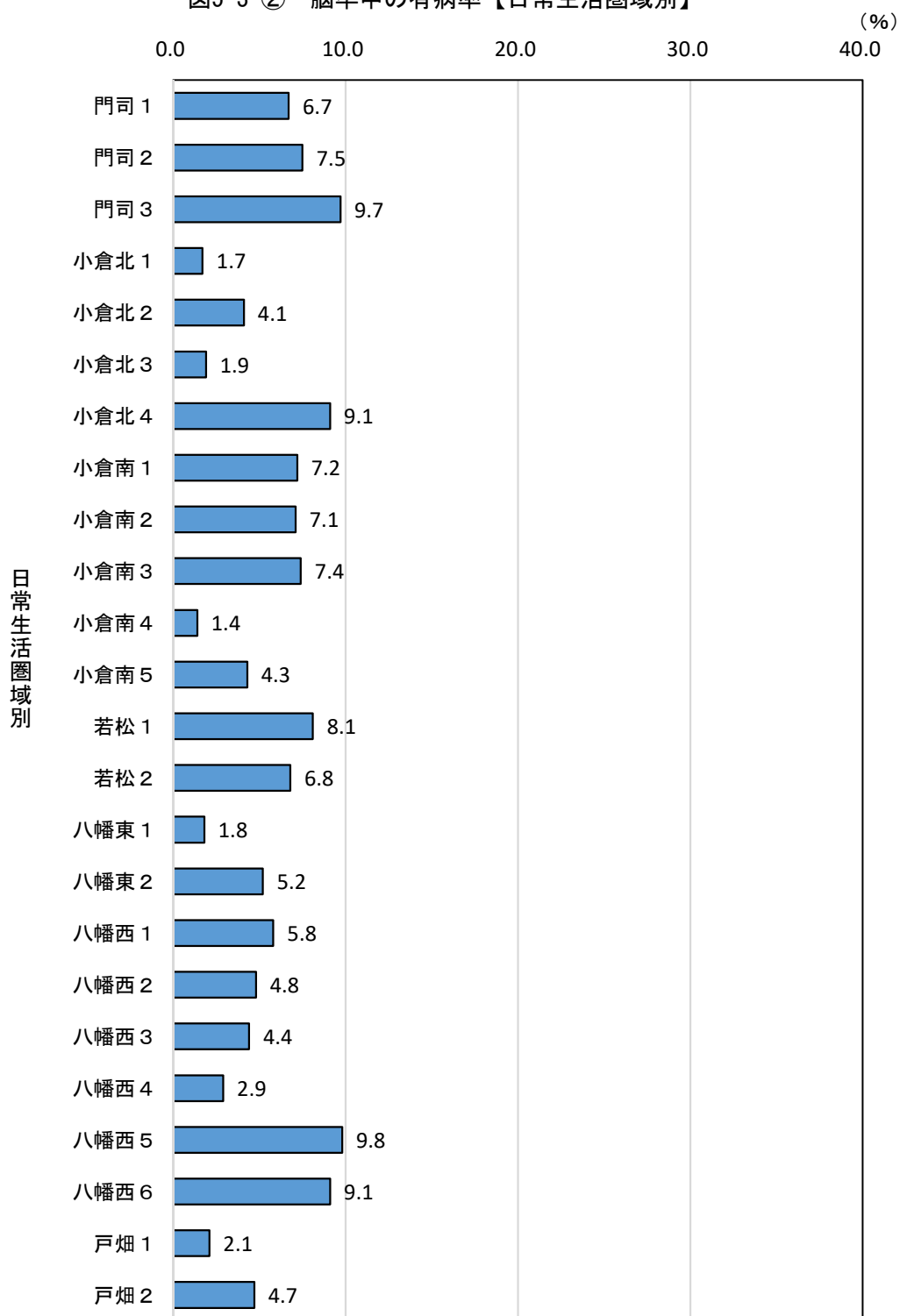


図5-3-② 脳卒中の有病率【日常生活圏域別】



### (3) 心臓病

心臓病についてみると、市全体の有病率は 16.4%となっている。男女別にみると、男性が 20.2%、女性が 14.4%となっており、男性の方が 5.8 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって高くなっている。

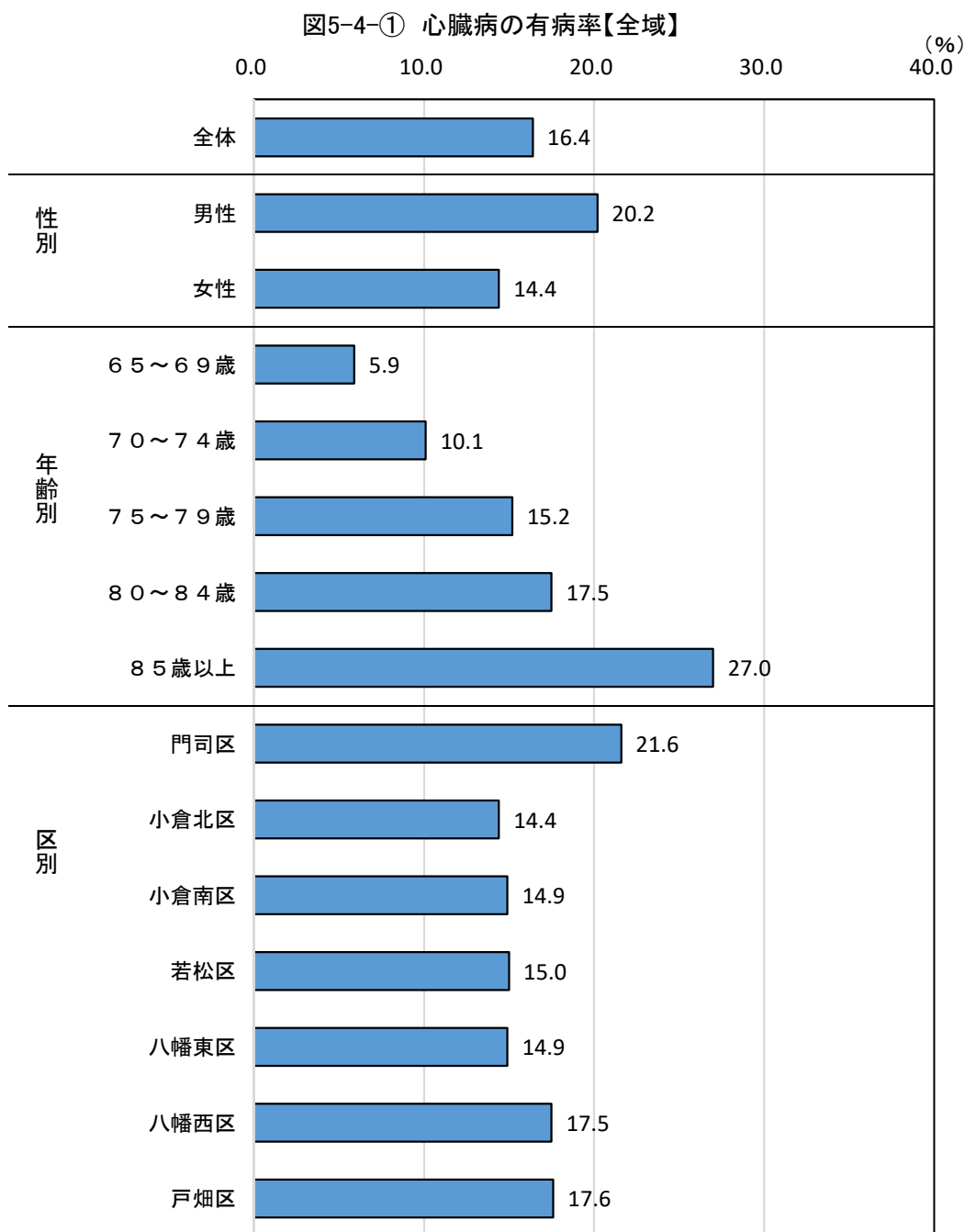
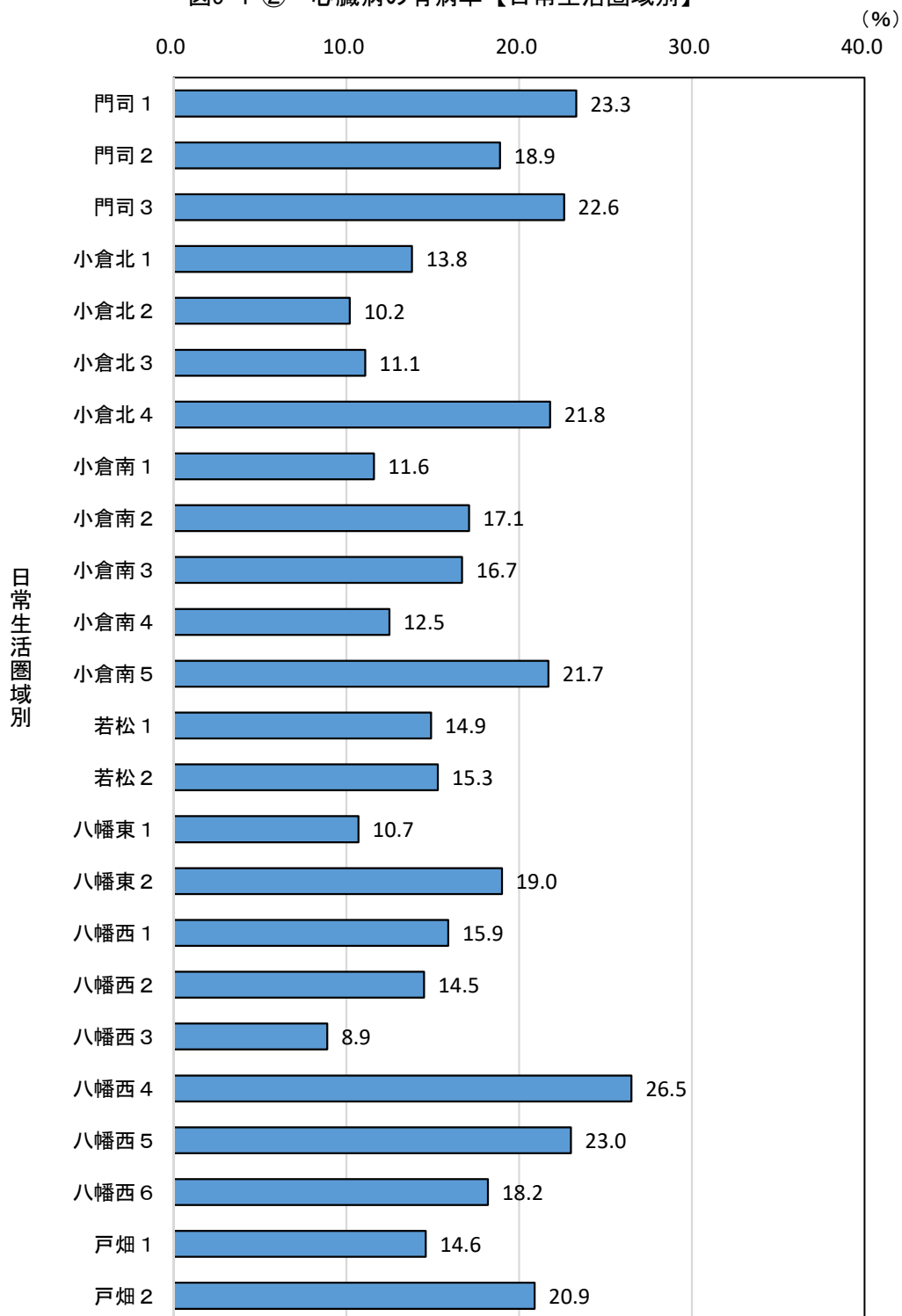




図5-4-② 心臓病の有病率【日常生活圏域別】



#### (4) 糖尿病

糖尿病についてみると、市全体の有病率は 17.2%となっている。男女別にみると、男性が 22.8%、女性が 13.7%となっており、男性の方が 9.1 ポイント高い。年齢別にみると、75～79 歳が 20.1%と最も高くなっている。

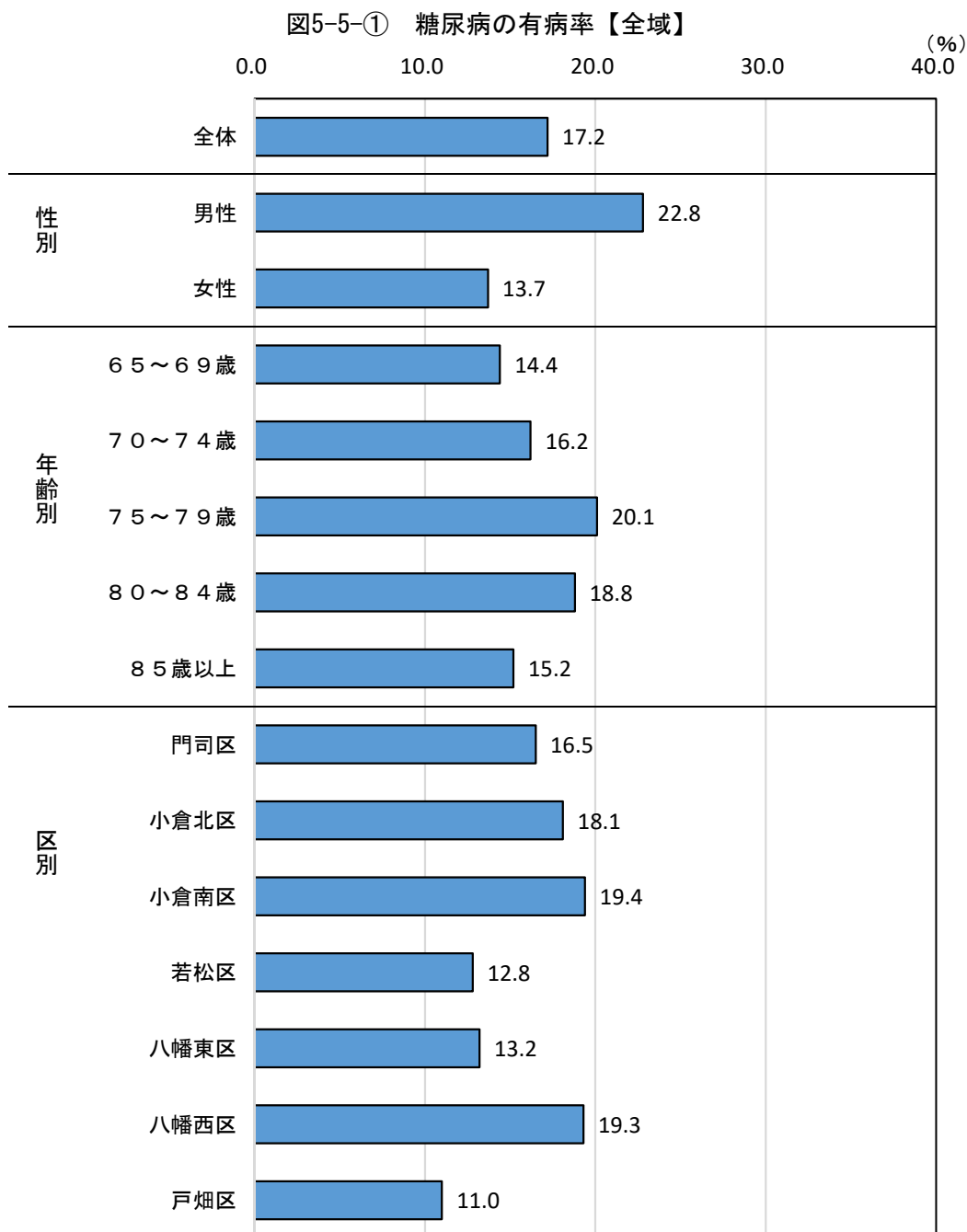
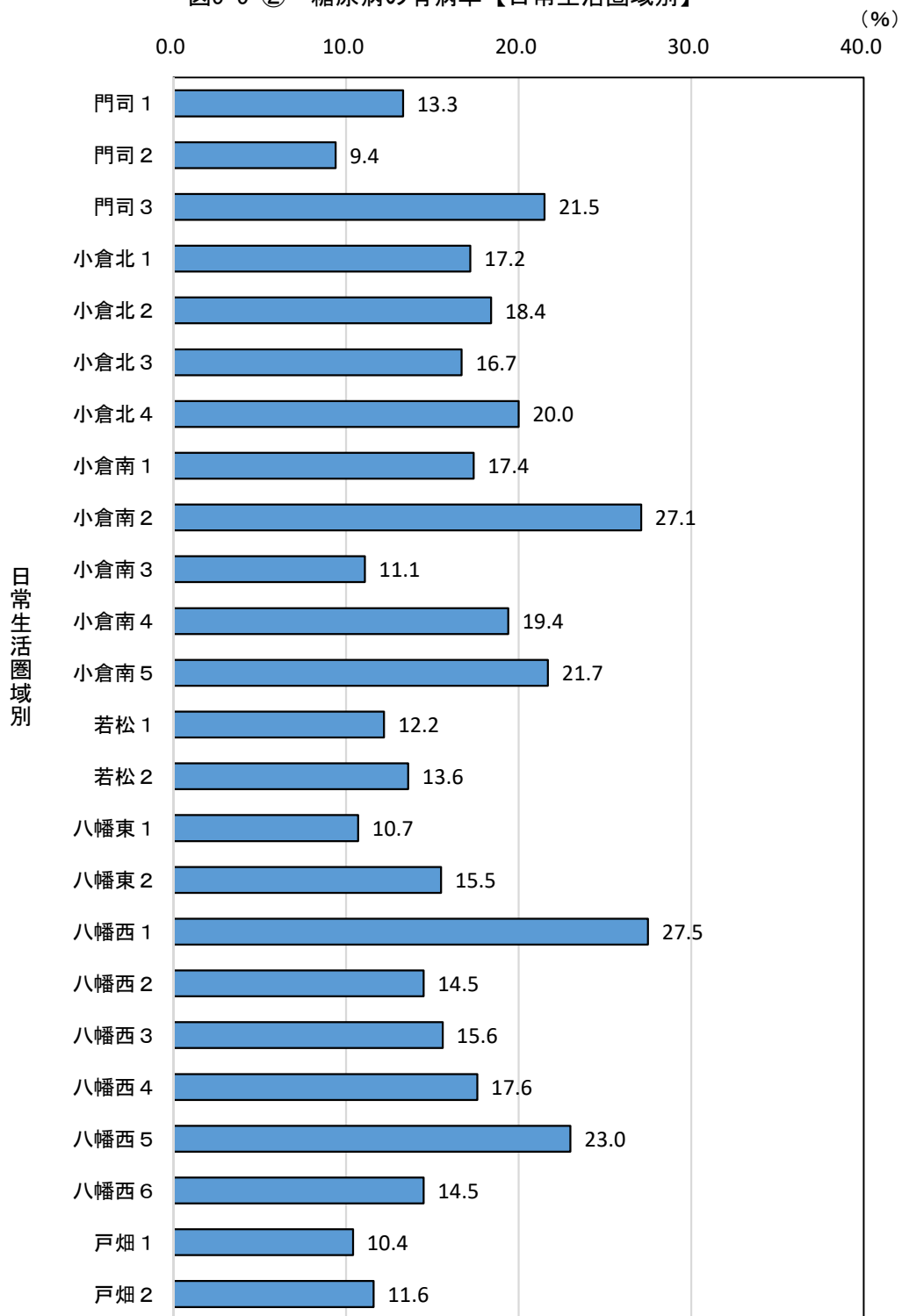


図5-5-② 糖尿病の有病率【日常生活圏域別】



### (5) 筋骨格の病気

筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）の有病率は、市全体で見ると 23.3%となっている。男女別にみると、男性が 9.9%、女性が 30.9%となっており、女性の方が 21.0 ポイント高い。年齢別にみると、80～84 歳までは年齢層が上がるにしたがって高くなっている。

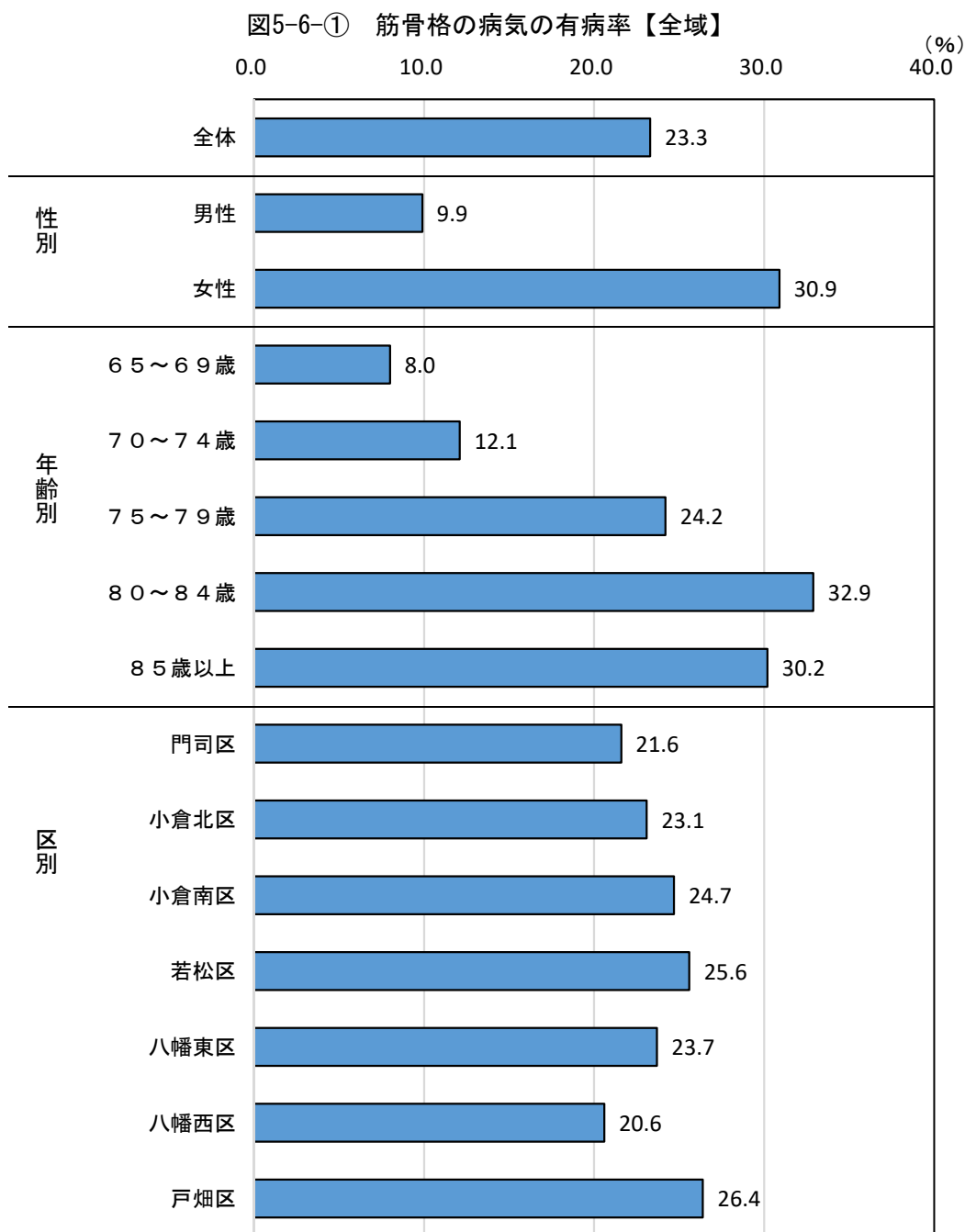
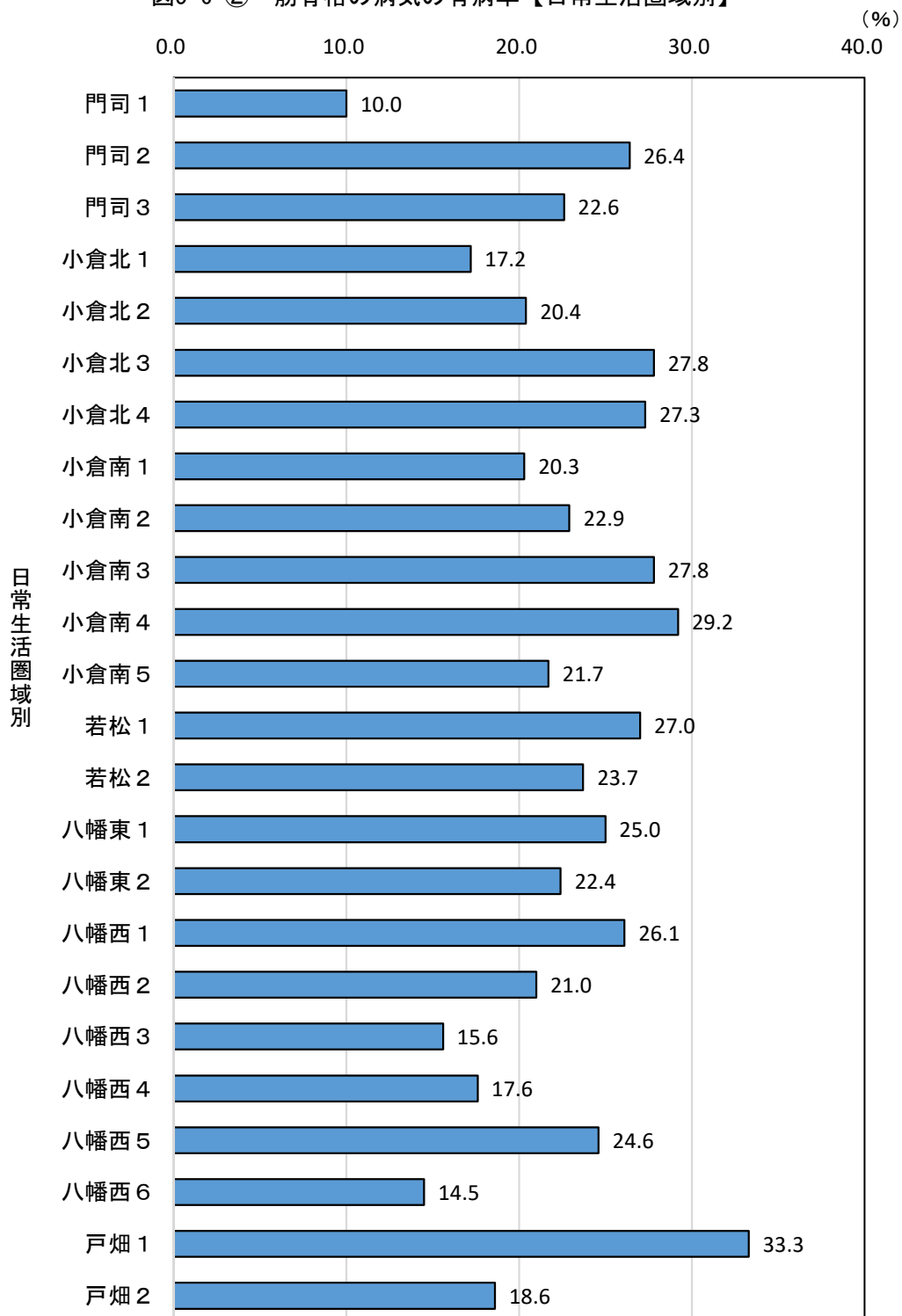


図5-6-② 筋骨格の病気の有病率【日常生活圏域別】



(6) がん

がん（悪性新生物）の有病率は、市全体でみると 6.9%となっている。男女別にみると、男性が 8.7%、女性が 5.9%となっており、男性の方が 2.8 ポイント高い。年齢別にみると、65～69 歳が 3.2%と最も低く、その他の年齢層では顕著な差はみられない。

図5-7-① がんの有病率【全域】

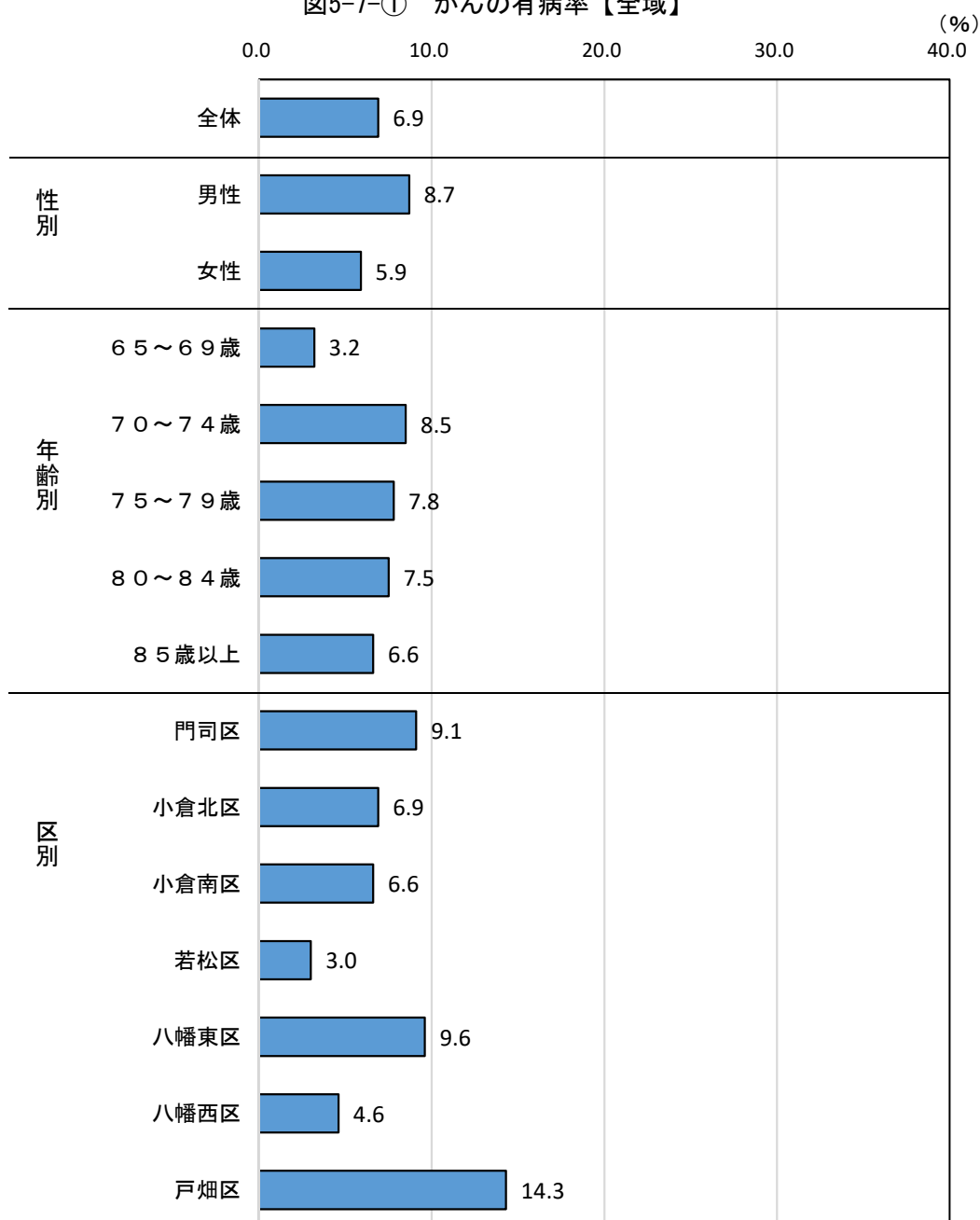
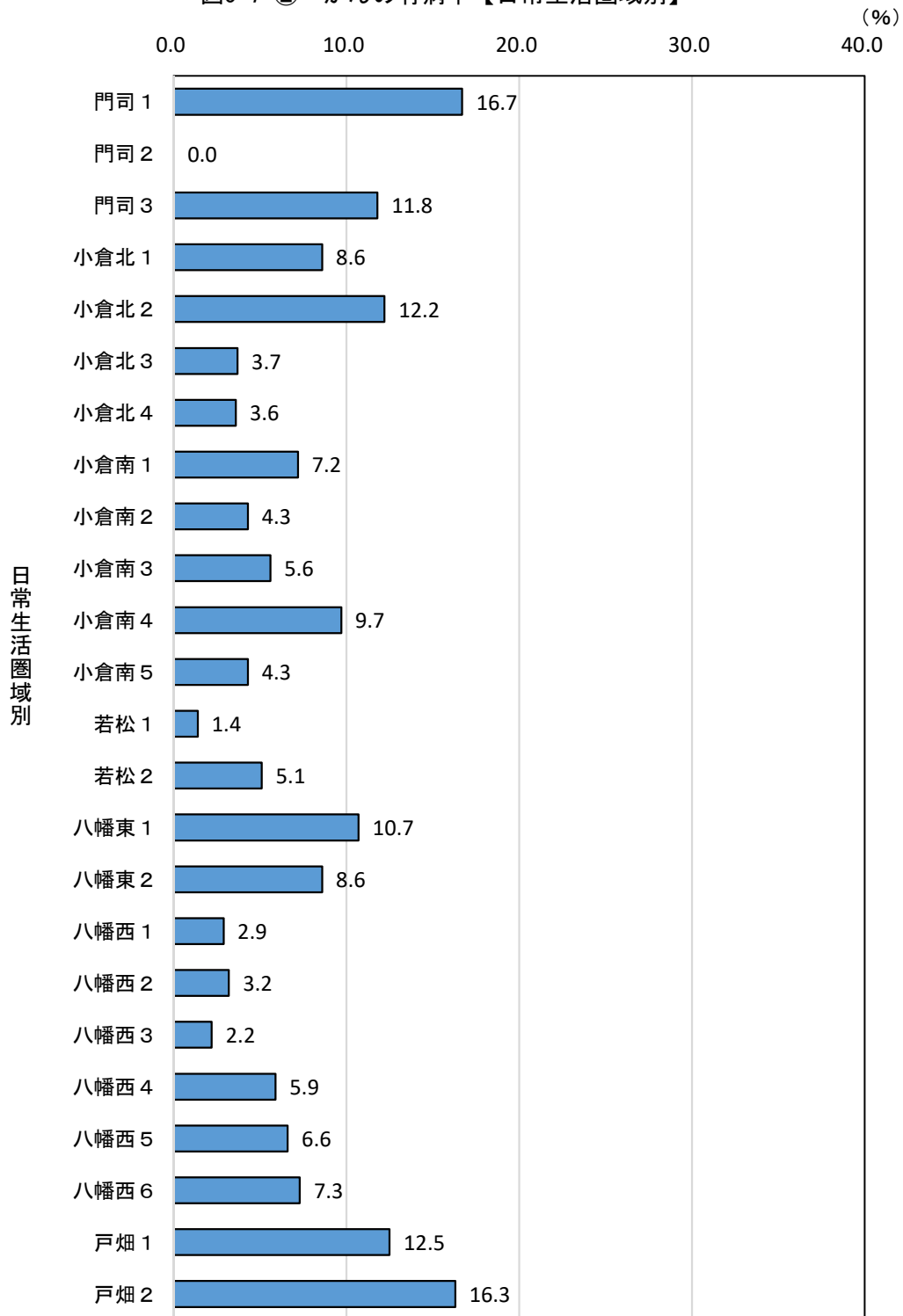


図5-7-② がんの有病率【日常生活圏域別】



## 2 主観的健康感

### (1) 健康状態

問7-Q1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

主観的健康感に関する回答結果は、市全体でみると「まあよい」の割合が51.1%で最も高く、次いで「あまりよくない」31.7%、「よくない」8.4%、「とてもよい」6.2%の順となっており、「とてもよい」と「まあよい」の合計（健康群）は57.3%となっている。

健康群の割合を男女別にみると、男性が58.1%、女性が56.6%となっており、男性の方が1.5ポイント高い。年齢別にみると、健康群の割合は年齢層が上がるにしたがって低くなっている。

図5-8-① 現在の健康状態【全域】

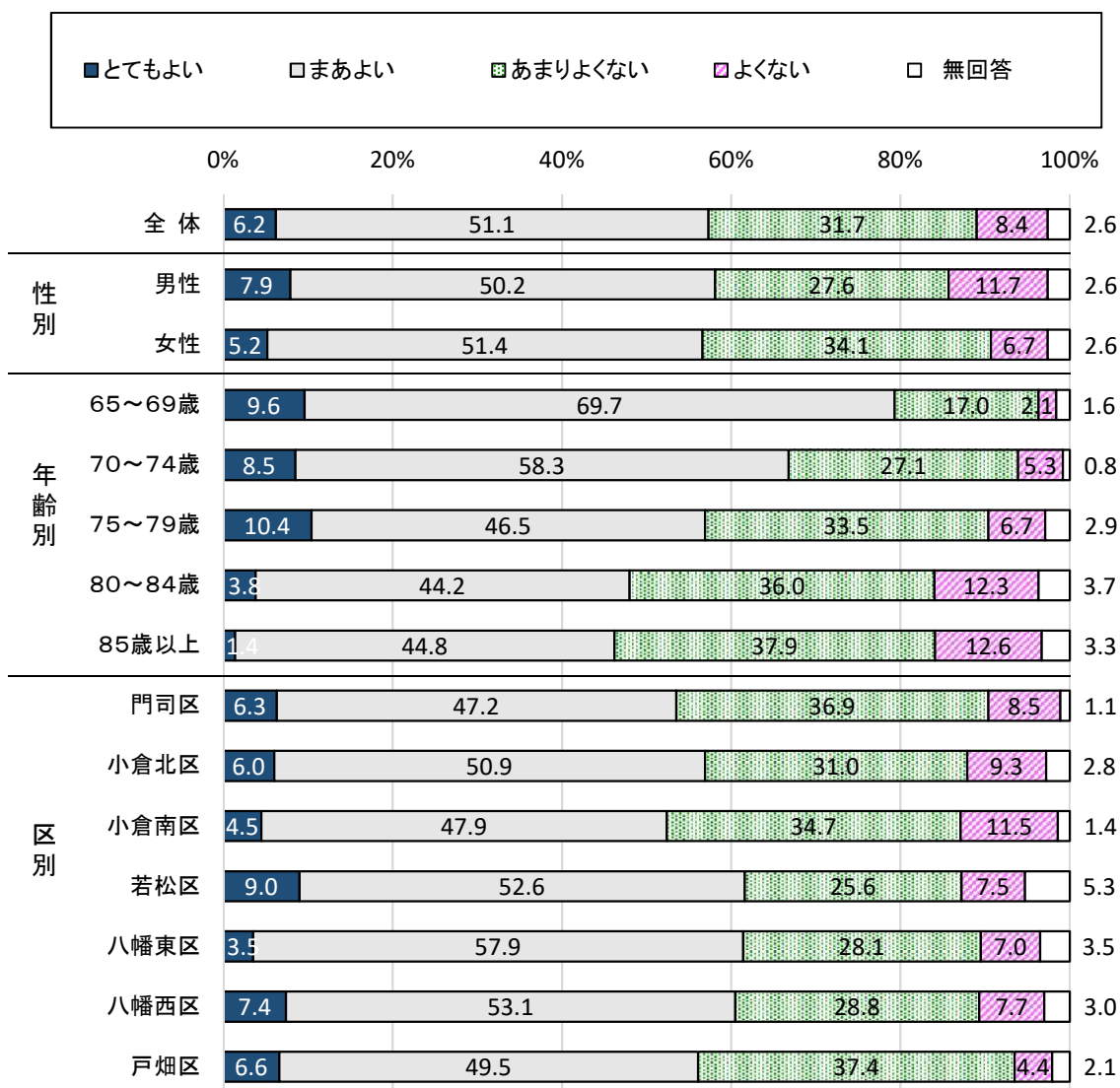
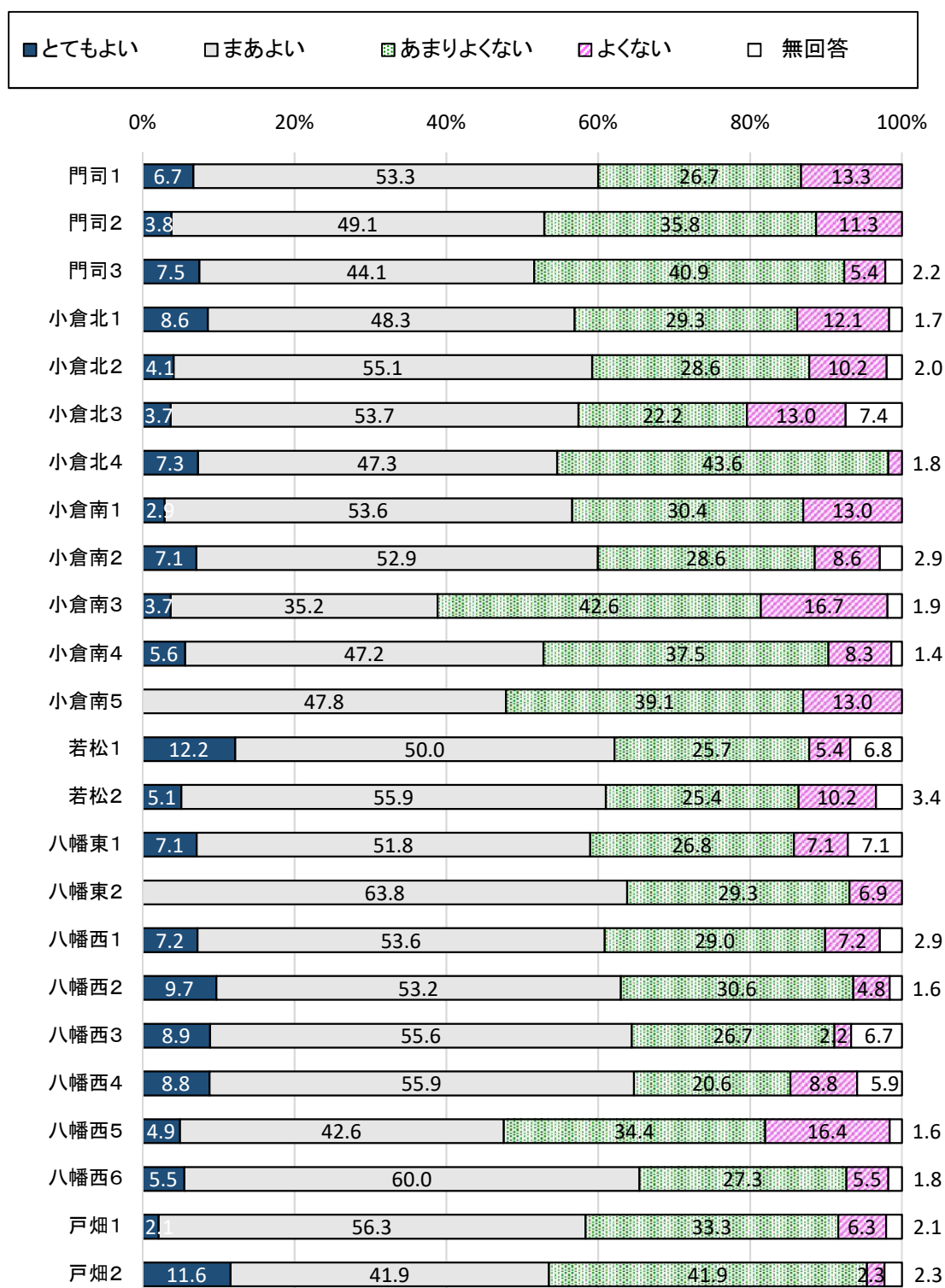




図5-8-② 現在の健康状態【日常生活圏域別】



(2) 幸福感

問7-Q2 あなたは、現在どの程度幸せですか。

自身の幸福感について、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として尋ねたところ、市全体でみると平均値が6.8となっている。この数値を男女別にみると、男性が6.5、女性が7.1となっており、女性の方が平均値が高い。これを年齢別にみると、75～79歳が7.1と最も高くなっているものの、その他の年齢層と大きな差は見られない。

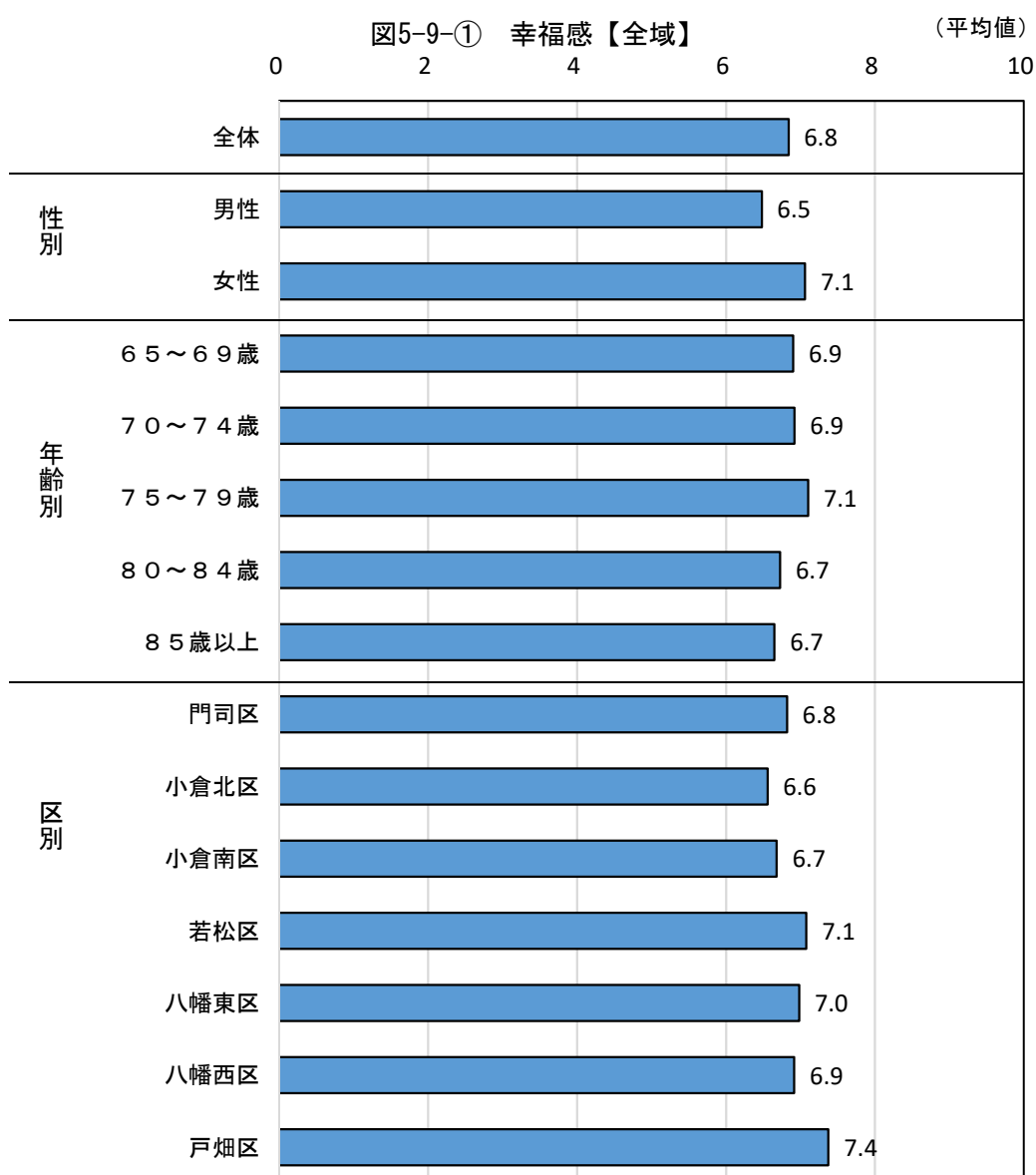
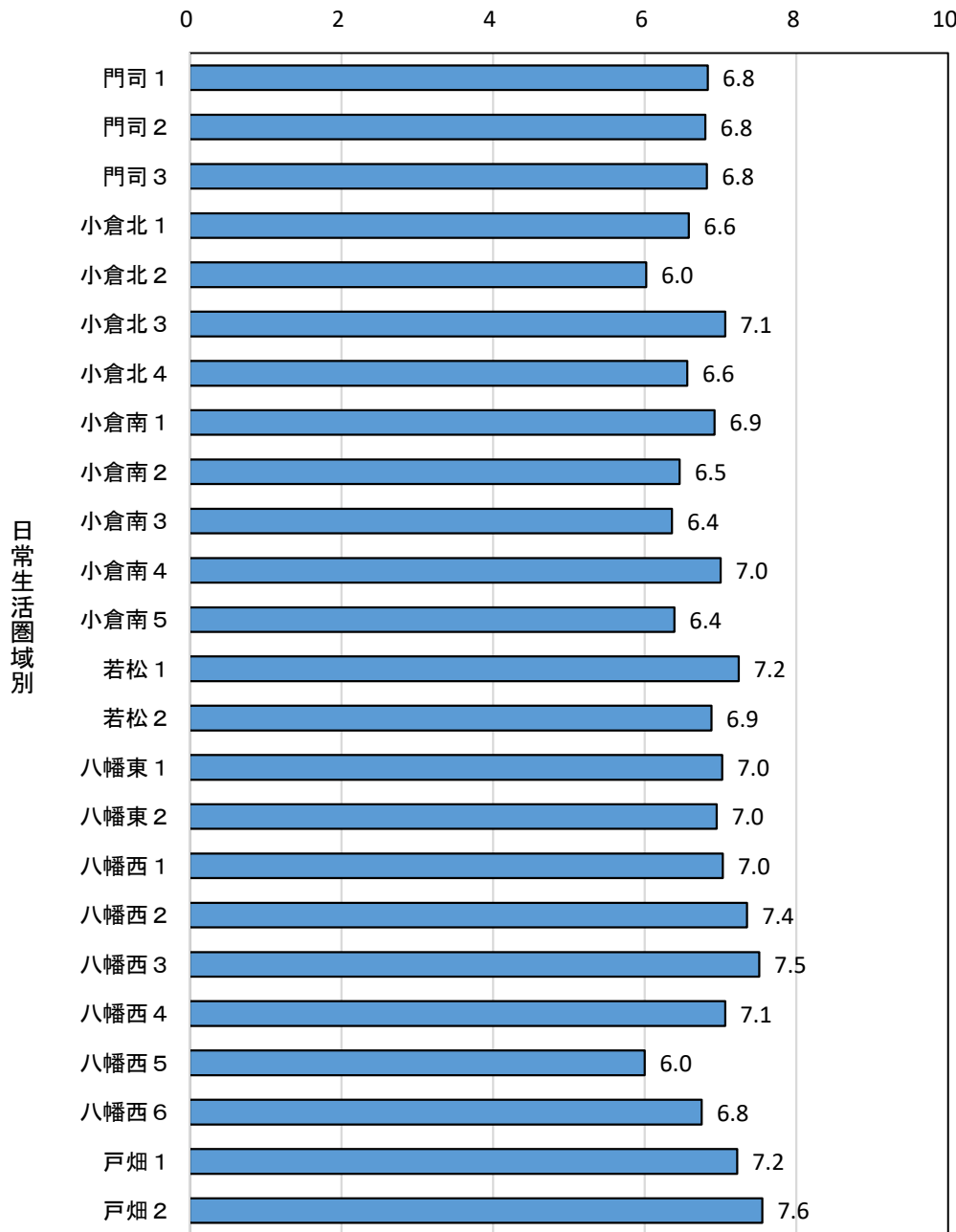


図5-9-② 幸福感【日常生活圏域別】

(平均値)



## 第6章 介護

### 1 介護・介助の状況

問1-Q2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

介護・介助の状況については、「介護・介助は必要ない」の割合が53.9%で最も高い。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は19.6%、「現在、何らかの介護を受けている（家族などの介護）」22.7%となっている。

「介護・介助は必要ない」の割合を男女別にみると、男性が61.7%、女性が49.8%となっており、男性の方が11.9ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって割合が低くなっている。

図6-1-① 介護・介助の状況【全域】

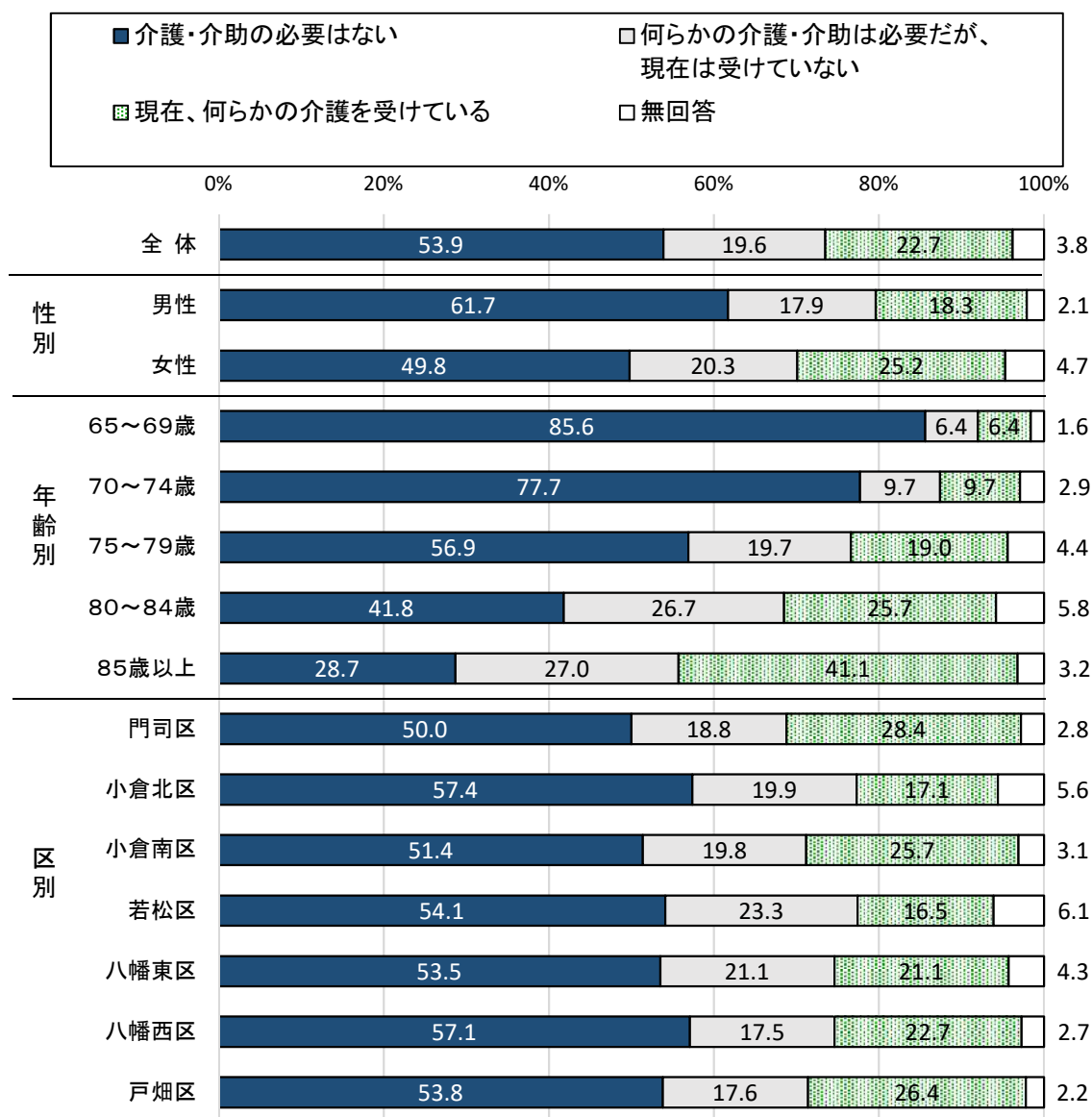


図6-1-② 介護・介助の状況 【日常生活圏域別】

